

平成二十四年度

学生実態調査「大学院」

報告書 筑波大学



まえがき

このたび、「平成 24 年度筑波大学大学院学生実態調査報告書」が発行される運びとなりました。筑波大学の大学院生を対象とした実態調査は、昭和 58 年度（1983）と昭和 63 年度（1988）に学群と同様の内容で実施されました。また平成 7 年度（1995）には大学院生を対象とした調査が初めて別途実施され、その 13 年後の平成 20 年度（2008）にも実施されました。ちなみに平成 21 年は大学院入学生数が学群の入学生数を初めて上回った年で、大学院生の実態や意向をより正確に把握し、生活支援や研究教育支援の質を高める必要が強まりました。そのために平成 22 年度（2010）からは 2 年に 1 度、調査を実施することになりました。実施にあたっては、各支援室並びに各教育組織の協力はいうまでもありませんが、学生生活支援室と学生部が中心となって、それに調査項目の設計や解析を専門とする教員の参加を得ております。日常業務に追われる中、短期間でまとめていただいた皆様に心からお礼申し上げます。

今回の調査において、特に留意したのは次の 5 点です。1) 学生生活支援向上に資するデータの取得、2) グローバル化に関する学生意識の把握、3) 留学生へ配慮した英文調査票の準備、4) 質問項目の精選、5) 正確な情報を得るための悉皆調査と自由記述欄の設置。

調査は印刷物を用い、回答肢に印を付けてもらう、最も回答しやすい方法としました。残念ながら筑波キャンパスでは回答率は 32.7%、東京キャンパスでは回答率 19.18%と、どちらも前回より下がってしまいました。特に東京キャンパスでの回答率の向上は今後の課題です。

調査結果は報告書で配布する他、ホームページにも載せ、学内の教職員ならびに学生はもとより、必要に応じて学外にも公表していきます。教職員におかれましては、各指標の経年変化に現れる学生意識の変遷を踏まえて、関係部署との連携を図りながら、支援の質の向上に活用していただくよう、お願い申し上げます。

最後に今回も本報告が無事刊行できる運びとなりましたのは、加賀学生生活支援室長はじめ関係者の努力に負うところ大です。心から感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月

学生担当副学長 鈴木 久 敏

目 次

まえがき

概要

平成 24 年度学生実態調査（大学院）概要	1
-----------------------------	---

筑波地区

筑波大学大学院学生実態調査票	7
----------------------	---

第 1 章 あなた自身について

18

1.1 性別・年齢・所属・在籍年次（問 1～4）	18
1.2 外国人留学生について（問 5）	19
1.3 社会人の経験について（問 6）	20
1.4 職場の理解について（問 7）	21
1.5 筑波大学大学院を志望した主な理由について（問 8）	22
1.6 入学前の大学・大学院について（問 9）	23
1.7 現在の住まいについて（問 10）	24
1.8 学生宿舎への入居希望について（問 11）	25
1.9 現在の居住地について（問 12）	26

第 2 章 生活全般について

27

2.1 主たる家計支持者について（問 13）	27
2.2 奨学金の受給について（問 14）	28
2.3 「つくばスカラシップ」制度について（問 15）	29
2.4 「つくばスカラシップ」の利用希望について（問 16）	30
2.5 希望する経済支援について（問 17）	31
2.6 1ヶ月の収入について（問 18）	32
2.7 収入源について（問 19）	33
2.8 1ヶ月の平均的な生活費、研究活動費について（問 20）	34
2.9 アルバイトの研究・学修への影響について（問 21）	35
2.10 1週間の過ごし方について（問 22）	36
2.11 学生宿舎についての満足度について（問 23・24）	38
2.12 学生宿舎での生活について（問 25）	39
2.13 現在の日常の生活の満足度について（問 26）	40

第3章 通学・事故等について	41
3.1 通学手段について (問 27)	41
3.2 通学時間について (問 28)	42
3.3 キャンパス交通システム【学内循環バスの利用頻度について】 (問 29)	43
3.4 自転車事故について (問 30)	44
3.5 交通事故 (自転車事故を除く) について (問 31)	45
3.6 盗難被害について (問 32)	46
3.7 傷害等の被害について (問 33)	47
3.8 カルト宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘について (問 34)	48
3.9 教員によるセクハラ、アカハラについて (問 35)	49
第4章 健康状態について	50
4.1 健康状態について (問 36)	50
4.2 悩みごとについて (問 37)	51
4.3 精神的な健康状態について (問 38)	52
第5章 相談相手について	53
5.1 相談相手について (問 39)	53
第6章 サークル活動について	54
6.1 サークル活動について (問 40)	54
6.2 サークル活動の動機について (問 41)	55
第7章 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について	56
7.1 教員に期待することについて (問 42)	56
7.2 教育面や制度面で充実してほしい点について (問 43)	58
7.3 整備・充実してほしい施設について (問 44)	59
7.4 学内の福利厚生施設の満足度について (問 45)	60
7.5 キャンパス内でのマナーについて (問 46)	61
第8章 進路や就職活動について	62
8.1 修了後の進路について (問 47)	62
8.2 修了後の外国での就労希望について (問 48)	64
8.3 進路決定の理由について (問 49)	65
8.4 将来の進路についての感じ方について (問 50)	66
8.5 就職活動の情報源について (問 51)	67

8.6	指導教員への相談について (問 52)	68
8.7	就職活動の学習・研究への影響について (問 53)	69
第9章 その他		70
9.1	学修や研究・生活に関わる情報源について (問 54)	70
9.2	相談機関について (問 55)	71
9.3	学内広報誌について (問 56)	72
9.4	学外研修施設について (問 57)	73
第10章 自由記述		74
【資料】平成24年度筑波大学大学院学生 実態調査データ集計表 <全体>		80
東京地区		
筑波大学大学院学生実態調査票 (東京地区)		97
第1章 あなた自身について		103
1.1	性別・年齢・所属・在籍年次 (問 1～4)	103
1.2	外国人留学生について (問 5)	104
1.3	社会人の経験について (問 6)	104
1.4	職場の理解について (問 7)	105
1.5	筑波大学大学院を志望した主な理由 (問 8)	106
1.6	入学前の大学・大学院について (問 9)	107
1.7	現在の住まいについて (問 10)	108
1.8	現在の居住地について (問 11)	108
第2章 生活全般について		109
2.1	主たる家計支持者について (問 12)	109
2.2	奨学金の受給 (問 13)	110
2.3	「つくばスカラシップ」制度について (問 14)	110
2.4	「つくばスカラシップ」の利用希望について (問 15)	111
2.5	希望する経済支援 (問 16)	111
2.6	収入源について (問 17)	112
2.7	生活費や研究活動費について (問 18)	113
2.8	起床時刻と就寝時間について (問 19)	114
2.9	登校時の夕食について (問 20)	115

2.10	在校中の食事について (問 21)	115
2.11	日常生活の満足度について (問 22)	116
第 3 章	通学・ハラスメント等について	117
3.1	職場からの通学時間について (問 23)	117
3.2	教員によるセクハラ、アカハラ、パワハラについて (問 24)	118
第 4 章	健康状態について	119
4.1	健康状態について (問 25)	119
4.2	悩みごとについて (問 26)	120
4.3	精神的な健康状態について (問 27)	121
第 5 章	相談相手について	122
5.1	相談相手について (問 28)	122
5.2	相談しやすい人との接触頻度について (問 29)	123
第 6 章	筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について	124
6.1	教員に期待することについて (問 30)	124
6.2	教育面や制度面で充実して欲しい点について (問 31)	125
6.3	整備・充実して欲しい施設について (問 32)	126
第 7 章	その他	127
7.1	学修や研究・生活に関わる情報源について (問 33)	127
7.2	相談機関について (問 34)	128
7.3	学外研修施設の利用について (問 35)	129
第 8 章	自由記述	130
【資料】	平成 24 年度筑波大学大学院学生 実態調査 (東京地区) データ集計表 < 全体 >	133

平成 24 年度学生実態調査（大学院）概要

1. これまでの実態調査の実施と目的

筑波大学では、学群学生に対して1978年（昭和53年）度から2008年（平成20年）度まで5年毎に「学生生活実態調査」を実施した。一方、大学院学生に対しては、第2回（1983年度）と第3回（1988年度）に学群学生と同一の調査票を用いて調査が行われたが、第4回（1993年度）の調査では、学群学生と同一の調査票を用いることは適切でないとの理由から、大学院学生は調査の対象から外されている。その代わりとして、2年後（1995年度）に第5回学生生活実態調査が行われ、この時は大学院学生のみを対象として調査が実施された。しかし、その後の第6回（1998年度）と第7回（2003年度）の調査は、再び学群学生のみを対象として行われた。そして、2008年（平成20年）度に学群学生向けの調査と同時に、大学院学生には「生活等に関するアンケート調査」として、13年ぶりの調査が行われた。

その後、学生生活支援室では、実態調査の実施について再検討を行い、学生生活支援の質をさらに向上させるためには、よりきめ細かな生活実態および学生の要望・提言等の把握が重要になること、また、大学院修士課程、博士前期課程が2年間の課程であることを踏まえれば、5年間隔の調査では不十分であること、などの理由により、2年に1度の間隔で実態調査を実施する旨の案を作成し、平成21年度第7回大学院教育会議において基本的な了解を得ることができた。このような経緯で、2010年（平成22年）度に大学院学生実態調査が行われ、さらに2年後の今年度（平成24年）に実施されることになったわけである。なお、上述のように、学群学生に対する調査も同時に実施され、その結果は別冊子『平成24年度学生生活実態調査（学群）報告書』としてまとめられている。

今回の実態調査の目的は、調査票の冒頭に掲げたように、「大学院学生の生活・教育・研究環境の実態を把握し、本学大学院学生の生活の一層の向上および教育・研究環境の改善に資すること」である。

2. 実施方法の検討と調査項目の設定

学生生活支援室では、2012年4月に入るとすぐに学生実態調査の準備にとりかかった。第2回学生生活支援室会議において、室長から学生実態調査の実施に向けて、室員全員への協力要請があり、併せて、日程や方法について、1) 実態調査を2012年9月に実施すること、2) 大学院全学生を対象とすること、3) 回答は調査票に直接記入する方式とすること、4) 東京キャンパスに本拠を置く研究科・専攻については、筑波キャンパスと異なる調査票の作成を検討すること、などを決定している。第3回会議では、前回の調査票をもとに、設問項目についての検討を開始した。第5回会議では、設問の追加案および削除案の提案をうけて、慎重な検討を行った。第6回会議には、すべての設問について再度の検討を行い、7月上旬までに第1次案を作成することができた。

調査項目の設定においては、回答率を向上させるためにも、設問総数を増やさないことが重要であるとの認識から、項目を厳選する作業を続けた。その結果、前回調査で58問であった調査項目は、今回は57問（自由記述を除く）となっている。今回新たに加えられた項目としては、グローバル化の流れをうけて「あなたは卒業後、外国で働きたいと思いますか」の設問と、自転車事故の多発をうけて「過去1年間で、自転車事故の経験はありますか」（他の交通事故とは分けて独立の項目とした）の設問である。削除されたものとしては、「TWINSの満足度」や「アルバイトの種類」を尋ねる設問などがある。支援室員の意見として、学生の回答に要する時間を考慮すると、さらに設問を減らすべきとの声も多かったが、経年変化をみるなどの要請もあり、さらなる厳選は次回への課題として残った形である。なお、「自由記述」については、学生が答えやすいように、また、集計の便宜を考えて、「制度に対する要望」「教職員に対する

要望」「施設に対する要望」などを備えた分類表を載せるという工夫を行った。小項目には、「カリキュラム」「キャリア・就職支援」「宿舎」「駐輪場」など17項目を用意したので、日頃の意見や要望をまとめる際に役だったかと思われる。

東京地区の調査票については、7月上旬までにまとめられた第1次案をもとに、ビジネス科学研究科および関係する専攻の先生方、事務職員の方に検討を依頼し、東京地区の実情に合わせて設問を修正していただいた。東京地区の調査票では、「在校中に食事を済ませる場合の方法」を尋ねる設問が新しい項目である。時間的に余裕のない日程であったが、7月中には東京地区の調査票案をまとめていただいた。ビジネス科学研究科長を始め、関係した教職員の方々に感謝を申し上げたい。

以上のような準備作業を経て、平成24年度第4回大学院教育会議（7月17日開催）に「平成24年度筑波大学大学院学生実態調査」の実施案が提案され、調査の実施が了承された。また、各研究科の学生担当教員には、電子メールで実施案および調査票案が提示され、意見の聴取が行われた。大学院教育会議の委員および学生担当教員から調査票および実施方法についていくつかの意見・要望が出されたため、それに応じて調査票の修正などの作業を行った。同時に、増加する留学生からもできるだけ多く回答を求めするため、英文の調査票を用意することとし（前回から）、業者に英文翻訳作業を委託した。最終的に8月末までに、筑波地区と東京地区の調査票のそれぞれについて日本語版と英語版とを確定させ、実施の細部について詰めの作業を行った。調査は、学群学生向けの調査と同時に実施するため、混乱を招かないように、大学院学生向けの調査票は黄色（学群学生向けの調査票は青色）にすることとした。また、前回同様、情報の秘匿性を確保するため、回答後に調査票を封印する保護シールを用意した。

3. 調査の実施

9月上旬に調査票が各研究科・各専攻に届けられ、9月5日（水）から各教育組織の実情に合わせて配布および回収が開始された。実施期間は9月28日（金）までとした。実施期間中、またその後の回収作業においても、トラブルなど問題になることはなく、とりわけ学生部学生生活課と各支援室・専攻事務室の担当事務員の方々のご尽力により、スムーズに調査を実施することができたのはたいへん有難かった。ただし、回収率は全体で31.3%（筑波地区32.7%、東京地区19.1%）に留まり、前回の37.1%（筑波地区38.1%、東京地区27.8%）よりも低下してしまった。とりわけ東京地区での回答が減少しており、改善が望まれる。

4. 調査結果の分析と報告書の作成

10月上旬に調査票の回収を終え、データの集計を業者に委託した。データ集計は12月下旬までに終了し、集計結果が戻ってきたが、多少の修正作業などがあり日数を要したため、学生生活支援室員と学生部職員による各項目の分析と報告書の作成は、1月に入ってからになってしまった。しかし、報告書の原稿が2月上旬までにはほぼ出揃い、編集と全体の統一に関する作業を行い、2月下旬には原稿を印刷所に入稿することができた。

本報告書の原稿は、以下に記した学生生活支援室員および関係部局の方々に用意していただいたが、様々な角度からデータの分析を行い、要領よく原稿を作成していただいたことに感謝したい。

なお、本報告書では、表記等において以下のような工夫を施している。

- 1) グラフにはできるだけ、回答率等の数字をいれることにしたが、小さい数値でスペースが確保できないところでは、数字を省略している場合がある。
- 2) 表において、注意を喚起したい数値については、黄色で表示している部分がある。

3) 回答率の表示では、原則、%を省いている。小数点下一桁の数字は、回答率であるご理解いただきたい。

また、今回から、巻末に【資料】として「実態調査データ集計表（全体）」を掲載することとした。ご活用いただければ幸いです。

執筆分担：

概要	加賀 信広（人文社会系）
問(1)～問(6)【問 1～問 6】	加賀 信広（人文社会系）
問(7)～問(12)【問 7～問 11】	丹藤 勝次（学生部学生生活課）
問(13)～問(17)【問 12～問 16】	学生部学生生活課
問(18)～問(22)【問 17～問 21】	小松原哲郎（数理物質系）
問(23)～問(25)	学生部学生生活課
問(26)～問(29)【問 22～問 23】	大澤 良（生命環境系）
問(30)～問(34)	学生部学生生活課
問(35) 【問 24】	大澤 良（生命環境系）
問(36)～問(39)【問 25～問 29】	杉江 征（人間系）
問(40)～問(41)	大川 敬子（医学医療系）
問(42)～問(44)【問 30～問 32】	大川 敬子（医学医療系）
問(45)	学生部学生生活課
問(46)	吉田 右子（図書館情報メディア系）
問(47)～問(53)	山岸 由紀（キャリア支援室）
問(54)～問(57)【問 33～問 35】	吉田 右子（図書館情報メディア系）
自由記述	住大 恭康（人文社会系） 大原 央聡（芸術系） 樽川 典子（人文社会系） 梅本 通孝（システム情報系）

※【 】は東京地区調査票の設問番号

筑波地区

平成24年度 筑波大学大学院学生実態調査

この調査は、筑波大学大学院学生の生活・教育・研究環境の実態を把握し、本学大学院学生の生活の一層の向上および教育・研究環境の改善に資することを目的として実施するものです。
今回の調査対象者は、筑波大学大学院に在籍する学生全員です。
この調査は無記名で、他の目的に用いることはありませんので、ありのままを記入してください。
調査結果は、調査報告書として公表し、必要な方策を講じる予定です。
この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

平成24年 9月
筑波大学 副学長（学生担当） 鈴木 久敏

記入の方法などについて

- ①回答は、すべてこの調査用紙（次頁から全10ページ）に記入してください。
- ②回答は、番号を選ぶ選択方式と、具体的に記入または記述するものがあります。
番号選択方式の場合は該当する番号に○を付けてください。記入または記述の場合は指定された欄に書き込んでください。
- ③氏名・学籍番号などあなた自身を特定し得る情報を書く必要はありません。回収した調査用紙は無記名のまま統計的に処理されます。
- ④平成24年9月1日現在で記入してください。
- ⑤ご記入がすべて終了しましたら、右側の剥離テープを剥がして密封してください。

提出期間

平成24年9月5日（水）～9月28日（金）

回収方法

記入が済んだ調査用紙は、大学院学生実態調査「回収箱」に投函してください。回収箱は、エリア支援室および専攻事務室等にあり、どの回収箱に投函していただいてもかまいません。

問い合わせ先

この調査についてのご質問・ご意見等は、下記までご連絡ください。

学生生活支援室 TEL 029-853-2465

I. あなた自身について

問1. あなたの性別〔1つだけ〇〕

1. 男性 2. 女性

問2. あなたの年齢〔1つだけ〇〕

1. 24歳以下 2. 25～29歳 3. 30～34歳 4. 35～39歳 5. 40歳以上

問3. あなたが所属する研究科等に〇を付け、在籍する専攻名を記入してください。

- | | | | |
|-----------------|----------------------------------|-------------------|----------------------------------|
| 1. 教育研究科 | <input type="text" value="専攻名"/> | 2. 人文社会科学研究科 | <input type="text" value="専攻名"/> |
| 3. 数理物質科学研究科 | <input type="text" value="専攻名"/> | 4. システム情報工学研究科 | <input type="text" value="専攻名"/> |
| 5. 生命環境科学研究科 | <input type="text" value="専攻名"/> | 6. 人間総合科学研究科 | <input type="text" value="専攻名"/> |
| 7. 図書館情報メディア研究科 | | 8. その他（グローバル教育院等） | |

問4. あなたは筑波大学大学院に在籍して何年目（休学および留学した期間を含めてください）ですか。〔1つだけ〇〕

- | | | | | | | |
|-----------|--------|--------|----------|----------|--------|----------|
| ①修士課程の | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目以上 | | | |
| ②博士前期課程の | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目以上 | | | |
| ③博士後期課程の | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目 | 4. 4年目以上 | | |
| ④一貫制博士課程の | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目 | 4. 4年目 | 5. 5年目 | 6. 6年目以上 |
| ⑤3年制博士課程の | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目 | 4. 4年目以上 | | |
| ⑥専門職学位課程の | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目 | 4. 4年目以上 | | |

問5. あなたは外国人留学生ですか。〔1つだけ〇〕

1. 外国人留学生である 2. 外国人留学生ではない

問5で「1. 外国人留学生である」を選択された方にお聞きます

問5-①. 留学のタイプはどれですか。〔1つだけ〇〕

1. 私費留学生 2. 文部科学省国費留学生 3. 文部科学省以外の日本の団体等の奨学生
4. 自国の奨学生 5. その他

問6. 社会人の経験はありますか。〔1つだけ〇〕

1. 社会人経験がある 2. 社会人経験はない

問6で「1. 社会人経験がある」を選択された方にお聞きます

問6-①. 現在の在職状況について〔1つだけ〇〕

1. 現在も在職中 2. 現在は休職中 3. 退・辞職し、現在、定職はない
4. 定職はなかった 5. その他

問6-①で「1. 現在も在職中」「2. 現在は休職中」を選択された方にお聞きます

問7. 筑波大学大学院に入学するにあたって職場の理解は得られていますか。〔いくつでも〇〕

1. 学費の負担を含め、全面的に得られている 2. 就学に支障のない程度に得られている
3. 職場の休職制度を利用 4. 職場の派遣制度を利用 5. 職場のその他の制度を利用
6. 職場には秘密にしている 7. その他

問8. 筑波大学大学院を志望した主な理由について〔3つまで〇〕

- 1. 研究領域に魅力がある
- 2. 教育内容が優れている
- 3. 希望する分野がある
- 4. 指導教員の資質・能力、指導体制が優れている
- 5. 研究室の雰囲気に魅力がある
- 6. 教育・研究施設が優れている
- 7. 幅広い専門が学べる
- 8. 学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している
- 9. 修了後の進路など就職に有利である
- 10. 修了年限の弾力的な運用がある
- 11. 親や指導教員などから勧められた
- 12. 実家から通える
- 13. 資格などが取りやすい
- 14. その他

問9. あなたが筑波大学大学院に入学する前に在籍していた大学または大学院について〔1つだけ〇〕

- 1. 筑波大学・大学院
- 2. 日本国内の他大学・大学院
- 3. 日本国外の大学・大学院

問10. あなたの現在の住まいについて〔1つだけ〇〕

- 1. 筑波大学学生宿舎
- 2. 民間のアパート・マンションなど
- 3. 親と同居
- 4. 親戚・知人宅
- 5. その他

問10で「1. 筑波大学学生宿舎」以外（2.～5.）を選択された方にお聞きます

問11. 学生宿舎への入居を希望していますか。〔1つだけ〇〕

- 1. 希望する
- 2. 希望しない

問10で「1. 筑波大学学生宿舎」以外（2.～5.）を選択された方にお聞きます

問12. あなたの現在の居住地について〔1つだけ〇〕

- 筑波大学外でつくば市内
- 1. 天久保
- 2. 春日
- 3. 桜
- 4. 柴崎
- 5. 吾妻
- 6. その他
- つくば市以外で茨城県内
- 7. 県南地域
- 8. 県西地域
- 9. その他
- 茨城県外で関東地方
- 10. 東京都
- 11. 千葉県
- 12. 埼玉県
- 13. その他
- その他の地域
- 14. その他

II. 生活全般について

問13. あなた、もしくは、あなたの家族の主たる家計支持者はどなたですか。〔1つだけ〇〕

- 1. あなた自身
- 2. 配偶者
- 3. 父親・母親
- 4. 両親以外の親族
- 5. その他

問14. あなたは奨学金などを受給していますか。〔いくつでも〇〕

- 1. 受けていない
- 2. 日本学生支援機構の奨学金
- 3. 私費外国人留学生学習奨励費
- 4. 地方公共団体の奨学金
- 5. 日本の民間団体・財団などの奨学金
- 6. 日本学術振興会の特別研究員
- 7. 文部科学省国費留学生
- 8. 自国政府の奨学金（留学生の場合）
- 9. その他

問15. 本学独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」をご存じですか。〔1つだけ〇〕

- 1. 知っている
- 2. 知らない ⇨

※「知らない」方は、大学公式HP「教育・学生生活」→「奨学制度・修学支援」のサイトに掲載してありますのでご覧ください。

問15で「1. 知っている」を選択された方にお聞きます

問16. 「つくばスカラシップ」の利用を希望しますか。〔1つだけ〇〕

- 1. 希望する
- 2. 希望しない ⇨

問16で「1. 希望する」を選択された方にお聞きます

問16-①. 利用を希望する支援内容について〔いくつでも〇〕

- 1. 留学生支援 2. 海外留学支援 3. 国際的医学研究人養成コース支援 4. 緊急支援

問16で「1. 希望する」を選択された方にお聞きます

問16-②. 「つくばスカラシップ」についてのご意見・ご要望など〔文字回答〕

問17. 大学に希望する経済支援は何ですか。〔いくつでも〇〕

- 1. 給付型（返還義務なし）奨学金 2. 貸与型（返還義務あり）奨学金 3. 授業料免除
- 4. 一時貸付金 1. 授業料のため 2. 生活費のため 3. その他
- 5. その他 具体的に 6. 特に希望しない

問18. あなたの1カ月の収入はどれくらいですか。今年4月以降で臨時的な収入を除いた1カ月の平均でお答えください。〔1つだけ〇〕

- 1. 6万円未満 2. 6～9万円未満 3. 9～12万円未満 4. 12～15万円未満
- 5. 15～18万円未満 6. 18～25万円未満 7. 25～30万円未満 8. 30万円以上

問19. あなたの1カ月の平均的な収入の収入源はどのようなものですか。〔いくつでも〇〕

- 1. 有職者としての給与 2. 奨学金 3. 仕送り
- 4. 筑波大学でのTA・TF（ティーチング・アシスタント、ティーチングフェロー）
- 5. 筑波大学でのRA（リサーチ・アシスタント） 6. 指導教員から頼まれた学内でのアルバイト
- 7. 「4」～「6」以外の学内でのアルバイト 8. 他大学での非常勤講師
- 9. 民間会社の契約社員や派遣社員 10. 筑波大学以外での定常的なアルバイト
- 11. 筑波大学以外での不定期なアルバイト 12. 借入金 13. 貯金

14. その他 具体的に

問20. 平均的な1カ月の生活費や研究活動費などは充分ですか。〔1つだけ〇〕

- 1. 充分である 2. まあまあ足りている 3. ぎりぎりである 4. 不足している

問20で「4. 不足している」を選択された方にお聞きます

問20-①. 生活費や研究活動費などで不足しているものは何ですか。〔いくつでも〇〕

- 1. 授業料の納入ができない 2. 研究時間確保でアルバイトができない
- 3. 研究用資料・書籍が購入できない 4. IT環境を整備できない 5. 学会・研究会などに行けない
- 6. 研究のための調査に行けない 7. 研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない

8. その他 具体的に

「今年度4月以降に筑波大学以外でアルバイトをした方」にお聞きます

問21. アルバイトに費やされる時間は研究・学修の妨げになっていますか。〔1つだけ〇〕

- 1. かなり妨げになっている 2. 多少妨げになっている 3. 妨げになっていない

問22. 平均的な1日または1週間の過ごし方について〔各数値回答〕

	1日での平均	1週間での平均
① 授業・学習・実習・研究等の時間	時間	
② 睡眠時間	時間	
③ サークル・ボランティアなどの活動時間		時間
④ アルバイト、就業時間		時間

「学生宿舎に入居している方」にお聞きます

問23. 入居している学生宿舎についてお聞きます。〔各1つだけ○/文字回答〕

①居室のタイプ

1. 単身宿舎 2. 世帯宿舎 3. 二人室

②学生宿舎の地区

1. 平砂地区 2. 追越地区 3. 一の矢地区 4. 春日地区

③学生宿舎の棟名

号棟

※学生宿舎は現在、改修工事が進行中ですが、改修効果等を知るため、差し支えなければお答えください。

「学生宿舎に入居している方」にお聞きます

問24. 入居している学生宿舎の満足度についてお聞きます。〔各1つだけ○/文字回答〕

	満 足	ま あ 満 足	普 通	や や 不 満	不 満
① 料 金	1	2	3	4	5
② 居 室	1	2	3	4	5
③ 補食室	1	2	3	4	5
④ トイレ	1	2	3	4	5
⑤ 洗濯室（ランドリー）	1	2	3	4	5
⑥ 浴 場	1	2	3	4	5
⑦ コインシャワー	1	2	3	4	5
⑧ 外 灯	1	2	3	4	5
⑨ 出入口の施錠	1	2	3	4	5
⑩ 売店・食堂	1	2	3	4	5
⑪ 管理事務所の対応	1	2	3	4	5
⑫ 全体として	1	2	3	4	5

学生宿舎において不便を感じていることがあればお書きください。

「学生宿舎に入居している方」にお聞きます

問25. 学生宿舎での生活についてお聞きます。〔各1つだけ○〕

①近隣の入居者との関係は

1. よく会話する 2. ときどき会話する 3. あいさつを交わす程度 4. ほとんど会話しない

②留学生居住者との交流はありますか（留学生の方の場合は、日本人居住者との交流）

1. よくある 2. ときどきある 3. あまりない 4. 全くない

③「学生宿舎コミュニティリーダー」制度を知っていますか

1. 知っている 2. 知らない

④「学生宿舎コミュニティリーダー」制度は必要であると思いますか

1. 必要である 2. 学群新入生居住棟以外の棟にも必要である

3. 必要ではない

理由

なお、コミュニティリーダーは学群新入生の支援および防犯促進等のために学群2年生が務めており、学群新入生居住棟（一の矢5号棟・20号棟・21号棟を除く）に配置されています。

⑤今年度の宿舎祭に参加しましたか

1. 企画で参加した（イベントや模擬店など） 2. 来場者として参加した
3. 参加しなかった

問26. 現在の日常生活に、全体として満足していますか。〔1つだけ〇〕

1. かなり満足 2. おおむね満足 3. どちらとも言えない 4. 少し不満 5. かなり不満

Ⅲ. 通学・事故等について

問27. あなたが1回の通学のために利用している交通手段はどのようなものですか。〔各4つまで〇〕

		雨天時	雨天以外
①	徒 歩	1	1
②	自転車	2	2
③	バイク（原付を含む）	3	3
④	自家用車	4	4
⑤	キャンパス交通システム（学内循環バス）	5	5
⑥	学内循環バス以外の路線バス	6	6
⑦	つくばエクスプレス（TX）	7	7
⑧	JR常磐線	8	8
⑨	その他① <input type="text" value="具体的に"/>	9	9
⑩	その他② <input type="text" value="具体的に"/>	10	10

問28. 雨天の日以外のあなたの通学時間は片道どのくらいですか。〔1つだけ〇〕

1. 15分未満 2. 15分～30分 3. 30分～45分 4. 45分～1時間
5. 1時間～1時間半 6. 1時間半～2時間 7. 2時間以上

問29. キャンパス交通システム（学内循環バス）の利用頻度はどのくらいですか。〔1つだけ〇〕

1. ほぼ毎日 2. 週に2～3回 3. 月に2～3回
4. 年に数回 5. いままで数回 6. 利用したことはない

問30. 過去1年間で（新生は大学院入学後）、自転車事故の経験はありますか。〔いくつでも〇〕
また事故のおおよその場所（例えば、ベテ・ループ道路・学外など）をお答えください。

1. 事故の経験はない 2. 加害者になったことがある
3. 被害者になったことがある 4. 自損事故の経験がある

問31. 過去1年間で（新生は大学院入学後）、交通事故（自転車事故を除く）の経験はありますか。〔いくつでも〇〕

1. 事故の経験はない 2. 加害者になったことがある
3. 被害者になったことがある 4. 自損事故の経験がある

問32. 大学院入学後、盗難の被害に遭ったことがありますか。〔いくつでも〇〕
また被害に遭った方は、盗難物と具体的な場所をお答えください。

1. 被害に遭ったことはない
2. 学内で被害に遭った →
3. 学生宿舎内で被害に遭った →
4. 学外で被害に遭った →

問33. 大学院入学後、引ったくりや暴行・傷害・たかり・恐喝などの被害に遭ったことはありますか。〔いくつでも〇〕

1. 被害に遭ったことはない 2. 学内で被害に遭った 3. 学生宿舎内で被害に遭った
 4. つくば市内で被害に遭った 5. その他の場所で被害に遭った

問34. カルト宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘についてお尋ねします。〔各1つだけ〇〕

- ①大学院入学後、勧誘を受けて嫌な思いをしたことがありますか。
 1. ある 2. ない
 ②大学院入学後、他の人が勧誘を受けて困っているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。
 1. ある 2. ない

問35. 大学院入学後、教員によるセクシャルハラスメント（セクハラ）やアカデミックハラスメント（アカハラ）、その他のハラスメント（アルコールハラスメント、パワーハラスメント、モラルハラスメント等）を感じたことはありますか。〔各いくつでも〇〕

	セクハラ	アカハラ	その他のハラスメント
① 感じたことはない	1	1	1
② 感じたことがあるが誰にも話をしていない	2	2	2
③ 感じたことがあり親しい友人に話した	3	3	3
④ 感じたことがあり知り合いの教員に話した	4	4	4
⑤ 研究科・専攻のハラスメント担当教員に話した	5	5	5
⑥ 全学に設置されているハラスメント相談員に話した	6	6	6
⑦ その他 <input type="text" value="具体的に"/>	7	7	7

IV. 健康状態について

問36. あなたの過去1年間の健康状態について〔いくつでも〇〕

1. 健康である 2. 健康不良で数日寝込んだ（受診・入院を除く） 3. 身体の病気で受診・入院した
 4. 精神的な問題で受診・入院した 5. 心理的な問題で相談機関を利用した 6. けがで受診・入院した
 7. その他

問37. あなたは、過去1年間にどのようなことで困ったり悩んだりしましたか。〔いくつでも〇〕

1. 学業や研究の不振 2. 単位修得の問題 3. 休学・退学 4. 転研究科・転専攻
 5. 進路 6. 就職 7. 友人との関係 8. 教員との関係
 9. 研究室内の問題 10. サークル内の問題 11. 恋愛関係 12. 家族関係
 13. 自分の性格 14. 自分の精神的・心理的状态 15. 自分の身体的病気・けが等の状態
 16. 経済状態 17. ハラスメント 18. その他
 19. 特になし

問38. 次の事柄について、過去1年間のあなたの感じ方に最も近いのはどれですか。〔各1つだけ〇〕

	はとまてもあて	ま少しあては	はあまりない	ま全くない
① 自分のやりたいことができている	1	2	3	4
② 何となく不安になることがある	1	2	3	4
③ 自分のことをよく分かってくれている人がいる	1	2	3	4
④ 何をやってもうまくいかない気がする	1	2	3	4
⑤ 気分がゆううつである	1	2	3	4
⑥ 「死にたい」と思ったことがある	1	2	3	4
⑦ 大学生活が充実している	1	2	3	4

V. 相談相手について

問39. あなたが重要なことを話したり、悩みを相談する人はどなたですか。話したり相談しやすい順に1番目～3番目に各1つお答えください。また、その人たちと話す機会は普段どのくらいありますか。
(電話やメールも含みます)

	A. 相談する人			B. 話をする機会			
	1番目	2番目	3番目	頻繁にある	少しある	あまりない	ほとんどない
① 家族	1	1	1	1	2	3	4
② 恋人	2	2	2	1	2	3	4
③ 友人(学内)	3	3	3	1	2	3	4
④ 友人(学外)	4	4	4	1	2	3	4
⑤ 先輩・後輩(学内)	5	5	5	1	2	3	4
⑥ 先輩・後輩(学外)	6	6	6	1	2	3	4
⑦ 教員	7	7	7	1	2	3	4
⑧ その他 <input type="text" value="具体的に"/>	8	8	8	1	2	3	4
⑨ 特にいない	9	9	9	1	2	3	4

VI. サークル活動について

問40. 大学院学生になってからのサークル活動について〔1つだけ〇〕

現在活動中

1. 正式メンバーで 2. コーチ・顧問などで 3. その他
4. 以前、活動していた 5. 活動したことはない

「現在、サークル活動をしている」「以前していた」方にお聞きます

問41. サークル活動の動機はどのようなものですか。〔いくつでも〇〕

1. 友人が欲しくて 2. 知識・教養のため 3. 健康のため 4. 技術向上のため
5. 団体生活を経験したい 6. 趣味と一致 7. 余暇の利用のため 8. レクリエーションの一環で
9. 希望の進路と同じで有益 10. 就職などにプラス 11. 大学時代からの継続 12. 勧誘されて
13. 社会貢献のため 14. その他

VII. 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について

問42. 筑波大学の教員に最も期待することはどのようなことですか。〔1つだけ〇〕

1. 優れた研究者であって欲しい 2. 授業内容を充実させて欲しい 3. もっと解りやすく教えて欲しい
4. 研究指導の時間を確保して欲しい 5. ハラスメントの問題に敏感になって欲しい
6. 研究成果を教育の現場にもっと反映して欲しい
7. その他

問43. 教育面や制度面で充実してほしいと思うのはどのようなことですか。〔3つまで〇〕

1. 教育研究スタッフ 2. カリキュラム 3. 講演会等課外教育プログラム 4. 留学制度
5. 授業料免除等の経済的支援 6. 就職活動の支援 7. 教員との懇談会
8. 支援室や事務室の対応 9. メンタル面に関する支援
10. その他

問44. キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいのはどれですか。〔3つまで〕

1. 教室・実験室 2. 図書館 3. IT環境 4. 体育施設 5. 課外活動施設
 6. セキュリティ 7. 駐車場 8. 駐輪場 9. 学内循環バス 10. ペDESTリアン
 11. 外灯 12. その他

具体的に

問45. 学内の福利厚生施設の満足度についてお答えください。〔各1つだけ〕
 また、その満足度について特に理由があればご記入ください。

	満足度					理由 特に理由があればご記入ください
	満足	まあ満足	普通	やや不満	不満	
① 食堂	1	2	3	4	5	
② 喫茶	1	2	3	4	5	
③ パン販売	1	2	3	4	5	
④ 書店	1	2	3	4	5	
⑤ 画材	1	2	3	4	5	
⑥ その他売店	1	2	3	4	5	
⑦ 自動販売機	1	2	3	4	5	

現在の学内の食堂や売店等に不便を感じたり、改善してほしい点があればお書きください。

問46. 筑波大学生のキャンパス内でのマナーに関して、向上を望みたいことはどのようなことですか。〔いくつでも〕

1. 運転マナー 2. 駐輪マナー 3. 飲酒マナー 4. 談話室等共有スペースの利用マナー
 5. 喫煙マナー 6. その他

具体的に

7. 特になし

VIII. 進路や就職活動について

問47. あなたの修了後の進路についてお聞きます。〔1つだけ〕

進学等

1. 筑波大学大学院 2. 国内の他大学大学院 3. 海外の大学院 4. その他
 5. 研究員、研究生等（本学特別研究員・日本学術振興会・研究生等）

具体的に

就職

6. 企業 7. 大学教員 8. 小・中・高校の教員 9. 公務員 10. 自営・起業
 11. その他

具体的に

復職

12. 企業 13. 大学教員 14. 小・中・高校の教員 15. 公務員 16. 自営
 17. その他

具体的に

18. その他 19. 決まっていない 20. まだ考えていない

問48. あなたは修了後、外国で働きたいと思いますか。〔1つだけ〕

1. 強くそう思う 2. ややそう思う 3. 分からない
 4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きます

問49. あなたが進路を決めた(決める)主な理由はどのようなことですか。〔2つまで〇〕

1. やりがい 2. 社会的貢献 3. 年収 4. 安定した生活 5. 自分の能力や適性
 6. 専門知識を深める 7. 大学院での学修の活用 8. 大学院での研究の活用 9. 社会的評価
 10. 将来性 11. 地理的利便性 12. その他

具体的に

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きます

問50. 将来の進路について、あなたの感じ方に最も近いのはどれですか。〔各1つだけ〇〕

	はよ ま く あ て	はや ま や る あ て	いも ど い ち え ら な と	な て あ い は ま り あ	い は ま く ら な て
① 将来の進路について、とても関心をもっている	1	2	3	4	5
② 働くことについて、真剣に考えたことがない	1	2	3	4	5
③ 将来の進路決定では、周囲の雰囲気流されることはない	1	2	3	4	5
④ 職業生活を充実させるには、自分自身の責任が大きいと思う	1	2	3	4	5
⑤ 希望する進路に進むための具体的な計画を立てている	1	2	3	4	5
⑥ 希望する進路は決まっているが、それに向けての努力は特にしていない	1	2	3	4	5

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きます

問51. 就職活動に役立つ主な情報源は何ですか。〔3つまで〇〕

1. 指導教員 2. 専攻などの就職委員 3. ゼミの同輩・先輩 4. 就職課・キャリア支援室
 5. スチューデントプラザの就職資料コーナー 6. 大学の情報提供システム
 7. 大学の就職ガイダンス 8. 就職情報誌 9. 企業からのDM 10. インターネット
 11. インターンシップ 12. OB・OG 13. その他

具体的に

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きます

問52. 修了後の進路を考えるにあたり指導教員に相談しましたか。〔1つだけ〇〕

1. たびたび相談した 2. 時々相談した 3. ほとんど相談していない 4. 相談はしていない
 5. 相談しようとしたが断られた 6. その他

具体的に

「就職活動をした」「就職活動中」の方にお聞きます

問53. 就職活動によって、大学での学習・研究に支障が出ましたか。〔1つだけ〇〕

1. 支障は全く出ていない 2. 支障はほとんど出ていない
 3. 支障が多少は出ている 4. 支障がとても出ている

IX. その他について

問54. 学修・研究や生活に関わる一般的な情報を得ようとするとき、主に誰に、あるいはどこにアクセスしますか。〔3つまで〇〕

1. 指導教員 2. 研究科・専攻の事務職員 3. 友人等 4. 研究科・専攻の掲示板
 5. TWINS掲示板 6. 大学のHP 7. 研究科・専攻等のHP 8. 専攻等のメーリングリスト
 9. SNS (social networking service) 10. その他

具体的に

問55. 筑波大学には、学生生活の中で生じる様々な問題について、相談できる機関や制度があります。それぞれの利用状況についてお聞きます。〔各1つだけ〇〕

	と 利 が あ し る た こ	て な 利 い ど 用 を の 知 仕 方	て 存 在 を 知 っ	な 存 在 を 知 ら
① 保健管理センター学生相談室	1	2	3	4
② 保健管理センター精神科	1	2	3	4
③ 総合相談窓口(スチューデントプラザ及び春日)	1	2	3	4
④ ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”	1	2	3	4
⑤ ハラスメント相談員制度	1	2	3	4

問56. 定期的に読む学内広報誌は何ですか。〔いくつでも〕

- 1. 筑波大学新聞
- 2. つくばスチューデント
- 3. Campus
- 4. 筑波スポーツ
- 5. TSUKUBA SPORTS NEWS FLASH (TSA)
- 6. その他
- 7.どれも読まない

問57. 筑波大学の学外研修施設（山中・館山・石打）を利用したことがありますか。〔1つだけ〕

- 1. ある → 回位/年
- 2. ない
- 3. 存在を知らない

学外研修施設について要望等があればお書きください。

X. 自由記述

問58. 筑波大学大学院の教育・研究環境や学生生活全般に対する要望や提言等を自由に記入してください。
なお、以下の分類表から該当する項目を選び、記号を記した上で箇条書きにしてください。
〔文字回答〕

◎分類表

A	制度等に対する要望	(A1)カリキュラム、(A2)学生生活支援、(A3)経済支援、(A4)キャリア・就職支援、(A5)その他
B	教職員に対する要望	(B1)教員に対して、(B2)事務職員に対して、(B3)その他
C	施設に対する要望	(C1)研究環境、(C2)IT、(C3)図書館、(C4)宿舎、(C5)食堂・売店、(C6)駐輪場、(C7)ペデ・道路等、(C8)その他
D	その他	(D)その他

分類	教育や学生生活全般に対する要望や提言等
C5	【記入例】食堂のメニューをもっと充実してほしい。

質問は以上で終了です。ご協力いただき誠にありがとうございました。
回答内容をよく確認の上、右側の剥離テープを剥がし、調査票を密封してください。

第1章 あなた自身について

1.1 性別・年齢・所属・在籍年次（問1～4）

- ◎大学院学生（筑波地区）の在籍数は5,929名。
- ◎年齢別構成は、前回とほぼ同様。30歳以上は13.5%。

まず基本的事項として、性別（問1）・年齢（問2）・所属研究科（問3）・年次（問4）について尋ねた。結果は、表1.1.1および表1.1.2にまとめた通りである。

大学院学生の在籍数（平成24年9月1日現在）は全体として6,632名で、前回調査時（平成22年9月）よりも128名（1.9%）減となっている。この内、筑波地区の大学院学生は5,929名である。筑波地区における在籍学生数の男女比は、男性3,848名（64.9%）に対して、女性2,081名（35.1%）である。2年前は、男性66.7%、女性33.3%であったから、女性の割合が少し増えたことになる。

回答率については、筑波地区で32.7%となり、前回調査の回答率38.1%をかなり下回った。男女別では、回答数の割合が、男性64.4%、女性35.6%と男女の在籍数の割合とほぼ同じである。研究科でみると、教育、図情メディア、グローバル教育院で高く、人文社会と人間総合で低くなっている。

回答者について年齢別に見てみると、年齢が上がるにつれて学生数は減少する傾向にあるが、40歳以上の学生だけは、35歳～39歳の学生より多くなっている。研究科別では、人文社会の平均年齢が少し高めであることが目につく。ちなみに、30歳以上の大学院生は、前回は14.5%で、今回は13.5%となっている。

表 1.1.1 回答者数（研究科別、男女別、年齢別、人間総合科学研究科は東京地区を除く）

研究科名	在籍数	回答者数	回収率	男性	女性	無回答	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以上	無回答
教育	230	146	63.5%	89	57	0	101	18	7	6	13	1
人文社会	607	148	24.4%	53	95	0	42	58	31	9	8	0
数理解物質	856	278	32.5%	235	43	0	177	80	13	6	2	0
シス情	1,184	458	38.7%	402	56	0	315	121	12	5	5	0
生命環境	1,127	393	34.9%	212	181	0	226	120	23	11	13	0
人間総合	1,709	408	23.9%	208	200	0	172	157	36	22	21	0
図情メ	200	89	44.5%	41	48	0	46	27	3	4	9	0
グローバル教育院	16	14	87.5%	6	8	0	7	7	0	0	0	0
白紙・無回答		5		2	2	1	2	0	1	1	0	1
合計	5,929	1,939	32.7%	1,248 64.4%	690 35.6%	1 0.1%	1,088 56.1%	588 30.3%	126 6.5%	64 3.3%	71 3.7%	2 0.1%

表 1.1.2 回答者数（在籍年次別）

		回答数			回答数
修士課程	1年目	285	一貫制博士課程	1年目	27
	2年目	243		2年目	11
	3年目以上	16		3年目	16
博士前期課程	1年目	418		4年目	11
	2年目	401		5年目	11
	3年目以上	25		6年目以上	14
博士後期課程	1年目	120	3年制博士課程	1年目	21
	2年目	107		2年目	24
	3年目	89		3年目	27
	4年目以上	48		4年目以上	4
				無効・無回答	21

1.2 外国人留学生について（問5）

◎全体の19.2%が外国人留学生。

「あなたは外国人留学生ですか」の問いに、全体で373名（19.2%）が「外国人留学生」と回答している。無回答が0.9%があったが、回答者のうちの約2割が外国人留学生ということになる。

平成24年9月1日現在で、在籍する正規留学生は1,174名（そのうち女性595名）であるので、留学生の回答率は31.8%ということになる。

留学生のうちの58.7%（全体の11.3%）が「私費留学生」であり、「文部科学省国費留学生」がそれに次ぎ、20.4%を占める。「文部科学省以外の日本の団体等の奨学生」ならびに「自国の奨学生」が、それぞれ9.9%と5.6%である。男女別では、在籍数でも回答者数でも、女性の方が多くなっている。

研究科別にみると、留学生が多い研究科は、（グローバル教育院は除くこととして）人文社会（47.3% [研究科の全回答数に対する留学生の割合。以下同様。]）が飛びぬけており、生命環境（23.2%）と図情メディア（19.1%）が続く。留学生の内訳に関しては、人文社会と生命環境において国費留学生の割合が高い点が注目される。

前々回および前回の調査（平成20年度と22年度）では、外国人留学生の割合が全体で11.5%と18.4%であったので、前回ほどではないが、留学生の割合が増えたという結果である。研究科別では、人文社会と図情メディアで留学生の割合が伸びている。

表 1.2 外国人留学生（研究科別、男女別、全体）

	外国人留学生 ではない		外国人留学生である										無効・無回答		
			私費留学生		文科省国費		日本団体奨学生		自国の奨学生		その他				計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
教育	136	93.7	8	5.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	1	0.7
人文社会	77	52.0	37	25.0	24	16.2	3	2.0	0	0.0	5	3.4	70	1	0.7
数理物質	225	80.9	26	9.4	4	1.4	8	2.9	5	1.8	7	2.5	51	2	0.7
シス情	376	82.1	61	13.3	12	2.6	4	0.9	3	0.7	0	0.0	81	1	0.2
生命環境	299	76.1	41	10.4	23	5.9	13	3.3	13	3.3	1	0.3	91	3	0.8
人間総合	359	88.0	30	7.4	4	1.0	7	1.7	1	0.2	0	0.0	43	6	1.5
図情メ	71	79.8	15	17.9	2	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	17	1	1.1
グローバル	3	21.4	1	7.1	7	50.0	2	14.3	0	0.0	1	7.1	11	0	0.0
男性	1,064	85.3	100	8.0	30	2.4	14	1.1	12	1.0	12	1.0	171	13	1.0
女性	485	70.3	119	17.2	46	6.7	23	3.4	10	1.4	2	0.3	202	3	0.4
全体	1,549	79.9	219	11.3	76	3.9	37	1.9	22	1.1	14	0.7	373	17	0.9

1.3 社会人の経験について（問6）

◎全体の19.7%が社会人の経験あり。

「社会人の経験がありますか」の問いに対して、社会人の経験が「ある」と答えた者の割合は19.7%である。「なし」と答えた者が78.9%、無回答が1.4%であった。前々回の調査（平成20年度）では20.6%、前回の調査（平成22年度）は22.4%であったので、少し減少したという結果になっている。

社会人経験のあるものの中では、「現在も在職中」のものは31.9%（全体の6.4%）、「現在休職中」の者は12.4%（全体の2.4%）である。内訳として最も多いのは、「退・辞職し、現在、定職はない」者で、47.6%（全体の9.4%）である。前回の調査では、在職中27.3%、休職中8.8%、退・辞職51.5%であったので、今回、在職中と休職中が少し増え、退・辞職者が少し減った結果になっているが、それほど大きな変化ではない。

研究科別にみると、何らかの形で社会人の経験を持つ学生の多い研究科は、人文社会（35.8%）、人間総合（30.8%）、図情メディア（28.0%）である。この中では、人文社会はこの2年間で社会人経験者が3.4%増（4年前からは11.1%増）となっており、増加が目立っている。また、同研究科では、「退・辞職し、現在、定職はない」者が69.8%（全体の25.0%）となっており、高い割合を占めている。

社会人経験者の割合が低い研究科は、数理物質（10.4%）、シス情（12.0%）、生命環境（13.7%）である。

表 1.3 社会人の経験（研究科別、男女別、全体）

	社会人経験 はない		社会人経験がある										無効・無回答		
			在職中		休職中		退・辞職		定職はなし		その他				計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
教育	110	75.3	16	11.0	4	2.7	12	8.2	1	0.7	2	1.4	35	1	0.7
人文社会	94	63.5	3	2.0	7	4.7	37	25.0	4	2.7	2	1.4	53	1	0.7
数理物質	245	88.1	11	4.0	4	1.4	11	4.0	2	0.7	0	0.0	29	4	1.4
シス情	397	86.7	15	3.3	7	1.5	28	6.1	3	0.7	1	0.2	55	6	1.3
生命環境	331	84.2	18	4.6	14	3.6	17	4.3	4	1.0	1	0.2	54	8	2.0
人間総合	278	68.1	43	10.5	9	2.2	65	15.9	4	1.0	5	1.2	126	4	1.0
図情メ	63	70.8	14	15.7	1	1.1	9	10.1	0	0.0	1	1.1	25	1	1.1
グローバル	10	71.4	1	7.1	0	0.0	2	14.3	0	0.0	0	0.0	3	1	7.1
男性	1,042	83.5	77	6.2	25	2.0	71	5.7	11	0.9	7	0.6	191	15	1.2
女性	487	70.6	45	6.5	21	3.0	111	16.1	7	1.0	5	0.7	191	12	1.7
全体	1,529	78.9	122	6.3	46	2.4	182	9.4	18	0.9	12	0.6	382	28	1.4

1.4 職場の理解について（問7）

- ◎全体の7割は職場の理解を得られている。
- ◎職場の制度を利用した割合は23.3%と前回から微増。

問(6)で「現在も在職中」または「現在は休職中」と答えた者（全体の8.7%）に対して、「筑波大学大学院に入学するにあたって職場の理解は得られていますか」と尋ねた。全体で「学費の負担を含め、全面的に得られている」、「就学に支障がない程度に得られている」と70.2%が職場の理解を得られている。特に、「学費の負担を含め、全面的に得られている」男性の割合が前回（15.6%）に比べて24.5%に増加している。

職場の制度を利用している大学院生は、休職制度（15.5%）、派遣制度（5.4%）その他の制度（2.4%）を合わせて23.3%で、2年前の前回（19.9%）に比べると微増している。

研究科別にみると、教育研究科では、職場の派遣制度利用者が30.0%、人文社会では、職場の休暇制度利用者が50.0%と際立っている。

また、全体の年度別推移をみると、学費の負担を含めて全体的に職場の理解を得ている学生の割合が漸増傾向にあり、同様に職場の休職制度・派遣制度を利用する学生も漸増傾向にある。職場で大学院レベルの教育が必要とされてきていることが推測される。

図 1.4.1 職場の理解（研究科別、男女別、留学生の別、全体、%）

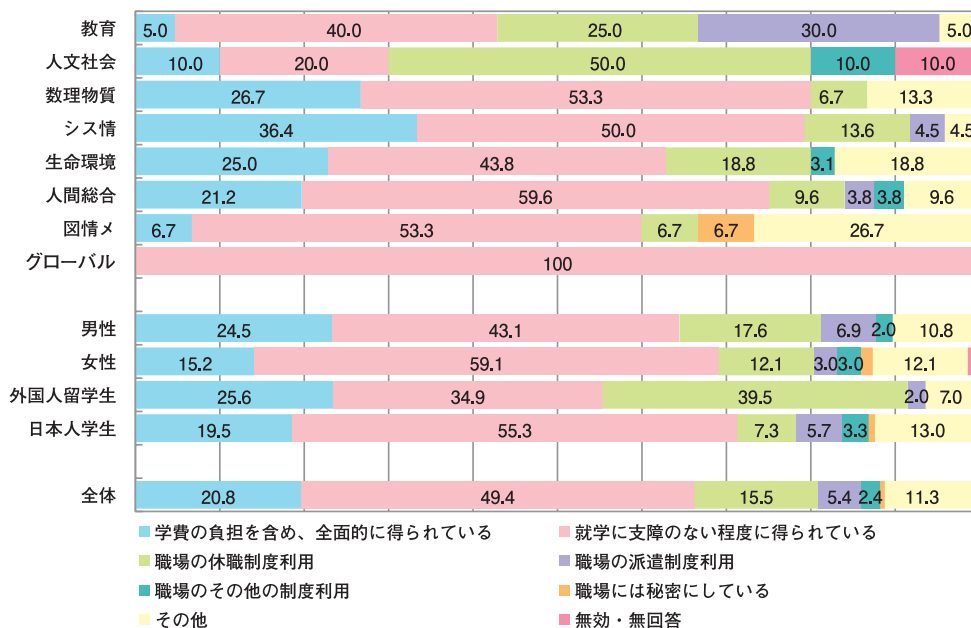
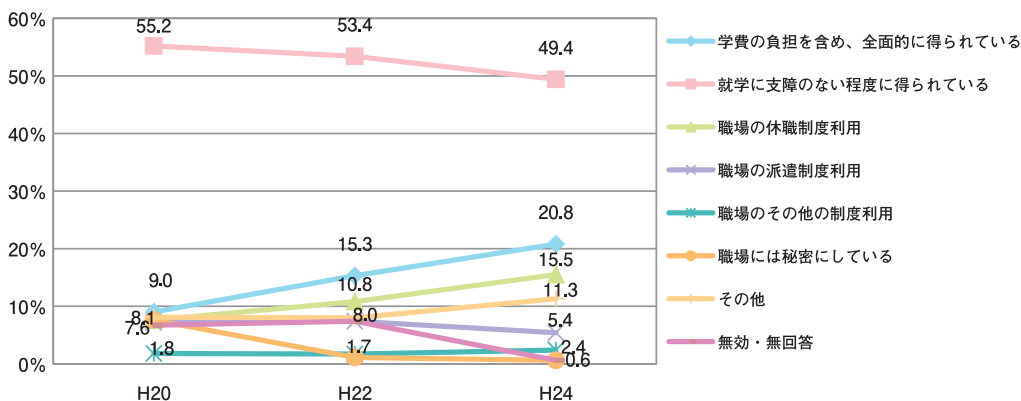


図 1.4.2 年度別推移（全体）



1.5 筑波大学大学院を志望した主な理由について（問 8）

◎志望理由として多いのは「研究領域」、「希望分野」、「指導教員」。

◎留学生の「経済的な支援体制の充実」を挙げた割合が、日本人学生の3倍。

筑波大学大学院を志望した理由について14項目の中から3つ以内の選択で回答してもらった。志望動機の中で最も多かったのは「研究領域に魅力がある」（47.2％）であり、次いで「希望する分野がある」（44.7％）、「指導教員の資質・能力、指導体制が優れている」（35.5％）となっている。

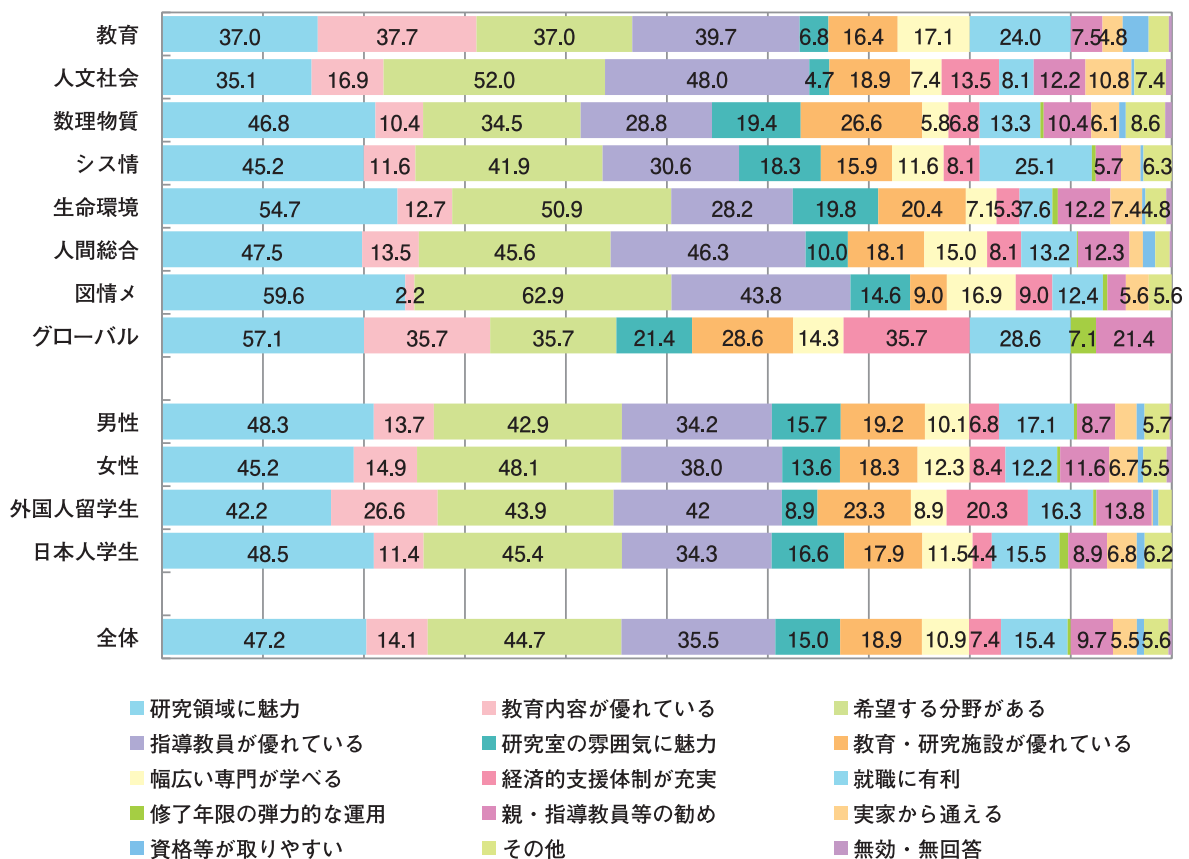
それ以外の理由を選んだ学生はいずれも全体の2割以下であり、筑波大学大学院進学者の多くは、大学の教育・研究施設や学費等よりも、研究環境に重きを置いて進学先を決めていることがうかがえ、その傾向に大きな経年変化は見られない。

研究科別にみると、研究科間に大きな差異は認められないが、教育研究科では「教育内容が優れている」が37.7％と他研究科（その他を除く）に比べて高くなっている。

また、留学生と日本人学生の区分で見ると、留学生の方が「経済的な支援体制の充実」を志望理由に挙げる割合が20.3％と、日本人学生（4.4％）よりも高いことがわかる。

本学独自の奨学金「つくばスカラシップ」や学生宿舎などにより、留学生に対する経済支援体制の充実を図っていることが一つの要因と推測される。

図 1.5 志望理由（研究科別、男女別、留学生の別、全体、％）



1.6 入学前の大学・大学院について（問9）

- ◎全体の半数以上が筑波大学・大学院出身。
- ◎他大学出身者が多いのは教育研究科および人文社会科学研究科。
- ◎男性に比べ女性の他大学出身者の割合が高い。

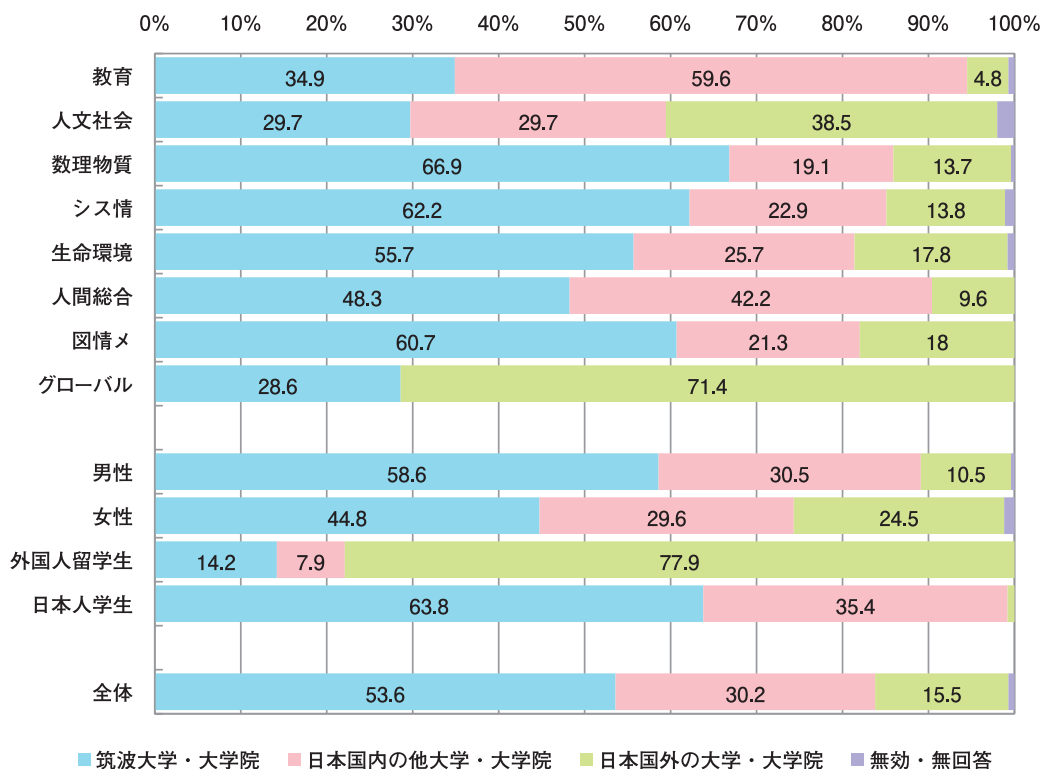
筑波大学大学院に入学する前の大学または大学院について尋ねた。全体の53.6%は筑波大学または筑波大学大学院に所属していた者であり、その他の日本国内の他大学・大学院は30.2%、国外の大学・大学院は15.5%である。

男女別にみると、女性の他大学出身者の割合（54.1%）が男性（41.0%）より高く、特に国外の大学・大学院出身者の割合が前回（20.7%）から24.5%と増えている。

研究科別にみると、筑波大学・大学院出身者が多い研究科は、数理物質（66.9%）、シス情（62.2%）、図情メディア（60.7%）である。特に、図情メディアは、2年前の前回（49.4%）に比べて10ポイント以上増加している。

また、教育研究科では国内の他大学・大学院出身者が59.6%と高く、人文社会は国外の大学・大学院出身者が38.5%と、他研究科（グローバル教育院を除く）に比べて高くなっている。ただし、日本人学生のうち外国の他大学・大学院出身者は全体で0.8%とごく少数であるため、人文社会に占める留学生の割合が大きいことが、その結果にあらわれていると推測される。

図 1.6 入学前の大学または大学院（研究科別、男女別、留学生の別、全体）



1.7 現在の住まいについて（問 10）

- ◎大学院生の多く（65.5%）は民間のアパート・マンションに住んでいる。
- ◎男性に比べ女性の学生宿舎入居率が高い。
- ◎留学生と日本人学生の居住形態に明白な差異。

現在の住まいについて尋ねた。大学院生の65.5%は民間のアパート・マンションなどに住んでおり、次いで、「学生宿舎」が17.5%、「親と同居」が11.9%となっている。

男女別にみると、女性では、学生宿舎に居住の割合が24.9%と、男性の13.5%より10ポイント以上高いことがわかる。

次に、留学生と日本人学生の区分でみると、留学生は7割弱が学生宿舎に居住している一方で、日本人学生の学生宿舎居住率は1割に満たないという結果が得られた。これは、室数の限られた学生宿舎の入居の選抜にあたり、留学生が優先的に入居できるためと推測される。

また、大学院生全体の居住形態を年度別推移でみると、あまり大きな変化は見られないが、民間のアパート・マンションなどに居住する学生の割合が漸減傾向にあり、一方で学生宿舎に居住する学生の割合が増していることがわかる。

図 1.7.1 現在の住まい（全体、男女別、留学生の別）

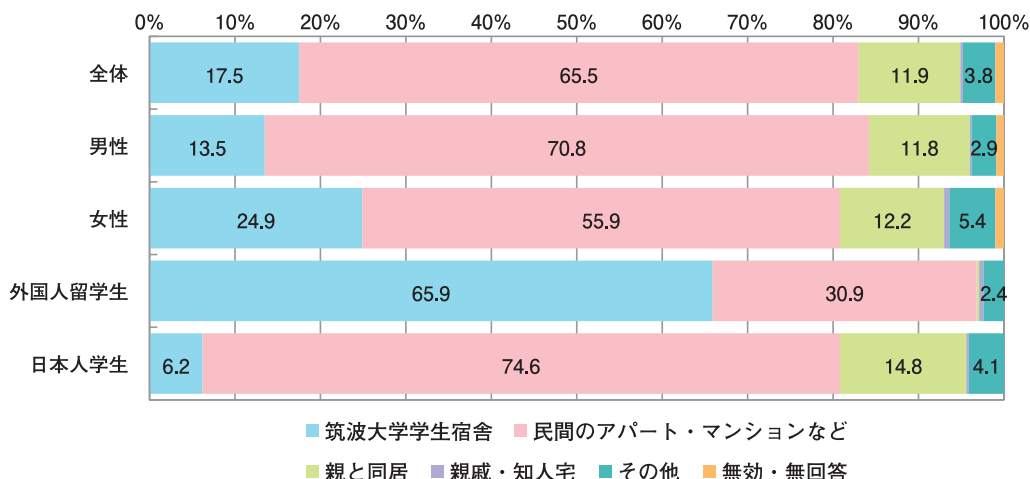
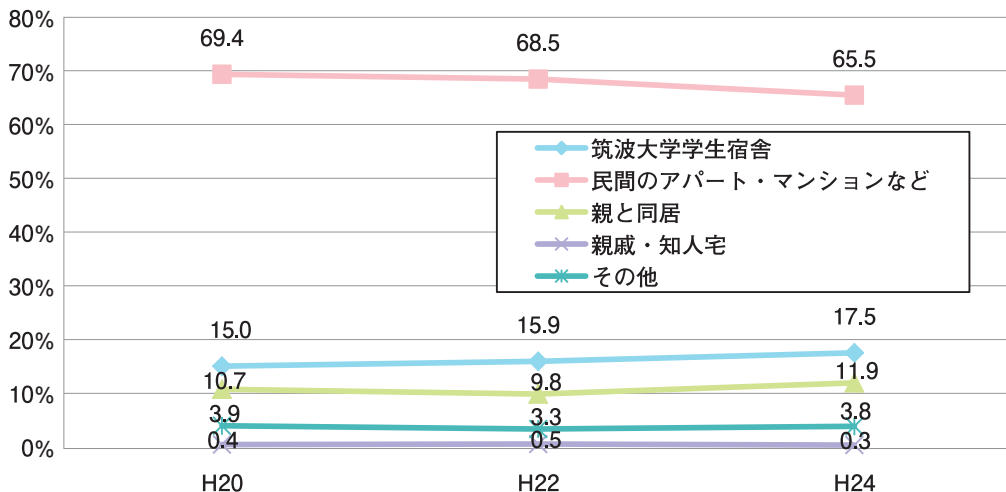


図 1.7.2 現在の住まい（年度別推移）



1.8 学生宿舎への入居希望について（問 11）

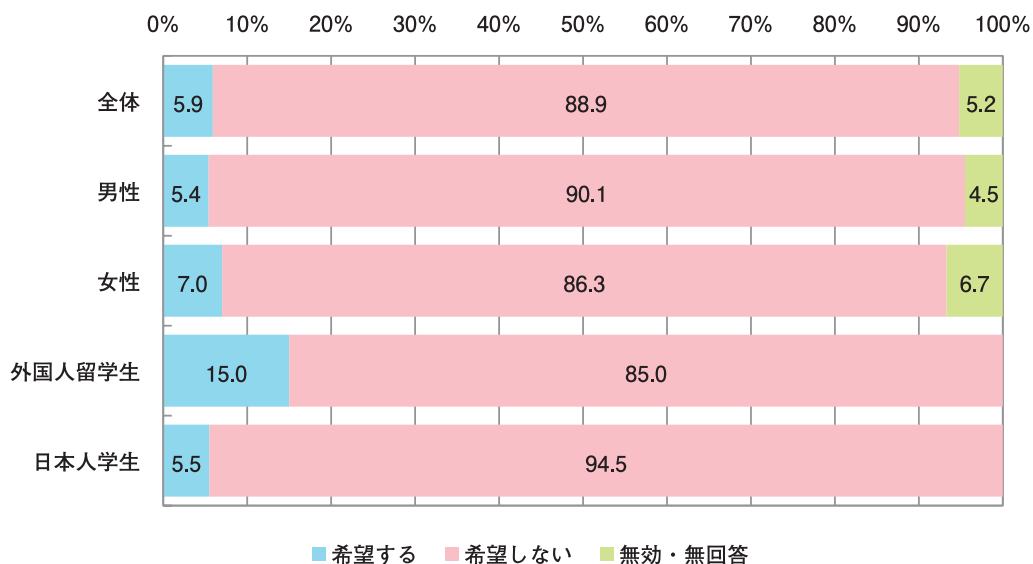
- ◎学生宿舎以外に居住している者で入居を希望しない割合が9割弱。
- ◎日本人学生に比べ、留学生の入居希望率が約3倍高い。

問(10)で現在筑波大学学生宿舎に住んでいない者に対して、入居希望について尋ねた。結果として、大半（88.9%）の大学院生は学生宿舎への入居を希望していない。しかし、割合は少ないながらも、90名程度の大学院生は学生宿舎への入居を希望しており、調査の回収率が4割未満であることを踏まえると、潜在的には200名程度の大学院生が学生宿舎の利用を望んでいる可能性がある。宿舎への入居を希望する理由としては、「宿舎費が安い」等の経済的な理由がほとんどであった。

研究科間で大きな差は見られず、入居を「希望する」と回答した割合は、いずれの研究科も1割に満たなかった。男女別にみると、女性の「希望する」割合が7.0%に対して、男性は5.4%と、やや低い結果となった。

また、留学生と日本人学生の区分でみると、宿舎への入居を希望する留学生は15.0%と、日本人学生の希望者が5.5%であるのに比べ、約3倍高くなっている。なお、問(10)でもふれたが、学生宿舎への入居を希望する留学生は、優先的に必ず入居できる仕組みとなっているため、ここで「希望する」と回答した留学生は、何らかの理由ではじめに学生宿舎には入居せず、民間のアパート等に居住している者と考えられる。

図 1.8 学生宿舎への入居希望（全体、男女別、留学生の別）



1.9 現在の居住地について（問 12）

- ◎大学院生の 76.0%、外国人留学生の 89.4%がつくば市内に居住。
- ◎男性に比べ、女性の茨城県外居住者の割合が高い。

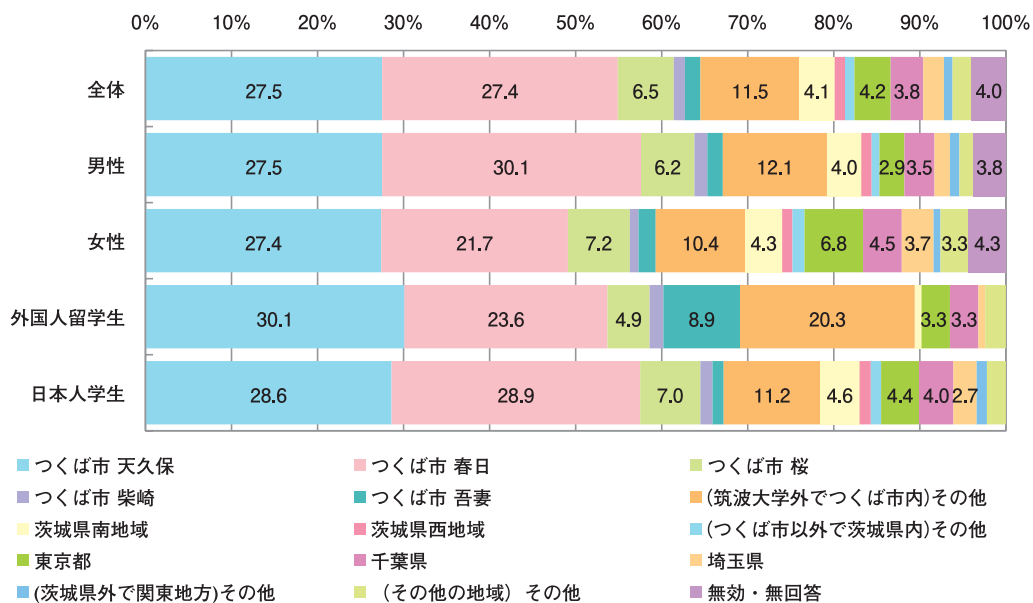
学生宿舎の居住者以外の大学院生に対して、現在の居住地について尋ねた。その結果、76.0%の大学院生がつくば市内に居住していることがわかった。なお、先の間(10)において、現在学生宿舎に住んでいる学生も含めると、大学院生全体のうち、つくば市内に居住している者の割合は 79.5%と約 8 割である。

もう少し細かくみると、つくば市内では「天久保」・「春日」で 54.9%、「桜」まで含めると 6 割以上となっている。この結果は、2 年前の前回（63.2%）と比較しても大きな差はなく、依然としてこの 3 地域に集中していることがわかる。

留学生のみをみると、約 9 割（89.4%）がつくば市内に居住していることがわかった。

また、男女別でみると、東京都・千葉県・埼玉県などの茨城県外に居住している割合が、男性が 10.9%であるのに対し、女性は 19.1%とやや高い結果があらわれた。

図 1.9 現在の居住地（全体、男女別、留学生の別、すべて%）



	つくば市 天久保	つくば市 春日	つくば市 桜	つくば市 柴崎	つくば市 吾妻	つくば市内 その他	茨城県南地域	茨城県西地域	茨城県内 その他
全体	27.5	27.4	6.5	1.3	1.8	11.5	4.1	1.2	1.1
男性	27.5	30.1	6.2	1.5	1.8	12.1	4.0	1.2	0.9
女性	27.4	21.7	7.2	1.0	2.0	10.4	4.3	1.2	1.4
外国人留学生	30.1	23.6	4.9	1.6	8.9	20.3	0.8	0.0	0.0
日本人学生	28.6	28.9	7.0	1.4	1.3	11.2	4.6	1.3	1.2

	東京都	千葉県	埼玉県	茨城県外で関東地方その他	その他	無効・無回答
全体	4.2	3.8	2.4	1.0	2.2	4.0
男性	2.9	3.5	1.8	1.1	1.6	3.8
女性	6.8	4.5	3.7	0.8	3.3	4.3
外国人留学生	3.3	3.3	0.8	0.0	2.4	0.0
日本人学生	4.4	4.0	2.7	1.2	2.2	0.0

第2章 生活全般について

2.1 主たる家計支持者について（問13）

◎博士課程の学生は、半数以上が独立生計者。

大学院全体では、主たる家計支持者が「本人」又は「配偶者」である場合は29.1%、「父親・母親」である場合は68.9%となっており、前回調査と比較すると主たる家計支持者が「父親・母親」である割合が3.2ポイント減っている。

課程別では、修士課程（博士前期課程および一貫制博士課程2年目までを含む）では「本人」又は「配偶者」が2割程度であるが、博士課程では「本人」又は「配偶者」が6割程度となっており、博士課程になると独立生計者が半数以上になっている。

外国人留学生では、主たる家計支持者が「本人」が39.0%、「配偶者」が7.1%であった。また、「父親・母親」である割合は50.1%であった。

表 2.1.1 家計支持者（全体）

		回答数	回答率
1	あなた自身	485	25.0
2	配偶者	79	4.1
3	父親・母親	1,336	68.9
4	両親以外の親族	11	0.6
5	その他	17	0.9
無効・無回答		11	0.6
合計		1,939	100.0

表 2.1.2 家計支持者（課程別）

	本人		配偶者		父親・母親		親族		その他		合計
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
修士課程相当	237	16.7	31	2.2	1,141	80.2	7	0.5	7	0.5	1,423
博士課程相当	243	49.7	47	9.6	186	38.0	4	0.8	9	1.8	489
計	480	25.1	78	4.1	1,327	69.4	11	0.6	16	0.8	1,912

表 2.1.3 家計支持者（外国人留学生とそれ以外）

	本人		配偶者		父親・母親		親族		その他		合計
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
外国人留学生	143	39.0	26	7.1	184	50.1	5	1.4	9	2.5	367
外国人留学生以外	340	22.0	53	3.4	1,141	73.8	6	0.4	7	0.5	1,547
計	483	25.2	79	4.1	1,325	69.2	11	0.6	16	0.8	1,914

2.2 奨学金の受給について（問 14）

◎大学院生の半数が何らかの奨学金を受けている。

何らかの奨学金を受給している大学院生の割合は全体の 52.4%であり、前回の調査より 4 ポイント低くなっている。

日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けている学生の割合は 38.4%で前回の調査の 42.1%より 3.7 ポイント低くなっている。奨学金受給者の内訳では、全体の 71%が日本学生支援機構の貸与型の奨学金受給者であるが、前回調査の約 74%と比較すると 3 ポイント、前々回調査と比較すると 11 ポイント低くなっている。日本学生支援機構（貸与型奨学金）以外の奨学金に依存する割合が年々増加している。

表 2.2 奨学金の受給（全体）

		回答数	回答率
1	受けていない	911	47.0
2	日本学生支援機構の奨学金	744	38.4
3	私費外国人留学生学習奨励費	31	1.6
4	地方公共団体の奨学金	12	0.6
5	日本の民間団体・財団等の奨学金	55	2.8
6	日本学術振興会の特別研究員	60	3.1
7	文部科学省国費留学生	82	4.2
8	自国政府の奨学金（留学生の場合）	23	1.2
9	その他	38	2.0
	無効・無回答	11	0.6
	合計	1,967	

2.3 「つくばスカラシップ」制度について（問 15）

◎ 「つくばスカラシップ」の認知度は 23.6%。

「つくばスカラシップ」に関する調査は 2 回目である。大学院生で「つくばスカラシップ」について「知っている」が 23.6%、「知らない」が 76.1%となっており、若干学群生よりも認知度が高いが、前回の調査より 1.6%ポイント「知っている」の割合が低くなっている。

外国人留学生では「知っている」が 30.7%となっており、外国人留学生以外の「知っている」の 22.0%と比較すると高い数値となっているが、学群生の場合ほど認知度は高くない。

更に、ホームページ等を活用した積極的な周知や修学支援の拡充が必要である。

表 2.3.1 「つくばスカラシップ」制度（全体）

		回答数	回答率
1	知っている	457	23.6
2	知らない	1,476	76.1
無効・無回答		6	0.3
合計		1,939	100.0

表 2.3.2 「つくばスカラシップ」制度（外国人留学生とそれ以外）

	知っている		知らない	
	回答数	回答率	回答数	回答率
外国人留学生	114	22.0	257	78.0
外国人留学生以外	340	30.7	1,208	69.3
合計	454		1,465	

2.4 「つくばスカラシップ」の利用希望について（問 16）

◎大学院生の3割が「つくばスカラシップ」の利用を希望している。

「つくばスカラシップ」の利用希望についての調査は今回が初めてである。大学院生全体では3割の学生が、外国人留学生では8割の学生が「つくばスカラシップ」の利用を希望している。利用希望者に占める各奨学支援の割合は、「留学生支援」が64.9%、「海外留学支援」が28.4%、「国際的医学研究人養成コース支援」が1.5%、「緊急支援」が23.9%である。

外国人留学生の場合は、スカラシップ利用希望者の95.5%が留学生支援を希望している。外国人留学生以外の場合は69.6%が海外留学支援を、また34.8%が緊急支援の利用を希望している。

「つくばスカラシップ」についての意見・要望として、受給枠の拡大を望む意見が多かった。

表 2.4.1 「つくばスカラシップ」制度の利用希望(全体)

		回答数	回答率
1	希望する	144	31.5
2	希望しない	307	67.2
無効・無回答		6	1.3
合計		457	100.0

表 2.4.2 「つくばスカラシップ」制度の利用希望（外国人留学生とそれ以外）

	スカラシップ 利用希望者	留学生支援		海外留学支援		国際的医学研究人 養成コース支援		緊急支援	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
外国人留学生	88	84	95.5	6	6.8	1	1.1	16	18.2
外国人留学生以外	46	3	6.5	32	69.6	1	2.2	16	34.8
計	134	87	64.9	38	28.4	2	1.5	32	23.9

2.5 希望する経済支援について（問 17）

◎大学院生の8割以上が何らかの経済支援を希望している。

希望する経済支援についての調査は2回目である。大学院生全体の8割以上の学生が何らかの経済支援を希望しており、希望する経済支援の項目は「給付型の奨学金」が64.5%、「授業料免除」が63.9%と高くなっている。授業料の支払いや生活費のために「一時貸付金」を希望する学生も6.3%あった。

外国人留学生では9割の学生が何らかの経済支援を希望しており、希望する項目としてはやはり「給付型の奨学金」及び「授業料免除」の希望者の割合が高い。また、外国人留学生以外の場合も「給付型奨学金」及び「授業料免除」を希望する割合が圧倒的に多く、貸与型奨学金を希望する者は僅かである。その他の希望としては、研究費補助や学会参加のための旅費の支援などがあった。

貸与奨学金よりも給付型の奨学金及び授業料免除の拡充が必要である。

表 2.5.1 大学に希望する経済支援（全体）

		全体	
		回答数	回答率
1	特に希望しない	397	17.2
2	給付型（返還義務なし）奨学金	1,331	57.5
3	貸与型（返還義務あり）奨学金	289	12.5
4	授業料免除	1,309	56.6
5	一時貸付金	146	6.3
6	その他	58	2.5
無効・無回答		23	1.0
合計		3,553	

表 2.5.2 大学に希望する経済支援（外国人留学生とそれ以外）

	経済支援希望者	給付型奨学金		貸与奨学金		授業料免除		一時貸付金		その他		特になし	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
外国人留学生	355	229	64.5	19	5.4	227	63.9	26	7.3	8	2.3	36	10.1
外国人留学生以外	1,528	957	62.6	204	13.4	905	59.2	105	6.9	29	1.9	225	14.7
計	1,883	1,186	63.0	223	11.8	1,132	60.1	131	7.0	37	2.0	261	13.9

2.6 1ヶ月の収入について（問18）

- ◎修士は平均 8.7 万円、博士は平均 14.2 万円の収入。
- ◎前回と比較し、収入はやや増加傾向か。

1ヶ月の収入について尋ねた。6万円未満が35.4%と最も多かったが、前回（2010年度）の調査では6万円未満が40.0%であったので、全体的に収入が減っているとは言えない。度数分布の中央値を期待値とし（6万円未満は期待値5万円、30万円以上は期待値35万円と仮定）荷重平均値を算出すると、今回は1ヶ月の収入の平均値は10.0万円と算定できた。前回の集計では9.7万円であったので、収入は横ばいか増加傾向である。

修士課程（博士前期課程を含む）と博士課程（後期）の比較を図2.6.2に示す。博士課程の学生は18～25万円にピークがある。荷重平均も修士課程は8.7万円であるが、博士課程は14.2万円である。ただし、博士課程の内訳をよくみると、3年制博士課程やその他の一部の専攻に25万円～30万円以上の高収入者がある程度含まれていて、それにより全体の額が押し上げられている形である。博士課程であってもおし並べて収入が高いというわけではないと思われる。

図 2.6.1 1ヶ月の収入（全体）

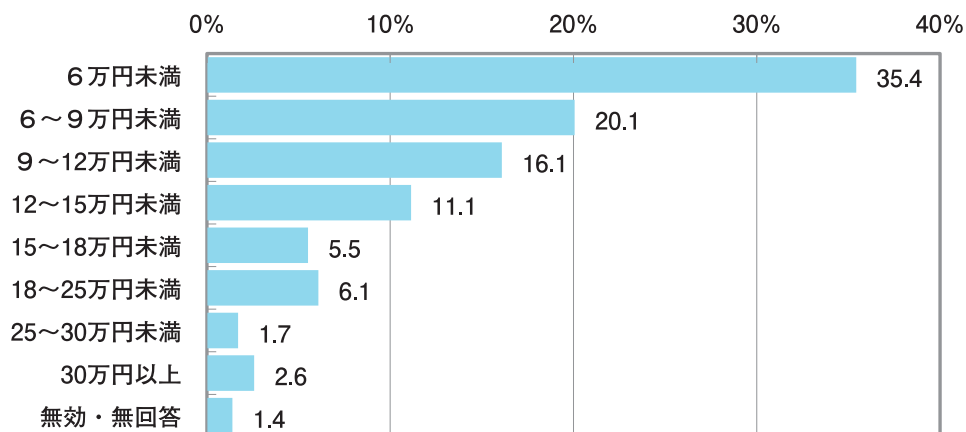
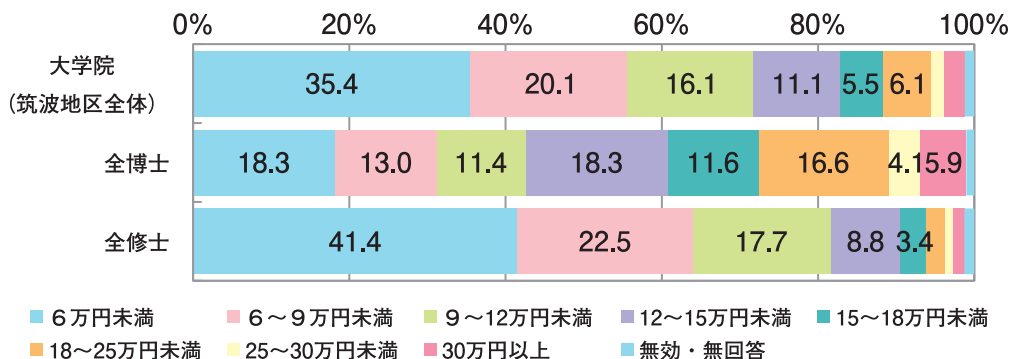


図 2.6.2 1ヶ月の収入（博士課程と修士課程の比較）



2.7 収入源について (問 19)

- ◎ 「奨学金」は43.7%、「仕送り」は40.8%。
- ◎ 「TA・TF」で収入を得ている大学院生は28.9%。

収入源について、「有職者としての給与」「奨学金」「仕送り」など、14項目から複数選択可として回答を得た。「奨学金」と答えた学生は43.7%、「仕送り」は40.8%であった。奨学金依存度は、前は49.0%であり、やや減少傾向にある。一方、「仕送り」は、前は38.4%であり、やや増えている。また、「筑波大学でのTA・TF」の割合は28.9%と3番目に多い回答であった。この「TA・TF」は前回28.2%であり横ばいである。

研究科別にみると、「有職者としての給与」の割合が、図情メディア、人間総合、教育の各研究科で多い傾向にある。「奨学金」は、教育研究科でやや少ない。「仕送り」については、人文社会(29.7%)と人間総合(32.8%)が少なく、「TA・TF」については、教育が少ないという結果である。「筑波大学でのRA(リサーチアシスタント)」については、数理物質(13.3%)だけが10%を超えている。「他大学での非常勤講師」は、人文社会(5.4%)、人間総合(7.4%)、図情メディア(5.6%)で多くなっている。

学年別の集計結果から、修士課程(博士前期課程を含む)と博士課程(後期)に区分けして集計した結果を図2.7.2に示す。この結果から、「奨学金」はどちらの課程でも貴重な収入源になっている。これに加え、修士では「仕送り」が多く、一方、博士では「RA」や「非常勤講師」が多くなっている。「筑波大学以外でのアルバイト」については、修士に比べ、博士は半分ほどである。

図 2.7.1 収入源 (研究科別、全体、%)

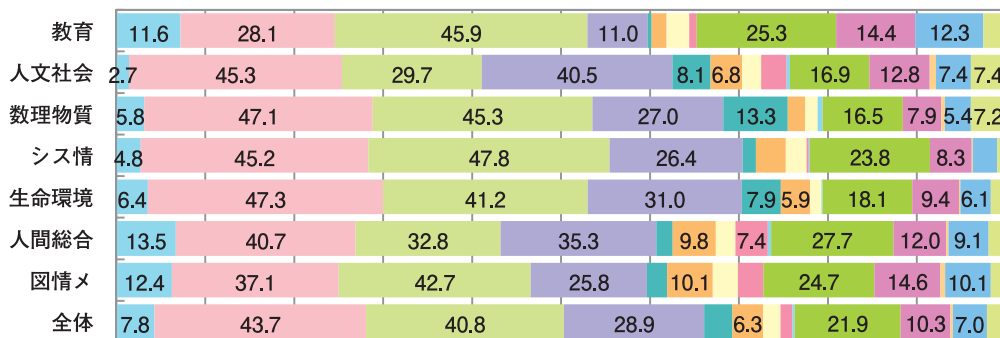
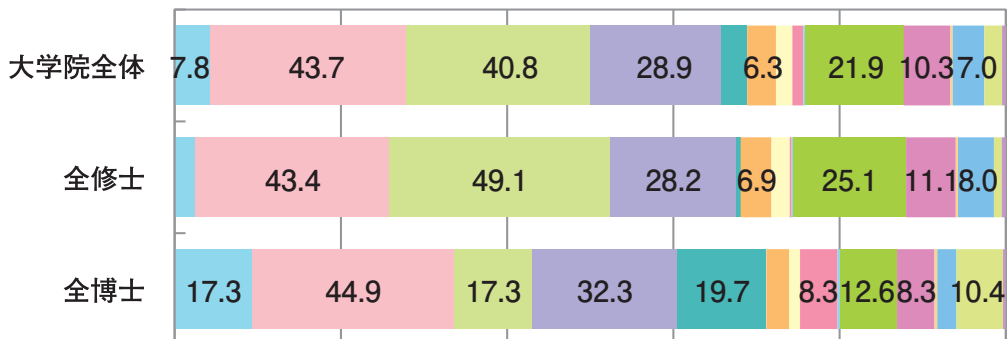


図 2.7.2 収入源 (修士と博士の比較)



- 有職者としての給与
- 民間会社の契約社員や派遣社員
- 奨学金
- 筑波大学以外での定常的なアルバイト
- 仕送り
- 筑波大学以外での不定期なアルバイト
- 筑波大学でのTA・TF
- 借入金
- 筑波大学でのRA
- 貯金
- 指導教員から頼まれた学内でのアルバイト
- その他
- 上記4～6以外の学内でのアルバイト
- 無効・無回答
- 他大学での非常勤講師

2.8 1ヶ月の平均的な生活費、研究活動費について（問20）

- ◎半数近い学生が、生活費および研究活動費に何らかの不足を感じている。
- ◎「不足している」割合が大きいのは、人文社会・教育・人間総合。
- ◎研究活動費の不足により、「資料・書籍が購入できない」「学会・研究会に行けない」「授業料の納入ができない」「研究調査に行けない」学生も存在する。

この設問では、生活費、研究活動費の充足度について質問している。全体では、「十分である」20.9%、「まあまあ足りている」33.6%、「ギリギリである」32.4%、「不足している」12.4%となった。不足感を抱いている大学院生（後の2項目を選択した者）は、半数近くという結果である。前回の調査（平成22年度）では、上記の項目は順番に、20.6%、29.6%、30.0%、18.6%であったので、不足感を抱く大学院生割合は、前回と比較しやや減少したと言える。また、図2.8.1に示したように、博士課程の学生は、修士課程の学生と比較して、やや不足感が強い傾向がある。なお、最短在籍年数を越えた学生についてみると、「不足している」と答えた者が、修士課程3年目以上18.8%、博士前期課程3年目以上20.0%、博士後期課程4年目以上27.1%、一貫制博士課程6年目以上57.1%となっており、全体の平均（12.4%）をかなり、あるいは、大きく上回っている。奨学金の受給がストップすることが大きいと思われる。

研究科別にみると、「不足している」と答えた割合が大きいのは、人文社会25.7%、教育19.2%、人間総合17.9%である。

また、「不足している」と回答した学生について、その不足の内容について複数回答可として質問した。項目別の回答率を図2.8.2に示す。研究の時間を確保するために「アルバイトができない」との回答が最も多かった。142名（58.9%、全体の7.3%）にのぼる。次いで、「資料・書籍が購入できない」（49.4%、全体の6.1%）、「学会・研究会に行けない」（29.2%、全体の3.7%）、「授業料の納入ができない」（29.0%、全体の3.6%）となっている。また、「研究のための調査に行けない」と答えた者の割合は21.2%であるが、とくに人文社会（34.2%）と教育（28.6%）で高くなっている。さらに、「研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない」と答えたものは10.4%であるが、人文社会（26.3%）でとりわけ高い比率となっている。

図 2.8.1 生活費、研究活動費の充足度（全体、博士、修士、前回）

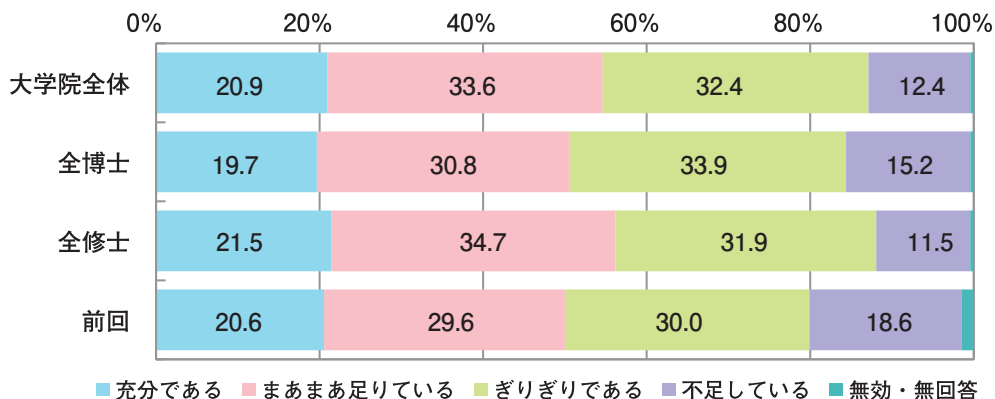
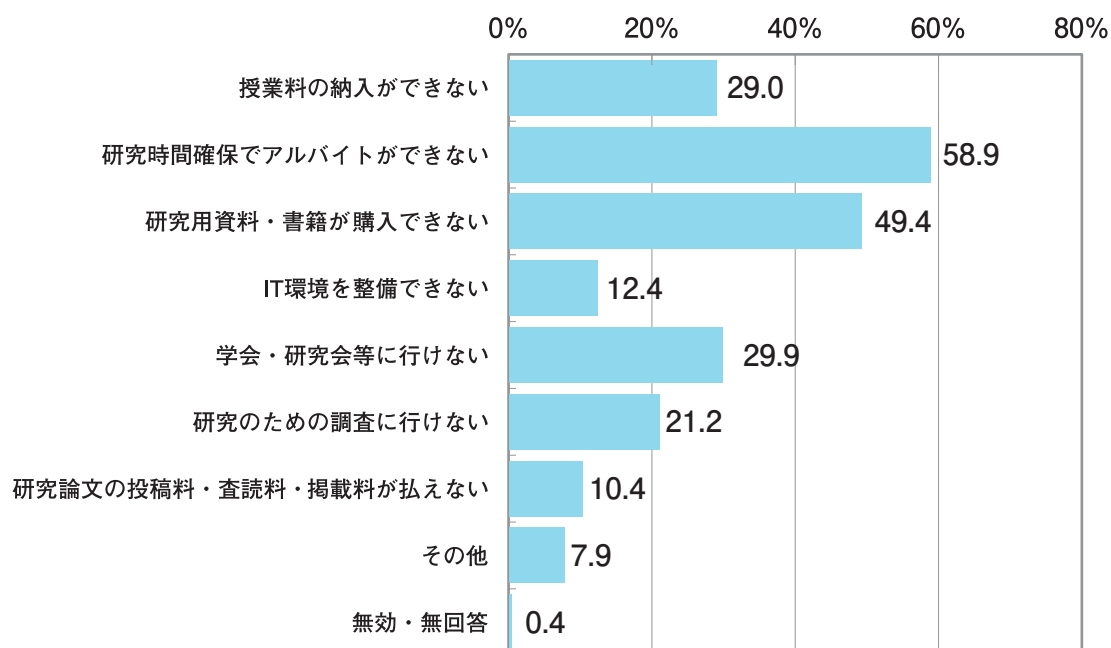


図 2.8.2 生活費、研究活動費で不足しているものの内訳



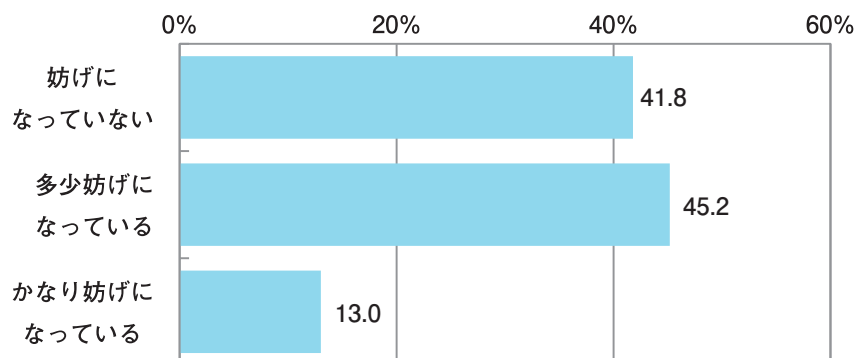
2.9 アルバイトの研究・学修への影響について（問 21）

◎アルバイトをしている学生のうち 58.2%の学生が、アルバイトの妨げを感じている。

この設問では、アルバイトに費やされる時間が研究や学習に与える影響について質問した。平成 24 年 4 月以降に筑波大学以外でアルバイトをした者（したがって、TA・RA 等は除く）は、全回答数の 47.1%（914 人）であった。このアルバイトをした者のうち、「かなり妨げになっている」が 13.0%、「多少妨げになっている」が 45.2%、「妨げになっていない」が 41.8%との結果である。前回調査（平成 22 年度）では、それぞれ 9.5%、49.7%、40.7%であったので、状況はそれほど変わっていない。

研究科別では、「かなり妨げになっている」と答えた割合が大きいのは、人文社会（26.8%）と教育（17.9%）である。

図 2.9 アルバイトの影響（筑波大学以外で 4 月以降アルバイトをした大学院生）



2.10 1週間の過ごし方について（問22）

◎学習時間は8.8時間／日、睡眠時間は6.7時間／日。
 ◎サークル活動は5.4時間／週、アルバイトは11.4時間／週。

この設問では、1日あたりの①授業・学習・実習・研究等の時間と②睡眠時間、1週間あたりの③サークル・ボランティアなどの活動時間と④アルバイト・就業時間の4項目について、具体的に数値を記入してもらった。

1日あたりの授業・学習・実習・研究等の時間は、平均8.8時間であった。分布は図2.10.1のように広く分布している。研究科別では、グローバル教育院（13.5時間）、数理物質（10.2時間）、生命環境（9.7時間）で平均を上回っている。睡眠時間は平均6.7時間であった。前は7.0時間であったので、やや減少した。

図 2.10.1 1日あたりの授業・学習・実習・研究等の時間（全体）

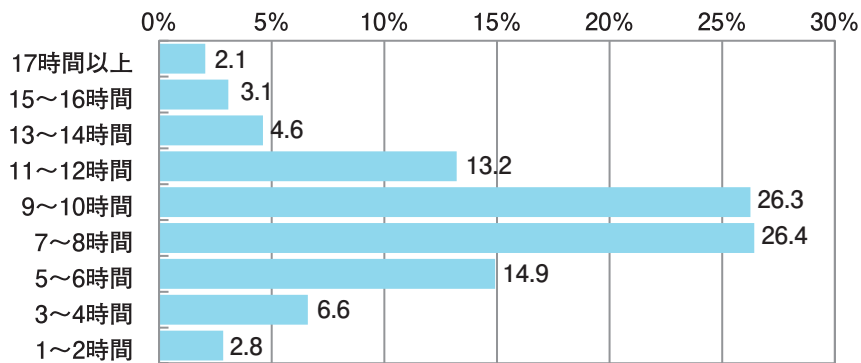
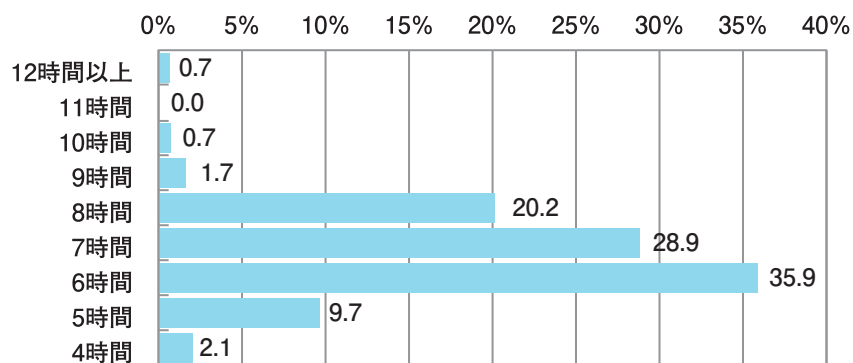


図 2.10.2 1日あたりの睡眠時間（全体）



サークル活動等の時間数を回答した人は31.6%に上った。活動を行っている人について、平均の活動時間は5.4時間/週であった。

アルバイトまたは就業の時間数を回答した人は回答者の総数の56.0%であった。41時間以上働いている人は31名もいた。アルバイトまたは就業している人の平均就業時間は11.4時間/週である。前回のアルバイトについての質問では10.6時間/週であったので、増加傾向にある。

図 2.10.3 1週間あたりのサークル・ボランティアなどの活動時間

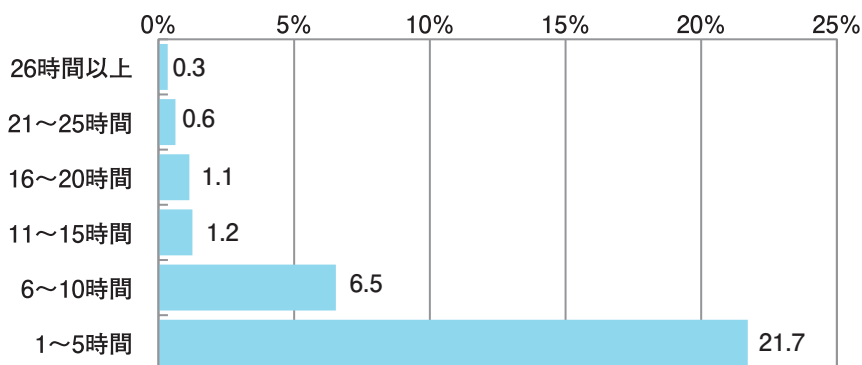
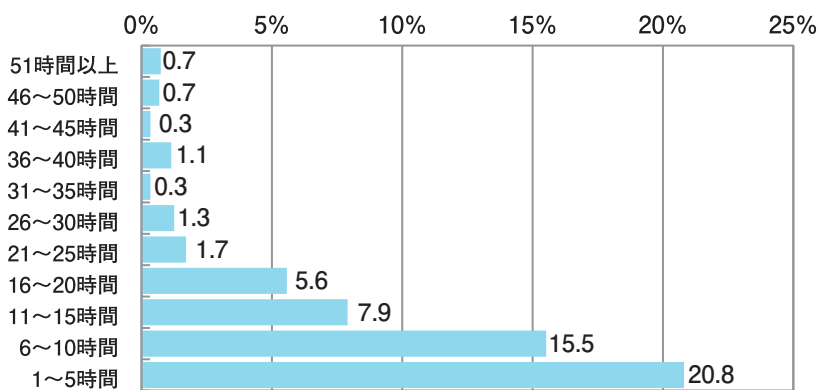


図 2.10.4 1週間あたりのアルバイト・就業時間



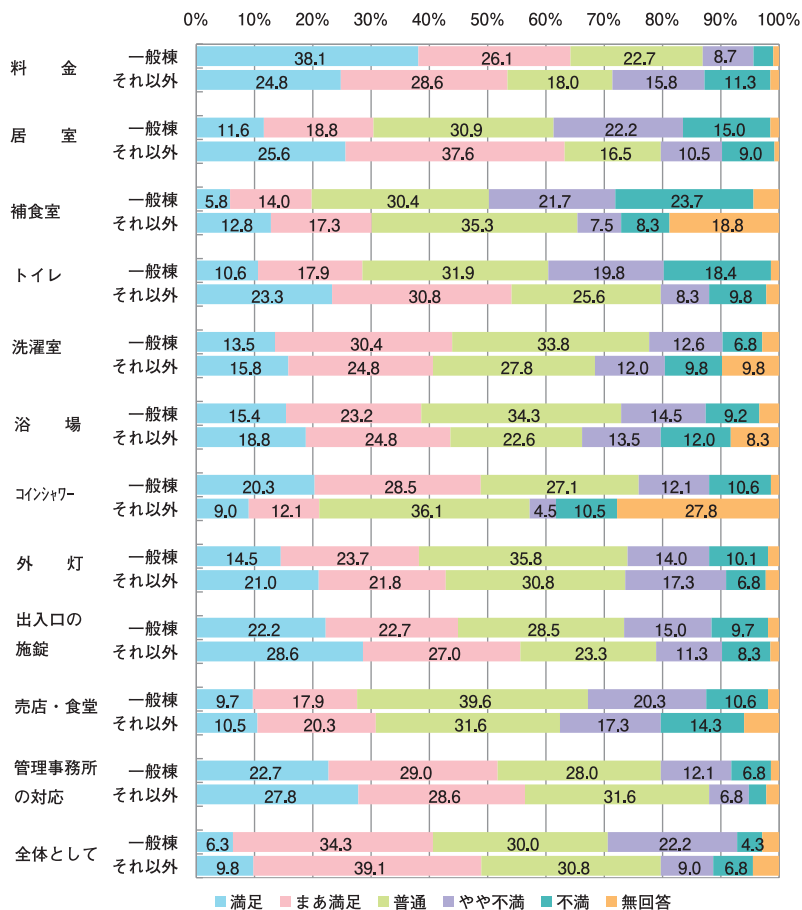
2.11 学生宿舎についての満足度について（問 23・24）

- ◎料金は、居室タイプにより異なるものの、50～60%が満足している。
- ◎一般棟以外の棟においては、室内の設備等が充実していることで、満足度が高い。
- ◎管理事務所の対応は、不満度も少なく一定の評価を得ている。

今回は、調査時点の現住所が「学生宿舎」である学生に回答を求め、340人の回答があった。なお、大学院生にあっては、様々なタイプの棟に入居していることから、設備（補食室、洗濯室等）を共有している单身宿舎（一般棟：207人）と居室内に設備が充実している单身及び世帯宿舎（133人）に振分け、学生の満足度の比較を行った。その結果、居室・補食室・トイレについては、一般棟における満足度が20～30%と低く、不満度は35～45%であった。これは未改修棟であることから、経年劣化による室内の根本的な汚れや害虫（ゴキブリ）発生等で不衛生であるという意見も出されている。また、利用者の使い方・後片付け等のマナーに問題があるという意見もあった。洗濯室・浴場については、約40%の満足度があり、「普通」を含めると一定の評価を得ている。コインシャワーについては、約50%の満足度があり、設置効果はあったものと推測される。なお、幾つかの設問（コインシャワーや補食室など）において、既に居室内に整備されているため、無回答が多かったものと思われる。外灯については、約40%が満足しているものの、外灯が少ないという意見もあった。出入口の施錠については、45～55%が満足しており、大学院生は防犯意識が高いものと思われる。売店・食堂については、満足度が低く、地区毎に整備状況が異なることや営業時間に不満があるという意見があった。

全体として、約7割の学生が概ね満足しているという結果が得られた。

図 2.11 学生宿舎満足度（全体）



2.12 学生宿舎での生活について（問 25）

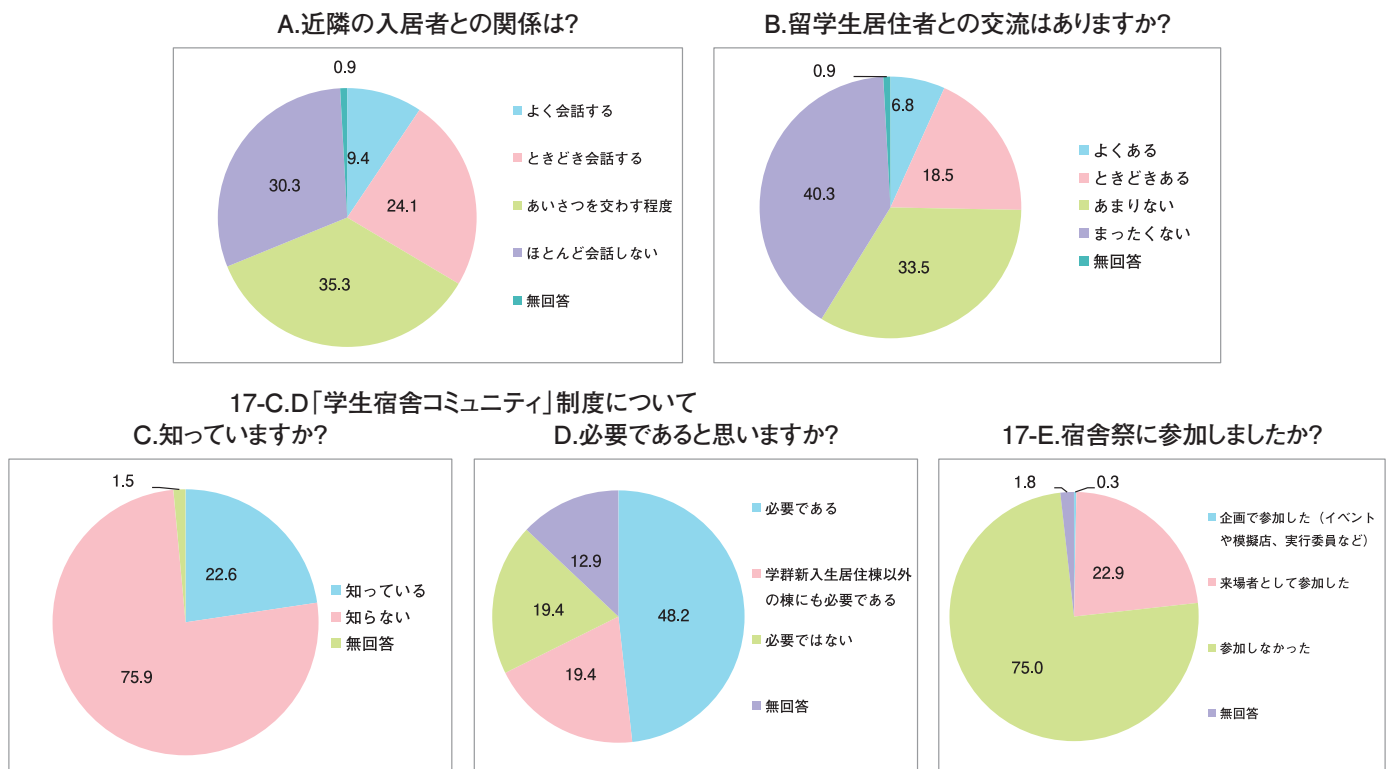
- ◎居住者間で、あいさつ程度を含めると、70%の学生間で交流が図られている。
- ◎学生宿舎コミュニティ制度は48%が必要性を感じている。

この設問では、問(23)・(24)に引き続き、学生宿舎入居者 340 人の回答から分析を行った。その結果、あいさつ程度を含めると 70%の居住者が交流を図っているが、会話をするなどの交流は 35%となっている。また、30%の居住者においては、「ほとんど会話をしない」という回答であった。留学生との交流については、「ときどきある」を含めても 25%と低い結果である。これは、一般棟以外の棟には共用設備が無く、居室で生活が完結しているためと推測される。

学生宿舎コミュニティ制度については、75%が知らないという回答であった。これは、現在、学群新入生が入居している改修棟において実施しているため、低い数値となったと推測される。しかしながら、68%は必要性を感じているという回答であった。

宿舎祭については、23%が来場者として参加しているが、多くの大学院生は参加していないという結果となった。

図 2.12 学生宿舎での生活（全体、すべて%）

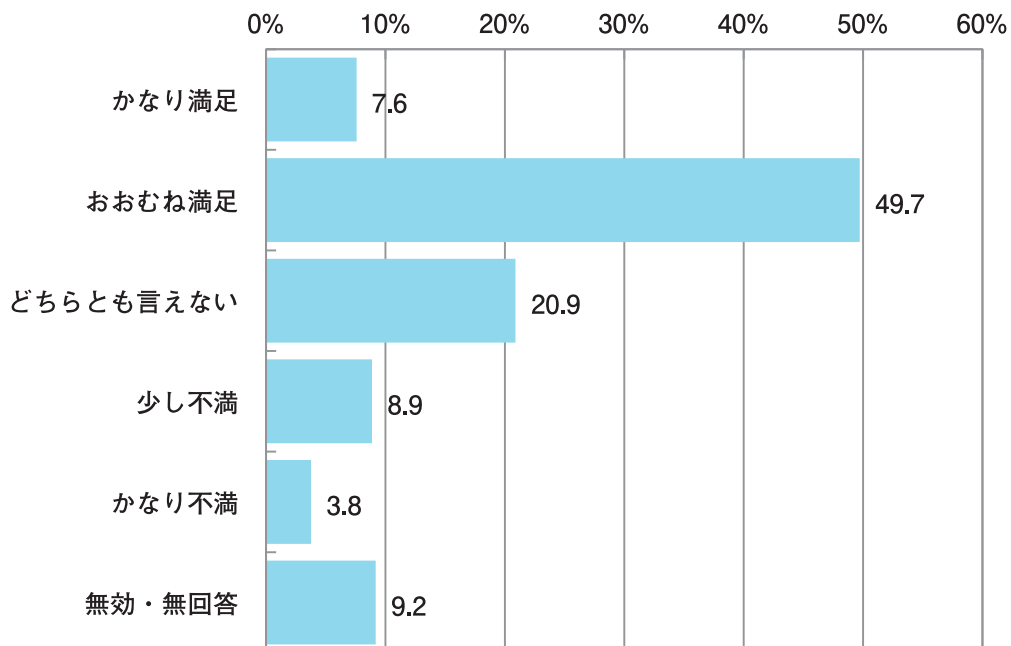


2.13 現在の日常の生活の満足度について（問 26）

- ◎大学院生の6割が日常生活に満足している。
- ◎日常生活の満足度は生活費・研究費の充実と関連している。

日常生活の満足度を調査した。「かなり満足」から「かなり不満」までの5段階のうちからひとつの回答を求めた。大学院全体としてみると「満足」とした回答の割合は57.3%であり、平成22年度の前回調査58.8%と大きな差は認められなかった。「不満」とした回答割合12.7%と前回16.2%に比べやや減少していた。この比率は研究科別の違いは認められなかった。大学院生の日常の満足度の要因を経済状況から探るため、各人の生活費や研究活動費との関係を見ると、これらの経費が「充分」あるいは「おおむね満足」とした大学院生の70～80%が日常生活を「満足」あるいは「おおむね満足」とし、不満であるとの回答は6%に過ぎなかった。一方、「ぎりぎりである」あるいは「不足している」とした大学院生の「満足」は40～50%であり、不満とした回答は20～30%であった。収入源が奨学金であるか仕送りであるかを比較しても満足度には大差がないものの、日常生活の満足度が経済的保障に依存している姿が見えてくる。大学院生が経済的に自立した形で研究活動に打ち込めることが本来望まれる姿であるならば、充実した奨学金給付が日常生活の満足度を高めることになるものと考えられる。この結論は前回調査の解析と同じであり、この問題に対する進展を明らかにするような調査が次回望まれる。

図 2.13 現在の日常の生活の満足度（全体）



第3章 通学・事故等について

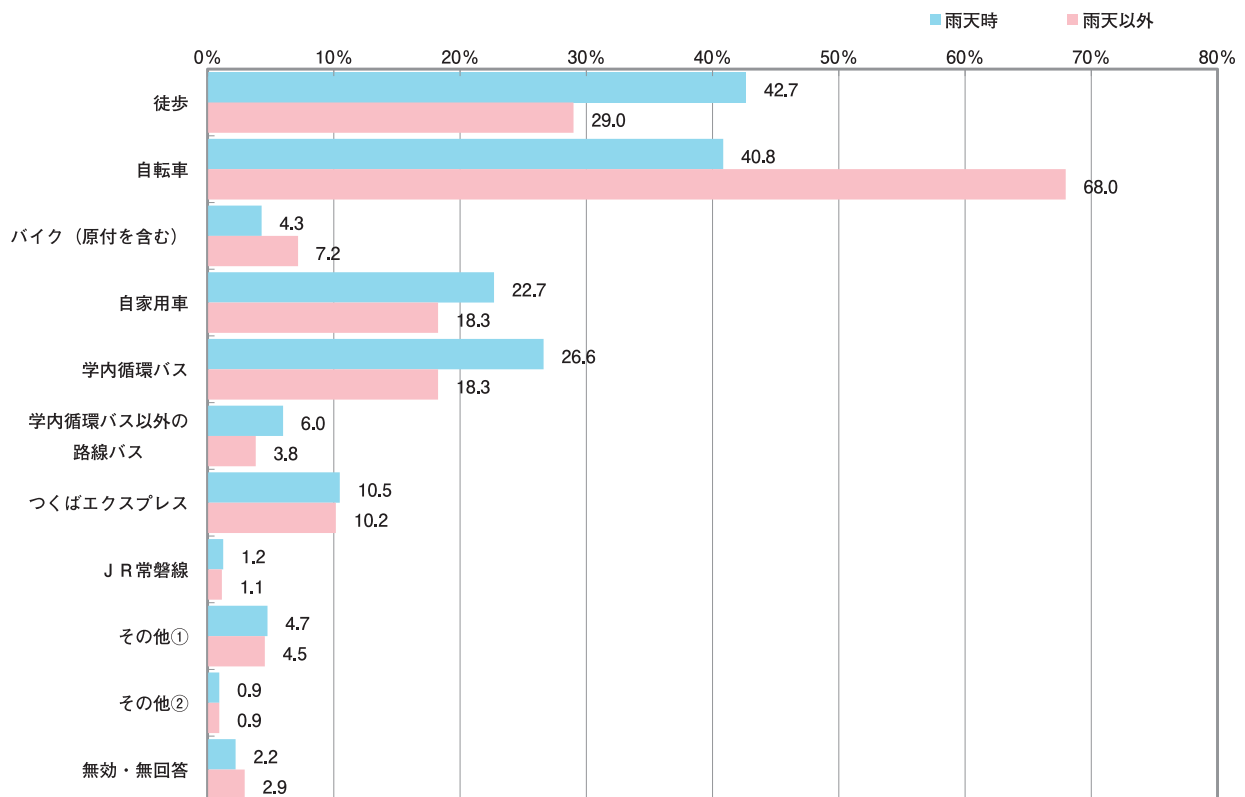
3.1 通学手段について (問 27)

- ◎天候に関わらず筑波地区大学院生の通学手段は自転車と徒歩がほとんどである。
- ◎キャンパス交通システム、TX の利用率は平成 22 年度からほとんど変わっていない。

大学院生が利用する交通手段について、雨天時と雨天時以外に分けて複数回答で質問した。天候に関わらず交通手段は自転車が圧倒的に多く、約 70%であった。雨天時以外の学群生の自転車比率は 80%、自家用車比率が 10%であるのに対し、大学院生では自家用車比率が 18%を占め、自家用車は徒歩、自転車に次ぐ第 3 位の交通手段となっていた。しかし、大学院生の雨天時以外での自家用車比率は前回に比べ約 10 ポイント下がっていた。しかし他の通学手段が際立って増えているわけではなく、通学手段が多様化したようである。

つくばエクスプレスの利用は前回から 1%程度の伸びである。その比率は学群生と大差なく、一定の比率の学生が TX とバス、あるいは TX と自転車併用の通学形態であることが予想された。学類生と大学院生ともに自転車が主たる通学手段であることは前々回、前回、今回の調査で明らかである。この結果から考えても自転車と徒歩を中心とした新しい学内交通体系の確立は急を要する課題であると言える。

図 3.1 通学手段 (雨天時、雨天時以外、全体)

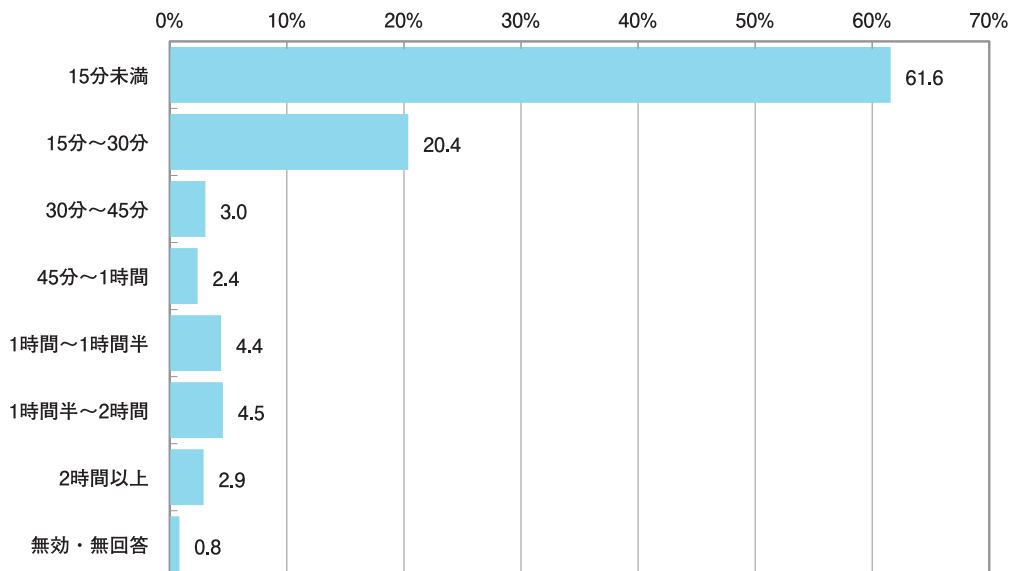


3.2 通学時間について (問 28)

◎ 6 割の大学院生が徒歩あるいは自転車で 15 分以内の時間で通学している。

「雨天時以外の片道の通学時間」について質問したところ、約 60%が 15 分未満と回答した。通学手段別に見ると、徒歩通学者のうち 70%が、自転車通学者では 80%が 15 分以内であった。大学院生は、学群生に比べると通学時間はやや伸びるもののおおよその通学範囲は自転車で 15 分以内であり、男女差は認められなかった。大学院生の 60%が自転車あるいは徒歩で 15 分～ 30 分の通学圏であるつくば市天久保、春日、桜地区に居住している。この居住の分布は本学の特徴であり、自転車問題の根本でもある。これまで、登録制・課金制による学内への自家用車の乗り入れ規制は一定の効果があったと言えるが、自転車に関しては学生・院生のまさに主たる交通手段への制限となるため、これらのデータは今後の提案の基盤となる。

図 3.2 雨天時以外の片道通学時間 (全体)



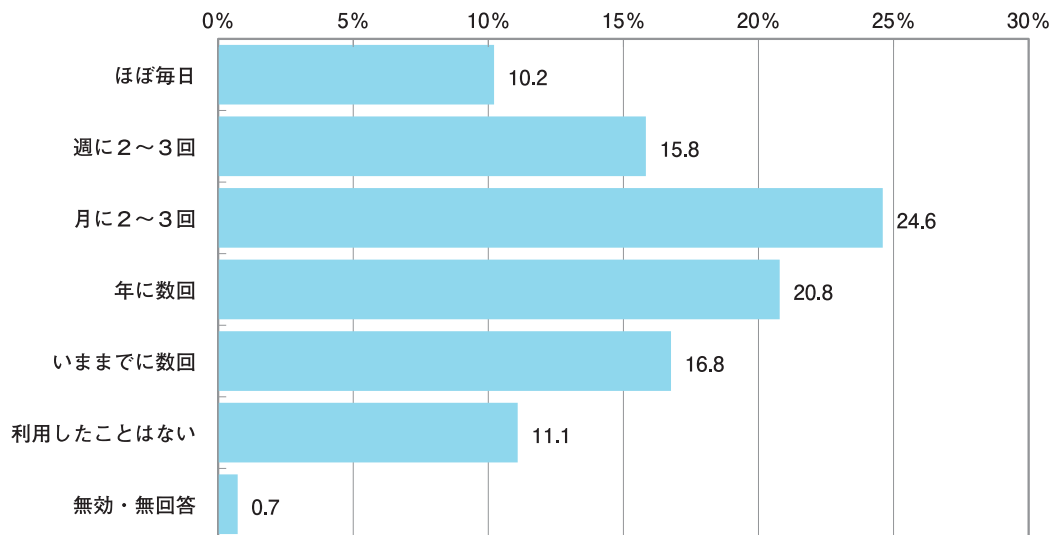
3.3 キャンパス交通システム【学内循環バスの利用頻度について】（問 29）

- ◎ 25%の大学院生が日常的にキャンパス交通システムを利用し、その頻度は増加傾向にある。
- ◎ TX 利用者の 6 割以上が本システムを利用している。

大学院生のキャンパス交通システム（学内循環バス）利用頻度について質問した。ほぼ毎日利用している人が 10%、週に 2～3 回を含めると 25%となり 4 人に一人が利用していることとなる。日常生活で本システムの利用者は前回調査では約 20%であったことから、大学院生の足としては重要度が増していることが見て取れる。雨天時の利用者が大きくは増加しないのは、徒歩および自転車で 15 分圏内に大学院生の多くが居住しているためであろう。

TX 利用との関係を見ると、TX 利用者の 64%が毎日あるいは週に 2～3 回の利用者であり、学内への通学者の 1 割を占める TX 利用者にとっては貴重な手段であると言える。

図 3.3 キャンパス交通システム（学内循環バスの利用頻度、全体）



3.4 自転車事故について（問 30）

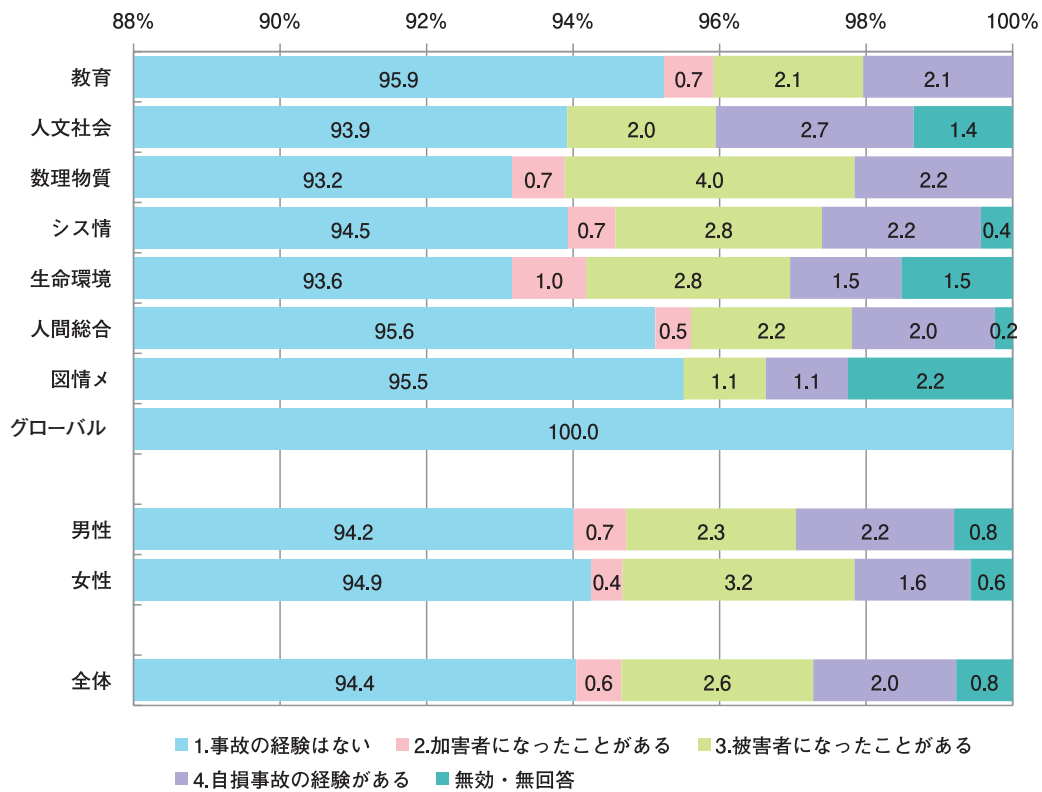
- ◎全体の 5.2%が自転車事故の体験。
- ◎学群生（10%）と比べると約半分。

過去1年間（1年生は大学院入学後）の自転車事故に関して、「加害者」「被害者」「自損事故」の経験を複数回答で尋ねた。結果を図3.4に示す。全体を見ると、自転車事故の体験割合は5.2%であり、学群の同調査における10.0%と比べると約半分の体験率であった。

研究科別では、図情メディアが低いですが、その他では大差ない結果であり、男女別でも同じ値となった。

自転車の事故の経験については、今回が初めての調査であったが、20人に1人が1年間で自転車事故を体験していることは、大きな問題であり、自転車環境の整備とともに、自転車運転マナー向上のための対策が急務であろう。

図 3.4 自転車事故（研究科別、男女別、全体）



3.5 交通事故（自転車事故を除く）について（問 31）

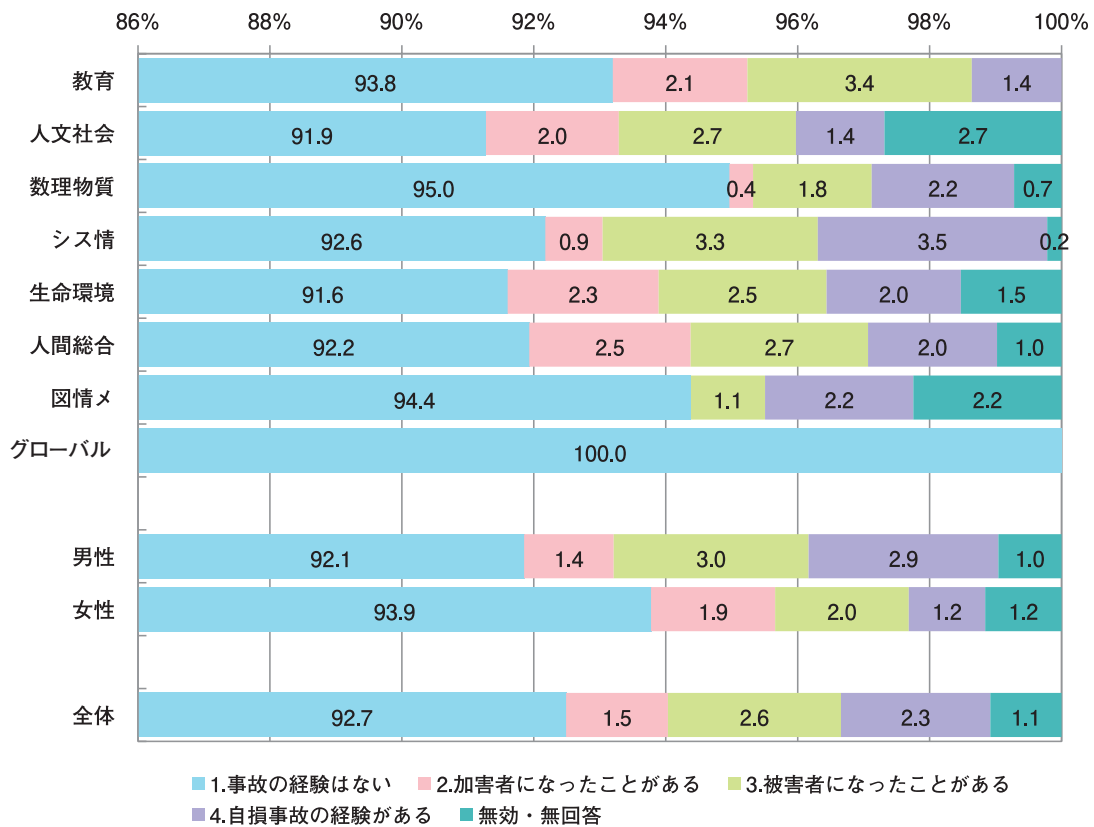
- ◎全体の 6.4%が事故の体験。
- ◎学群生（7%）と比べると若干少ない。

過去1年間（1年生は大学院入学後）の交通事故（自転車事故を除く）に関して、「加害者」「被害者」「自損事故」の経験を複数回答で尋ねた。結果を図 3.5 に示す。全体を見ると、事故の体験率は 6.4%であり、学群の同調査における 7%と比べ、若干低い値となった。

研究科別では、図情メディアが低いがその他の研究科では、大差ない結果であり、男女別では、男子の方が女子に比べ 2.2 ポイント高い値となった。

大学に報告された事故事例によると、長期の入院や治療を余儀なくされたものもある。学生には人の生命の尊さを改めて心に留め、交通ルールを守り、日々安全運転を心がけてほしい。

図 3.5 交通事故（研究科別、男女別、全体）



3.6 盗難被害について（問 32）

- ◎全体の 15.9%が盗難の被害者。
- ◎調査項目全ての場所で被害者の割合が減少。
- ◎「自転車」の被害が最多。

盗難被害について尋ねた。「被害に遭ったことはない」は全体で 84.7%であり、前回の 79.3%を 5.4%上回り、同時に被害に遭った学生は全体で 15.9%となり、前回の 22.4%から 6.5%減少する結果となった。調査項目の被害に遭った場所ごとに前回と比較すると、「学内」で 2.3%、「宿舎内」で 1.9%、「学外」で 2.3%、いずれも被害の割合が減少している。学群生向けの調査の同じ設問でも被害が減少しており、好ましい結果となった。

盗難物としては、「自転車」が圧倒的に多く、次いで、「傘」、「財布・現金」の順であり、「自転車」の被害場所としては、第 3 エリア周辺での被害が、他の場所と比べて多かった。

また、自宅・アパート等での被害も 59 件あり、空き巣等により被害に遭った学生が多いことが伺えた。「宿舎内」での被害割合が比較的抑えられているのは、宿舎に住んでいる大学院生が少ないこともあると思われる。

なお、研究科別では、図情メディアの被害が 10.0%で最も低く、生命環境が 18.1%で最も高い結果となったが、男女別で大差は見られない。今後も引き続き、防犯意識を高める活動を全学的に継続していくことが重要であろう。

表 3.6 盗難被害（研究科別、男女別、全体）

研究科名等	回答数	被害に遭ったことはない		学内で被害に遭った		学生宿舎内で被害に遭った		学外で被害に遭った		無効・無回答	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
教育	146	130	89.0	10	6.8	1	0.7	7	4.8	1	0.7
人文社会	148	127	85.8	8	5.4	5	3.4	6	4.1	4	2.7
数理物質	278	239	86.0	22	7.9	5	1.8	21	7.6	0	0.0
シス情	458	388	84.7	32	7.0	9	2.0	28	6.1	9	2.0
生命環境	393	324	82.4	29	7.4	12	3.1	30	7.6	6	1.5
人間総合	408	342	83.8	31	7.6	11	2.7	30	7.4	3	0.7
図情メ	89	78	87.6	2	2.2	1	1.1	6	6.7	2	2.2
グローバル	14	12	85.7	2	14.3	1	7.1	0	0.0	0	0.0
男性	1,248	1,049	84.1	98	7.9	23	1.8	87	7.0	20	1.6
女性	690	594	86.1	38	5.5	22	3.2	41	5.9	6	0.9
全体	1,939	1,643	84.7	136	7.0	45	2.3	128	6.6	27	1.4

3.7 傷害等の被害について (問 33)

- ◎全体の1.6%が傷害等の被害者。
- ◎女性の被害の割合が多い。

大学院入学後の傷害等の被害に関して、被害の有無を場所別に、「学内」「学生宿舎内」「つくば市内」「その他の場所」のいずれであったかについて複数回答で尋ねた。全体の発生率は1.6%であり、わずかながら前回の2.0%から減少する結果となった。研究科別の被害率では人文社会が4.5%と最も高く、次いで図情メディアの3.3%であった。その他の研究科はいずれも1%台であった。

発生場所はつくば市内が最も多く、男女別では、女性の被害が2.2%で男性の2倍の被害率であった。

表 3.7 傷害等の被害 (研究科別、男女別、全体)

研究科名等	回答数	被害に遭ったことはない		学内で被害に遭った		学生宿舎内で被害に遭った		つくば市内で被害に遭った		その他の場所で被害に遭った		無効・無回答	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
教育	146	145	99.3	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
人文社会	148	141	95.3	2	1.4	1	0.7	2	1.4	1	0.7	1	0.7
数理物質	278	274	98.6	0	0.0	0	0.0	3	1.1	0	0.0	1	0.4
シス情	458	452	98.7	1	0.2	0	0.0	4	0.9	0	0.0	1	0.2
生命環境	393	385	98.0	1	0.3	0	0.0	1	0.3	2	0.5	5	1.3
人間総合	408	399	97.8	3	0.7	0	0.0	3	0.7	0	0.0	3	0.7
図情メ	89	85	95.5	1	1.1	0	0.0	2	2.2	0	0.0	1	1.1
グローバル	14	14	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
男性	1,248	1,227	98.3	3	0.2	0	0.0	9	0.7	1	0.1	8	0.6
女性	690	671	97.2	6	0.9	1	0.1	6	0.9	2	0.3	5	0.7
全体	1,939	1,898	97.9	9	0.5	1	0.1	15	0.8	3	0.2	14	0.7

3.8 カルト宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘について（問 34）

- ◎全体の 14.3%が参加勧誘を受けている。
- ◎全体の 19.0%が人の勧誘を見たり、聞いたりしている。
- ◎人文社会科学研究科で参加勧誘が顕著である。

大学院入学後のカルト宗教団体や啓発セミナーなどへの参加勧誘に関して、「いやな思いをした」「人がこまっているのを見たり、聞いたりしたこと」の経験について尋ねた。この設問は、前回の調査から始めたものであるが、参加勧誘を受けて嫌な思いをした学生は全体で前回から 1.1%減少したものの、全体で 14.3%の大学院生が勧誘を受けている。人文社会では 23.6%と高い率の参加勧誘を受けており、他研究科の 11.0%～16.9%に比べ顕著である。

人が困っているのを見たり、聞いたりしたでは、約 5 人に 1 人が経験したことになる。これらの勧誘を防ぐために、引き続き注意喚起が必要である。

図 3.8.1 カルト宗教団体や啓発セミナーへの参加勧誘（研究科別）

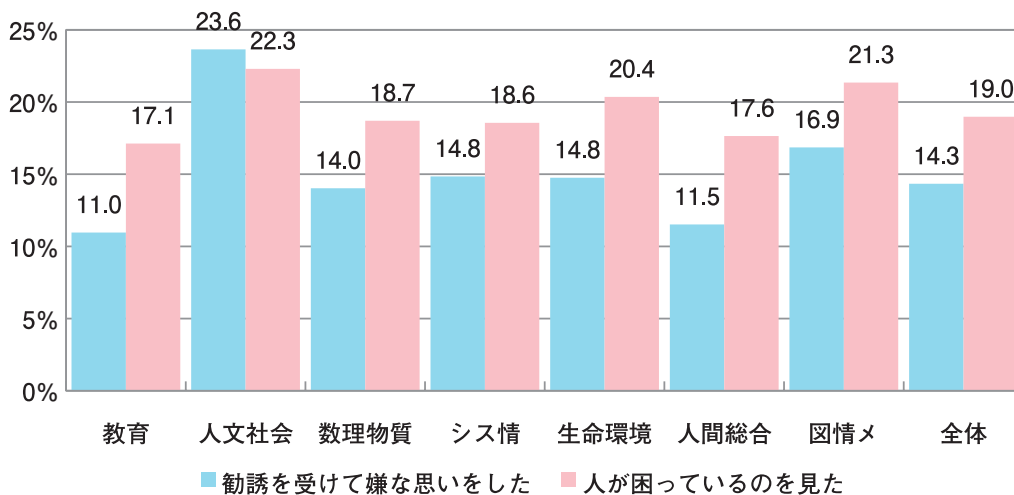
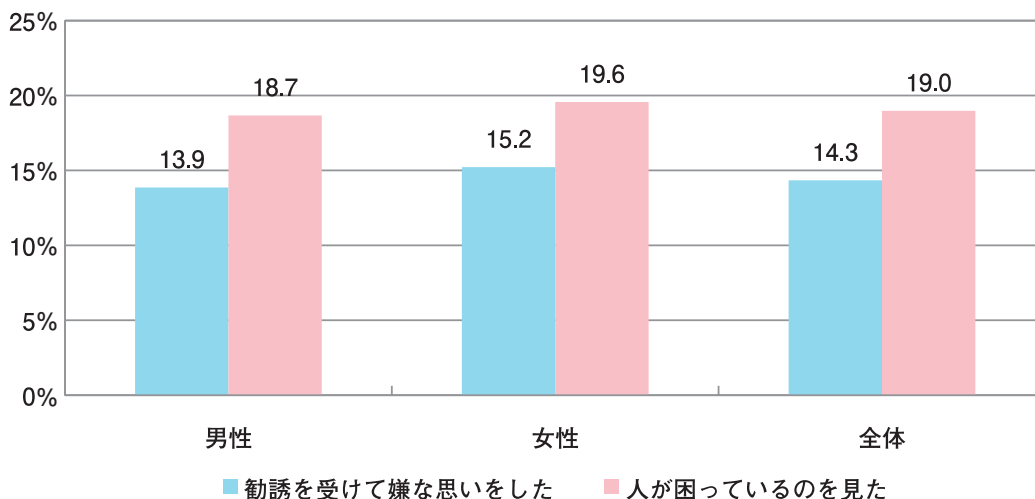


図 3.8.2 カルト宗教団体や啓発セミナーへの参加勧誘（男女別、全体）



3.9 教員によるセクハラ、アカハラについて（問 35）

- ◎セクハラを感じたことのある男子大学院生は5%、女子大学院生は7%であり、前々回、前回調査時点から改善されていない。
- ◎アカハラを感じたことのある大学院生は10%を超えている。

大学院におけるセクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、その他ハラスメント事例について調査した。セクハラを感じたことのない学生は全体の90%であるが2～3%の学生が、アカハラについては83%の学生が経験ないとしているが、10%ほどの学生がハラスメントを受けたことがあるとしている。この数値は前々回、前回とほとんど変わっていない。研究科別では、セクハラとアカハラともに研究科ごとに高低はあったが、その数値は調査時ごとに変動しており、研究科特有の事例とは言えない。

本来この数値は0に近づかなければならないものであることからすると全学的に何らかの対応が必要であることは明らかである。

無効・無回答が多いことが目立つが、回答者たちがハラスメントとなりうる事例か否かの判断ができていないのが問題である。大学院生は、研究室等で教員と緊密な関係の中で研究を進めていく例が多いため、自分が置かれている環境を受け入れてしまうことが多いと考えられる。そのためハラスメントが存在している自覚がないままに事態が進んでしまうことがないよう、回答者に定義を示したうえでのアンケートも必要であろう。

表 3.9 教員によるセクハラ・アカハラ・その他のハラスメント（全体）

	セクハラ		アカハラ		その他	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
感じたことはない	1,729	89.2	1,605	82.8	1,632	84.2
感じたことがあるが誰にも話をしていない	19	1.0	62	3.2	36	1.9
感じたことがあり親しい友人に話した	26	1.3	107	5.5	64	3.3
感じたことがあり知り合いの教員に話した	5	0.3	36	1.9	11	0.6
研究科・専攻のハラスメント担当教員に話した	4	0.2	9	0.5	6	0.3
全学に設置されているハラスメント相談員に話した	3	0.2	6	0.3	3	0.2
その他	1	0.2	12	0.6	6	0.3
無効・無回答	168	8.7	143	7.4	200	10.3
合計	1,958		1,980		1,958	

第4章 健康状態について

4.1 健康状態について（問 36）

- ◎全体の 65.3%が過去一年間で「健康である」と回答した。前回調査からは増加。
- ◎全般的な傾向として、女性の大学院生の方が男性よりも健康状態は良くない。
- ◎修士課程相当3年目以上の人々の健康状態は低下し、精神的・心理的問題の割合が増加。

過去1年間の健康状態について、「健康である」と回答した割合は、全体で65.3%であった。前回（平成22年度）と前々回（平成20年度）の調査結果と比較すると、前回は58.0%、前々回は70.5%であり、今回はその中間の値になっている。なお、平成7年度の類似項目での調査結果は64%であった。前回、低下した理由として、新型インフルエンザの流行の影響と回答方法の変更の影響が検討されていたが、今回の回答方法は前回と同じ形式であった。ただ、サンプル数は前回に比べて約400弱減っている。明確な変動因は不明である。

男女別による違いについては、女性の方が男性よりも「健康である」割合が低く、「健康不良で数日寝込んだ」や「身体の病気で受診・入院した」、「精神的問題で受診・入院した」「心理的問題で相談機関を利用した」で割合が高かった。全般的な傾向として、女性の大学院生の方が男性よりも健康状態は良くないという特徴は、前回と同様の結果である。

また、大学院生を便宜的にM1（修士課程1年相当。博士前期課程1年や一貫制博士1年等を含む）、D1（博士課程1年相当。博士後期課程1年、3年制博士課程1年等を含む）というように学年分類した。その結果、M3（修士課程3年目以上、つまり、2年で修了しなかった人）の「健康」が下がり、「精神的な問題で受診・入院した」、「心理的な問題で相談機関を利用した」の回答率が増加していることが、前回と同様に確認された。しかし、その一方でD3、D4では「精神的問題で受診」が他と比べて高くなっているという特徴は見られなかった。この結果はサンプル数が少ないことも影響しているかもしれない。しかしながら、修士では今回も同様な結果が得られているので、修了が遅れている大学院生の健康状態には注意する必要があると思われる。

表 4.1 過去1年間の健康状態について（全体、男女別、学年別、%）

	全体	男性	女性	M1	M2	M3	D1	D2	D3	D4
1 健康である	65.3	68.8	59.0	68.3	64.6	50.0	57.8	68.1	64.6	66.7
2 健康不良で数日寝込んだ （受診・入院を除く）	22.2	19.5	27.2	22.1	23.5	23.8	20.1	20.6	19.7	19.7
3 身体の病気で受診・入院した	11.7	9.4	16.0	8.7	12.3	21.4	17.5	12.1	15.0	15.2
4 精神的な問題で受診・入院した	3.6	3.1	4.5	2.3	3.4	14.3	5.2	6.4	2.4	6.1
5 心理的な問題で相談機関を利用した	3.5	2.9	4.7	2.3	3.4	11.9	5.8	5.0	3.9	3.0
6 けがで受診・入院した	3.4	3.4	3.5	3.4	3.5	2.4	4.5	2.1	3.1	1.5
7 その他	1.8	1.9	1.5	1.9	1.2	4.8	3.2	0.7	1.6	1.5
対象者の母数	1927	1239	688	728	652	42	154	141	127	66

4.2 悩みごとについて (問 37)

- ◎半数以上の大学院生が「学業や研究の不振」で悩んでいる。
- ◎「進路」に関しては、約4割の人が困ったり、悩んだりしている。
- ◎「就職」に関しては、全体平均では、3割強であるが、学年によっては5割を超える。

過去1年間に悩んだことの中で、最も多かったのは「学業や研究の不振」についてで、全体で55.1%の大学院生が選択していた。その後は、「進路」「就職」「経済状態」「自分の精神的・心理的状态」という順に続き、その順序に男女差はなかった。この傾向は前回の調査と同様であり、大学院生にとってはとても重要なテーマであると理解できる。

問(36)と同様に大学院生を便宜的にM1（修士課程1年相当。博士前期課程1年や一貫制博士1年等を含む）、D1（博士課程1年相当。博士後期課程1年、3年制博士課程1年等を含む）というように学年分類した。その結果、「学業や研究の不振」ではM3、D2、D4で高くなり、「休学・退学」はM3とD4で、「就職」はM2、M3でとても高くなっている。「進路」はM1が高いが、その後も比較的高いままである。また、「教員との関係」はM3で、「自分の精神的・心理的状态」はM3とD1で、「経済状態」はM3、D4で高くなっている。M3やD4といった標準よりも長く在籍している大学院生の場合、学業や研究ばかりではなく、経済状態や就職、教員との関係、精神的・心理的状态、休学や退学についてなど、大変な状況におかれている様子がうかがえる。丁寧な対応が必要と思われる。

表 4.2 過去1年間に困ったり悩んだりしたこと（全体、男女別、学年別、%）

	全体	男性	女性	M1	M2	M3	D1	D2	D3	D4
1 学業や研究の不振	55.1	55.0	55.2	51.0	55.9	64.3	52.6	66.0	53.6	78.8
2 単位修得の問題	7.4	8.1	6.0	10.8	6.6	7.1	2.6	2.8	5.6	0.0
3 休学・退学	4.4	3.5	6.1	2.3	3.4	21.4	4.6	5.0	7.2	21.2
4 転研究科・転専攻	1.6	1.5	1.6	2.5	0.9	0.0	2.6	0.0	0.8	0.0
5 進路	41.1	39.0	44.9	46.5	39.0	38.1	33.6	39.7	36.0	31.8
6 就職	36.3	39.5	30.8	28.5	52.9	57.1	15.8	22.0	34.4	31.8
7 友人との関係	8.3	8.2	8.3	9.4	9.0	2.4	9.2	9.2	1.6	1.5
8 教員との関係	13.0	13.0	13.0	9.8	15.4	23.8	11.2	11.3	14.4	19.7
9 研究室内の問題	13.7	12.3	16.3	12.2	15.1	14.3	15.8	13.5	14.4	10.6
10 サークル内の問題	2.3	2.9	1.2	3.5	2.5	0.0	1.3	0.7	0.0	0.0
11 恋愛関係	15.0	14.0	14.6	15.3	15.7	21.4	15.1	14.2	8.0	6.1
12 家族関係	8.6	8.3	9.2	9.1	7.4	7.1	14.5	8.5	7.2	7.6
13 自分の性格	19.1	18.1	20.8	24.0	18.4	11.9	13.8	14.9	13.6	9.1
14 自分の精神的・心理的状态	21.5	19.8	24.5	22.4	21.8	26.2	25.7	14.2	16.8	22.7
15 自分の身体的病気・けが等の状態	6.8	5.9	8.3	7.0	6.5	9.5	6.6	5.0	7.2	10.6
16 経済状態	28.6	26.8	31.9	29.0	23.9	40.5	34.2	34.8	20.8	50.0
17 ハラスメント	2.6	1.5	4.5	1.2	3.2	4.8	3.9	2.1	4.0	3.0
18 その他	1.5	0.8	2.8	1.1	1.1	0.0	4.6	2.8	2.4	0.0
19 特になし	10.7	10.9	10.3	9.7	10.2	7.1	15.1	13.5	14.4	6.1
対象者の母数	1915	1229	686	724	648	42	152	141	125	66

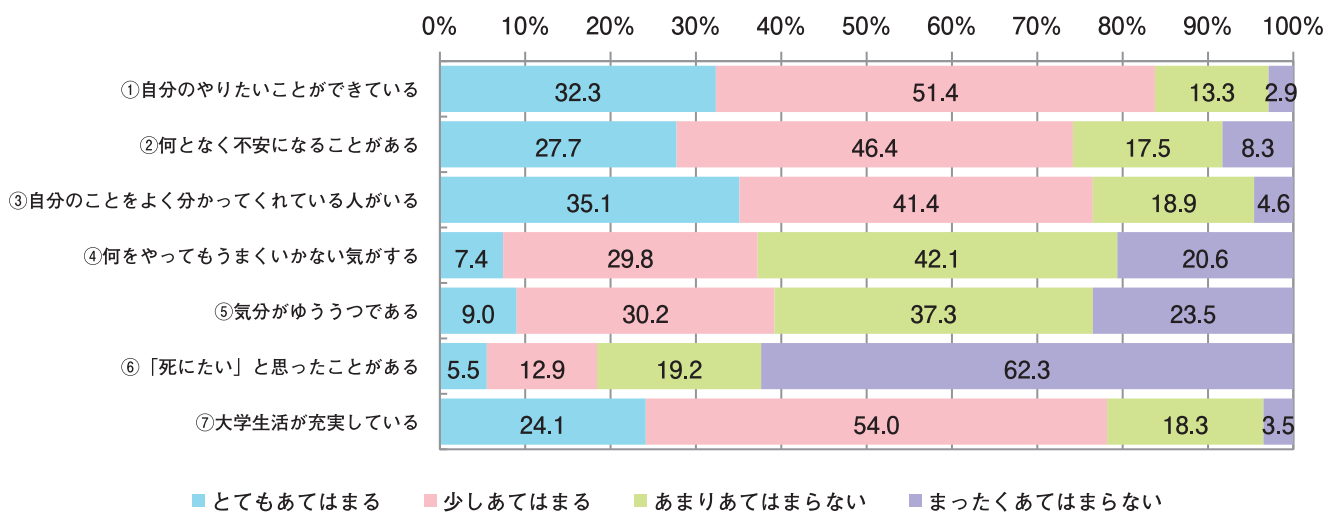
4.3 精神的な健康状態について (問 38)

- ◎「やりたいことができている」院生は 83.7%、「充実している」院生は 78.1%。
- ◎その一方で「何となく不安」は 74.1%、自信のなさや気分の落ち込みは約 4 割弱。
- ◎「死にたい」と思ったことがある大学院生は 18.4%。

精神的な健康状態を把握する 5 項目に対する回答を図 4.3 にまとめた。「自分のやりたいことができてい
る」「自分のことをよくわかってきている人がある」など肯定的な項目に「とても当てはまる、少し
当てはまる」と回答したのは全体で 7～8 割を占めた。その一方で、「何となく不安になることがある」
に「とても当てはまる、少し当てはまる」と回答したのは全体で 74.1%にのぼり、全国の大学院平均（『学
生の健康白書』2005 による）で「はい」と回答したのが約 40%弱程度であったことと比べても高いとい
える。これは、2 年前の調査とほとんど同じ結果であった。また、「何をやってもうまくいかない気がする」
に該当する割合が 37.2%（前回は 36.1%）、「気分がゆううつである」が 39.2%（前回は 39.9%）であ
り、前回とほとんど変わっていない。これらの項目は、全国平均では約 20%と 13%ほどであり（それら
の項目と関連する「何をやるのも自信がない」、「いつも憂うつである」の割合）、前回同様、本学の大学
院生の状況は良くない。多くの学生が、やりたいことができていて、自分のことを分かってくれる人がいて、
大学生活は充実していると回答している一方で、漠然とした不安感や自信の無さ、抑うつ感などの否定的
な感情を抱きながら生活していることも多いことがうかがえる。この状況は前回と全く変わっていない。

問(37)の「悩みごと」の回答結果では、「学業や研究の不振」、「進路」「就職」「経済状態」などが高い
ことを合わせて考えると、大学院に進学し、ある程度やりたい勉強や研究ができて、充実している一方で、
その勉強や研究もうまくいかないこともあり、経済的にも心配な面もあり、さらに、進路や就職といった
将来についての心配もあって、これらのことも影響していると推察される。それゆえ、心理的な支援もさ
ることながら、困っていることに対する現実的な支援をより積極的に実施していくことが必要と思われる。

図 4.3 過去 1 年間の精神的な健康状態について (全体)



第5章 相談相手について

5.1 相談相手について (問 39)

- ◎ 1 番目の相談相手は約 4 割弱が、「家族」を選択している。
- ◎ 2 番目は、「学内の友人」(24.4%) や「学外の友人」(18.9%) が多い。
- ◎ 相談相手の「特にない」という大学院生も 1 番目、2 番目で 5% 弱、3 番目で約 9%。

重要なことを話したり、悩みを相談する相手として、順に3つ回答を求めた。また、その人たちとの話す機会の頻度も尋ねた。最も多く1番目に選ばれたのは「家族」で、次に「恋人」や「学内の友人」、そして「学外の友人」と続いている。友人は2番目の相談相手の選択が多く、学内外の「先輩・後輩」はその次であった。「教員」は、学内の先輩・後輩と類似した結果であり、興味深いところである。この間に対する無効・無回答は比較的多く、「特にない」の選択率も考慮すると、相談相手のいない大学院生も比較的多く存在しているのかもしれない。それらの大学院生には、教職員から積極的につながっていく必要があり、注意しなくてはならない点である。相談相手と会話をする機会は、1番目、2番目、3番目の順に少なくなっており、教員は相談相手というサポート源としてはあまり機能していないようである。

図 5.1.1 悩みの相談相手について (全体)

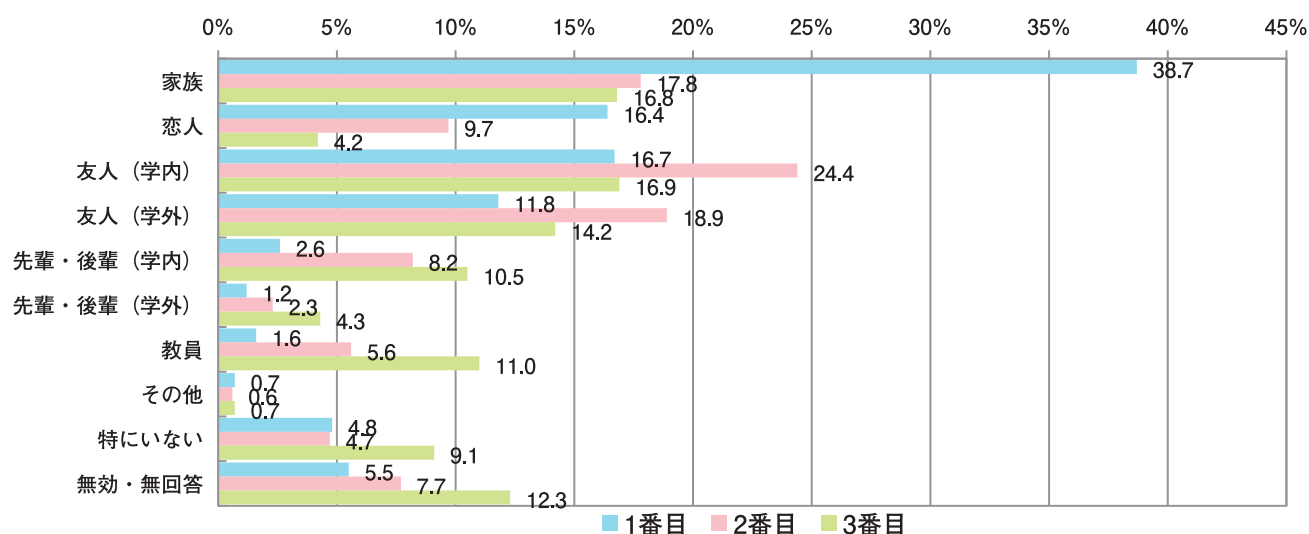
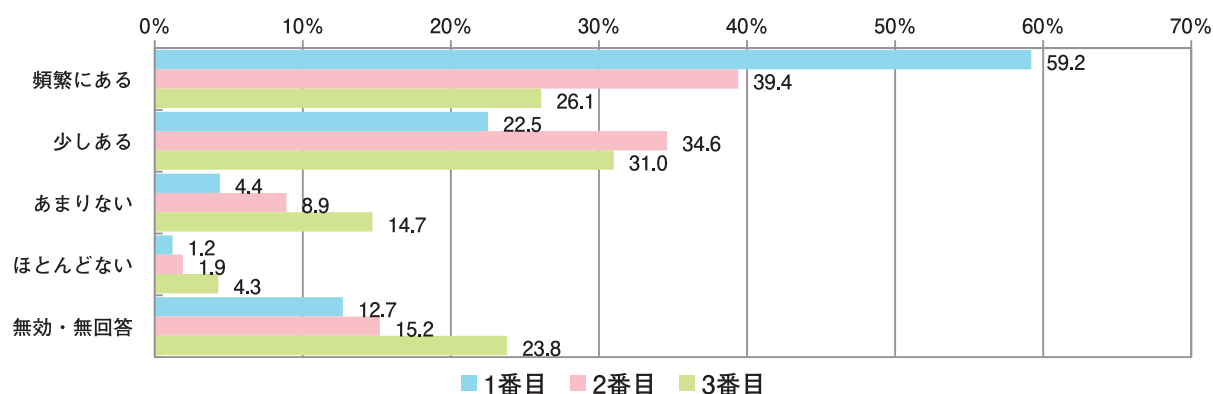


図 5.1.2 相談相手と話をする機会 (全体)



第6章 サークル活動について

6.1 サークル活動について（問40）

- ◎院生の2割弱がサークル活動に参加し、その多くは正式メンバーとしての活動。
- ◎人間総合ではコーチ・顧問としての活動が顕著。

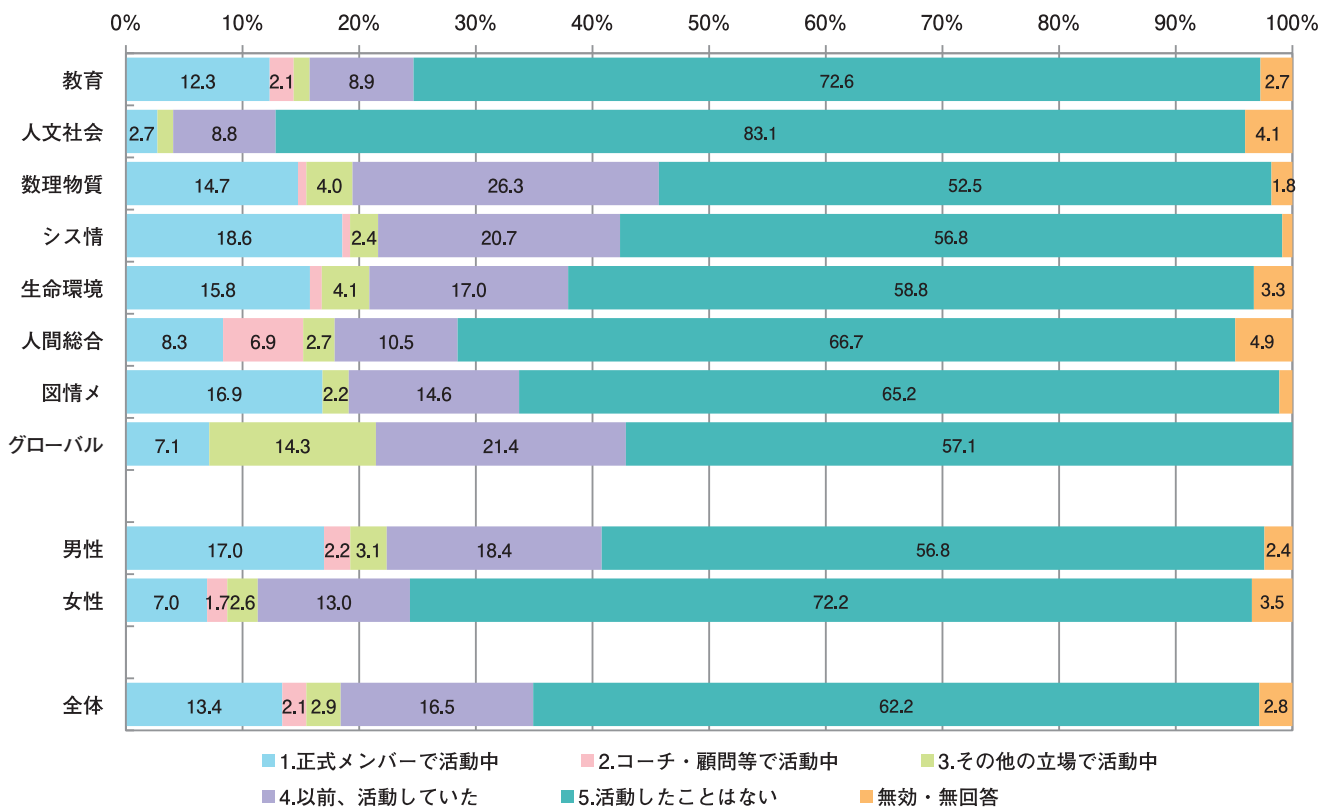
サークル活動への参加について、前回（平成22年度）に引き続き調査した。

全体では、サークル活動について「活動中（正式メンバー、コーチ・顧問など、その他の立場として）」と回答した大学院生は18.4%であり、8割以上の院生はサークル活動を行っていない。この結果は前回・前々回調査結果（17.3%、14.7%）とほぼ同様であり、参加率が低い傾向が続いている。

研究科別にみると、シス情・生命環境・数理物質ではサークル活動を行っている者が他の研究科に比べて多く、その大部分が正式メンバーとして活動している。逆に、人文社会ではサークル活動を行う者が他研究科に比べて顕著に少ない（4.1%）。また、人間総合ではコーチ・顧問として活動する院生が、他研究科に比べて非常に多い（6.9%）ことが明らかになった。

男女別では、男性でサークル活動を行っている者が女性に比べて約2倍（男性22.3%、女性11.3%）であることが判った。

図6.1 サークル活動について（研究科別、男女別、全体）



6.2 サークル活動の動機について（問 41）

◎サークル活動の動機は、「趣味と一致」「友人が欲しくて」「大学時代からの継続」が上位。

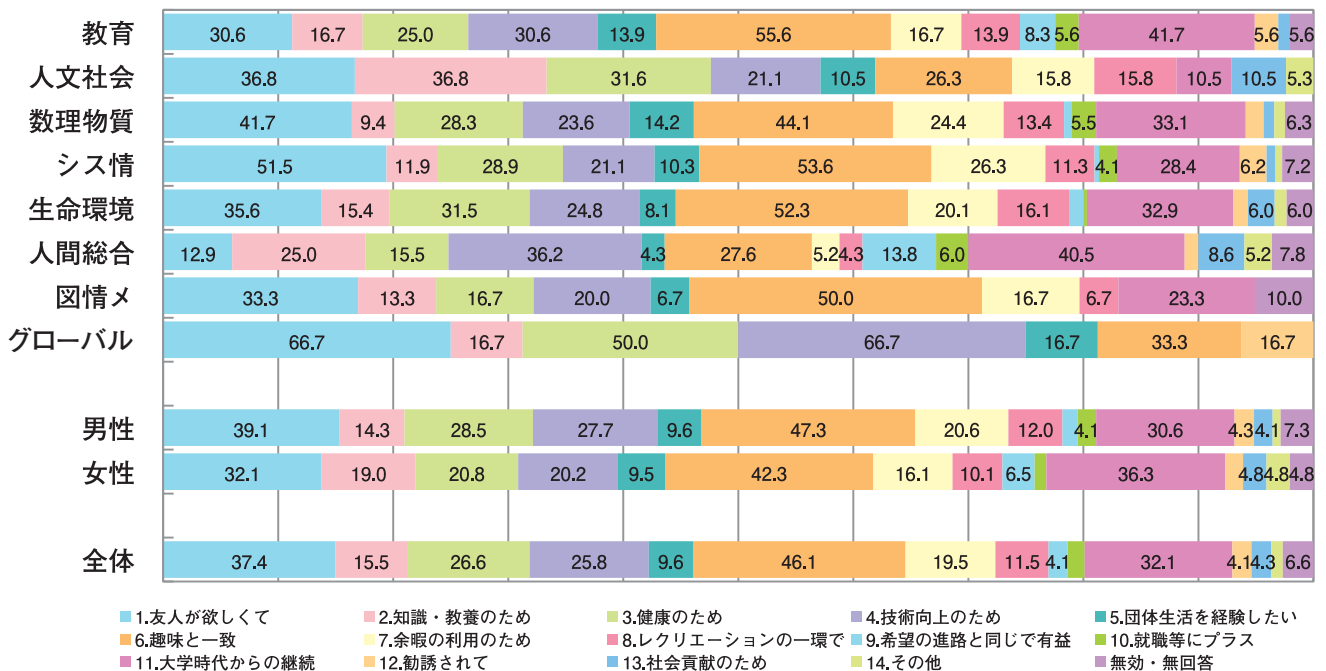
サークル活動をしている、または、以前していた大学院生を対象に、サークル活動の動機について、前回（平成 22 年度）に引き続き複数回答で調査した。

全体では、図 6.2 に示すように、「趣味と一致」、「友人が欲しくて」、「大学時代から継続」が上位 3 項目を占めたが、これは、前回の調査結果と同様である。

研究科別に見ると、人文社会・人間総合以外の研究科ではいずれも「趣味と一致」が第 1 位の動機であるのに対して、人文社会では「友人が欲しくて」「知識・教養のため」（ともに 36.8%）が上位、人間総合では「大学時代からの継続」（40.5%）、「技術向上のため」（36.2%）、「趣味と一致」（27.6%）の順で上位であり、やや異なる傾向を示した。

男女別では、大きな差ではないものの、男性において「友人が欲しくて」「技術向上のため」および「趣味と一致」が女性のそれらよりやや多い傾向が認められた（「友人が欲しくて」男性 39.1%、女性 32.1%；「技術向上のため」男性 27.7%、女性 20.2%；「趣味と一致」男性 47.3%、女性 42.3%）。一方女性では、「大学時代から継続」が多い傾向があった（男性 30.6%、女性 36.3%）。

図 6.2 サークル活動の動機（複数回答：研究科別、男女別、全体、%）



第7章 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について

7.1 教員に期待することについて（問42）

- ◎多くの院生は「優れた研究者であって欲しい」「指導時間を確保して欲しい」と望んでいる。
- ◎研究科ごとに異なる傾向で、「授業内容の充実」「解りやすい授業」が求められている。

前回調査（平成22年度）に引き続き、教員に期待することを調査した。3つまでの複数回答方式であった前回までと異なり、今回調査では最も期待すること1つを回答する方式で調査した。

図7.1に示すように、全体では、教員に対して「優れた研究者であって欲しい」と望んでいる者が(33.3%)最も多かった。以下回答率が高い順に、「研究指導の時間を確保して欲しい」(15.5%)と「授業内容を充実させて欲しい」(13.0%)であり、数値そのものは異なるが、前回調査と全く同じ傾向を示した。また、これらに続き、「もっと解りやすく教える」ことを期待している者が12.3%存在することが判った。

男女別に見た場合には、大きな違いではないものの、「優れた研究者であること」(男性35.3%、女性29.7%)を期待する者が男性回答者に多い傾向があった。一方、「研究指導の時間を確保して欲しい」(男性15.1%、女性16.1%)および「授業内容を充実させて欲しい」(男性11.6%、女性15.7%)には、女性回答者の期待が大きい傾向があり、若干の男女差が認められた。

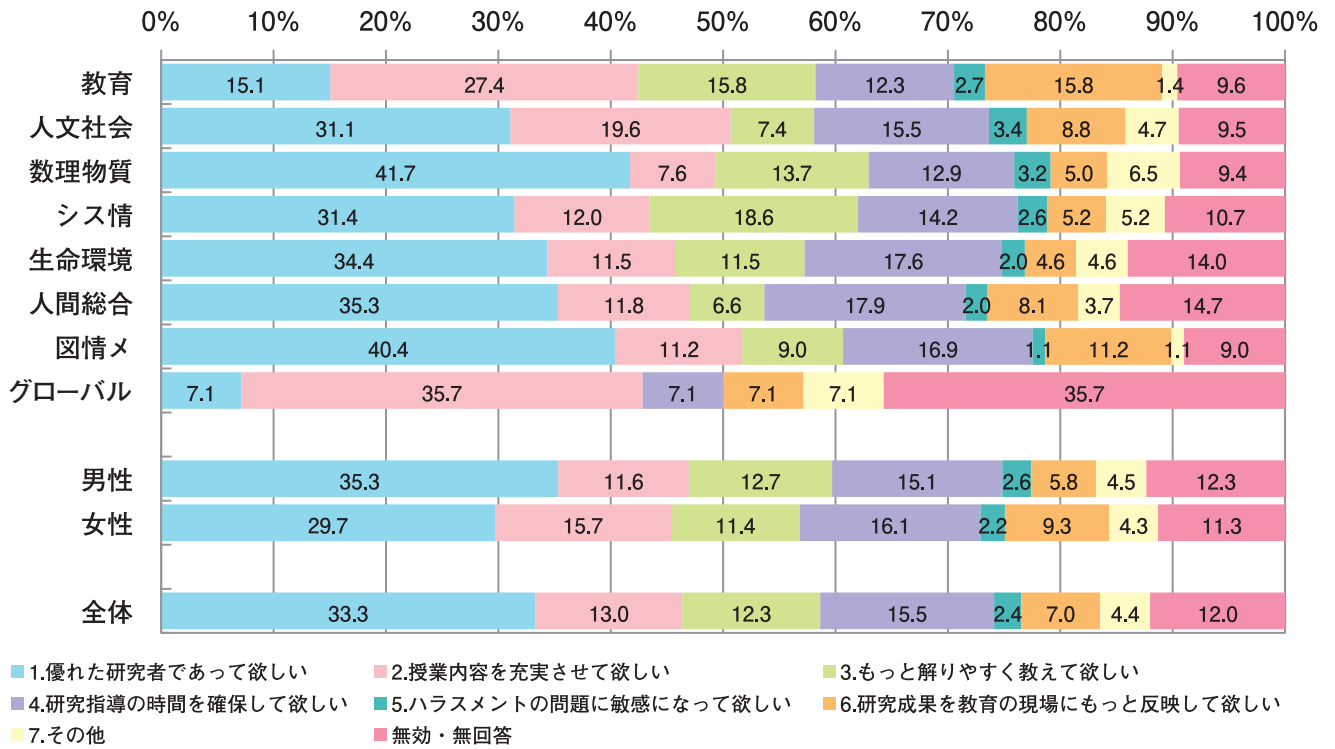
研究科別に見ると、教員に期待することにはばらつきがあることが明らかになった。教育以外の研究科ではすべて「優れた研究者であること」を期待する回答者が最も多かったのに対し(人文社会31.1%、数理工学41.7%、シス情31.4%、生命環境34.4%、人間総合35.3%、図情メディア40.4%)、教育では「授業内容の充実」を求める回答が27.4%で第1位であり、「優れた研究者であること」(15.1%)は第4位に留まった。また、「授業内容の充実」への期待が数理工学では第4位(7.6%)であるのに対し、教育(27.4%、第1位)と人文社会(19.6%、第2位)で上位を占めていた。また、「解りやすい授業」を求める声がシス情(18.6%)と教育(15.8%)で多く、「研究成果の教育現場への反映」を求める回答は、教育(15.8%)と図情メディア(11.2%)で多かった。なお、「ハラスメント問題の意識」を期待する回答は全体で2.4%、各研究科で1.1～3.2%といずれも上位ではなく、一定の意識改革が進んだことが認められる。

前回の調査にならいクロス分析を行った。まず、留学生であるかどうかとの関連について、多くの選択肢で大きな差はなかったが、「もっと解りやすく教える(留学生22.6%、非留学生12.0%)」「授業内容の充実(留学生20.7%、非留学生13.6%)」を期待する声が留学生から比較的多くあがっていた。また、「研究指導時間の確保(留学生12.1%、非留学生18.8%)」「優れた研究者であること(留学生27.9%、非留学生40.2%)」への期待が非留学生で多い傾向があった。

社会人経験の有無による違いはどの項目に関してもわずかであったが、その中で「研究成果の反映(社会人経験者10.2%、社会人未経験者7.4%)」を求める声が社会人経験者に若干多く、逆に「もっと解りやすく(社会人経験者11.1%、社会人未経験者14.8%)」を求める者が社会人未経験者に若干多い結果が得られた。

出身大学・大学院別にクロス分析をすると、「優れた研究者であること」へは、筑波大学出身者(40.1%)および国内他大学出身者(39.3%)が期待している一方で、国外大学・大学院出身者の期待は第1位であるものの27.0%が選択するに留まっており、「授業内容の充実」「もっと解りやすく」への期待がやや高い傾向が認められた。

図 7.1 教員に期待すること（研究科別、男女別、全体）



7.2 教育面や制度面で充実してほしい点について（問 43）

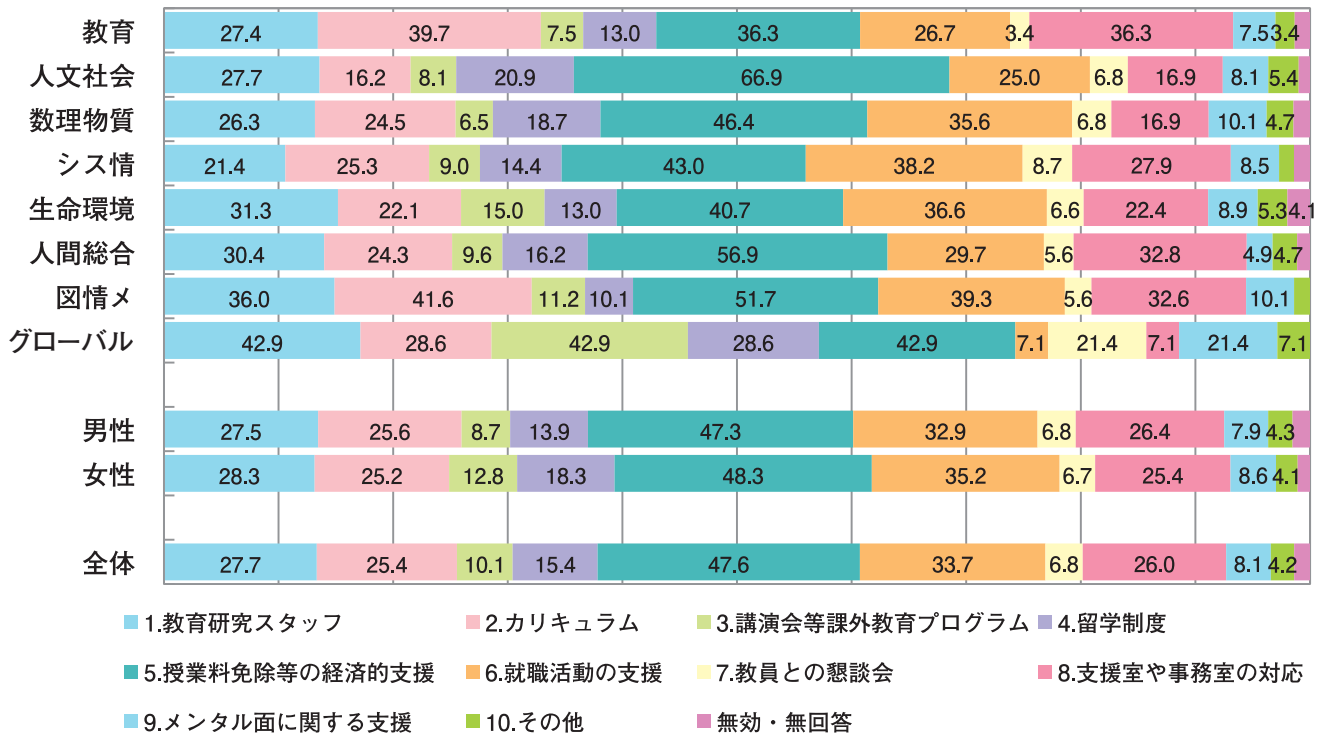
- ◎経済的支援・就職活動支援を充実させてほしいと感じている声が多い。
- ◎これらの要望は前回調査より増加傾向にある。

本学の教育面・制度面で充実させてほしいと感じている項目を3つ以内の複数回答で調査した（図 7.2）。全体で目立つのは、「経済的支援」（47.6%、前回 37.6%）と「就職活動支援」（33.7%、前回 29.2%）に対する要望である。学内支援体制だけでなく不況そのものの悪影響もあろうが、前回調査から増加傾向にあることに注意すべきであろう。その他、「教育研究スタッフ」（27.7%）と「支援室・事務室の対応」（26.0%）の回答率も2割を超えている。全体に男女差はわずかだが、「留学制度」（男性 13.9%、女性 18.3%）と「就職活動支援」（男性 32.9%、女性 35.2%）については女性の回答率が数ポイント高いことが認められた。

研究科ごとの傾向は様々で、「カリキュラム」については図情メディア（41.6%）と教育（39.7%）で高く、「経済的支援」については人文社会（66.9%）、人間総合（56.9%）、図情メディア（51.7%）で、「就職活動支援」については図情メディア（39.3%）とシス情（38.2%）で回答率が高い。「留学制度」に対する要望は全体では15.4%だが、人文社会（20.9%）、数理物質（18.7%）では回答が多かった。また、教育では「支援室・事務室の対応」についても回答率が高かった（36.3%）。

クロス分析の結果、筑波大学と国内他大学出身者は、「カリキュラム」「支援室・事務室の対応」を要望する声が多いが、「課外教育」と「経済的支援」については国外大学出身者の要望が多い傾向があった。また、社会人未経験者は「就職活動支援」「カリキュラム」「支援室・事務室の対応」への要望が若干多いのに対し、社会人経験者は「経済的支援」に対する要望が多いことが解った。

図 7.2 教育面や制度面で充実してほしい点（複数回答：研究科別、男女別、全体、%）



7.3 整備・充実してほしい施設について（問 44）

◎研究環境、図書館、外灯、IT 環境、駐輪場が要望の上位を占めた。

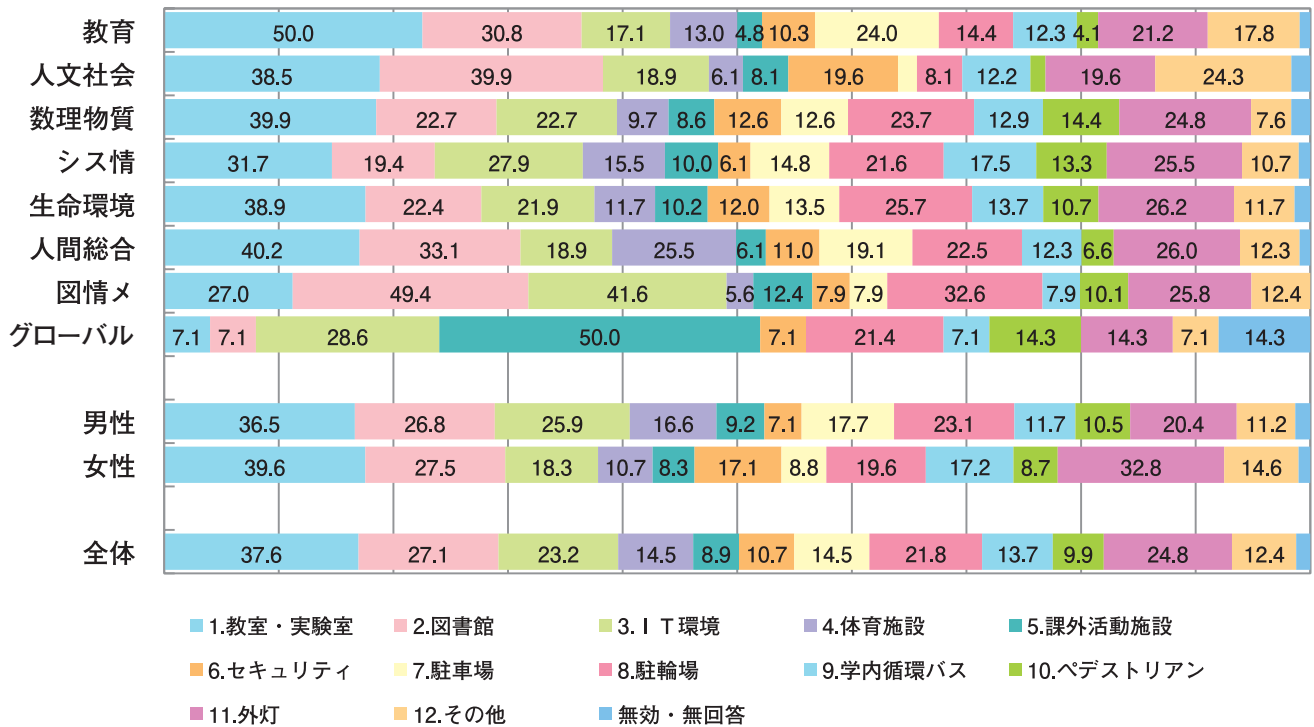
◎文系研究科では研究環境に不満が多く、理系研究科では交通関連の不満が多かった。

整備・充実を要望する設備を3つ以内の回答で調査した。学内所在地・周辺環境などの要因に伴い研究科ごとに傾向が違うが、全体に「セキュリティ」「外灯」について女性回答者の要望が高く、「体育施設」「駐車場」で男性回答者の要望が高い。

研究環境については文系研究科で不満が大きい傾向があった。「教室・実験室」は教育（50.0%、第1位）と人文社会（38.5%、僅差で第2位）で、「図書館」は図情メディア（49.4%、第1位）と人文社会（46.0%、第1位）で特に回答率が高い。「IT 環境」の回答率は図情メディア（41.6%、第2位）とシス情（27.9%）で高い。「セキュリティ」の要望は人文社会（19.6%）で高い。交通関連では、「駐車場」への不満が教育（24.0%）と人間総合（19.1%）で高く、「駐輪場」の回答率が図情メディア（32.6%）、生命環境（25.7%）、数理物質（23.7%）で高い。シス情は「学内循環バス」の回答率が（17.5%）やや高く、「外灯」は第3～4位であるもののすべての研究科で20～25%の者が充実を望む回答をしている。

「図書館」と「セキュリティ」については社会人経験者からの、「駐輪場」については社会人未経験者からの要望が多かった。また、「駐車場」「駐輪場」については筑波大学出身者・国内他大学出身者からの要望が多く、「課外活動施設」については日本国外大学・大学院出身者からの充実を求める声が多かった。

図 7.3 整備・充実してほしい施設（複数回答：研究科別、男女別、全体、%）



7.4 学内の福利厚生施設の満足度について（問 45）

- ◎パン販売、書店など、全体的にはほぼ満足。
- ◎食堂については、メニューの質やサービスに不満がみられる。

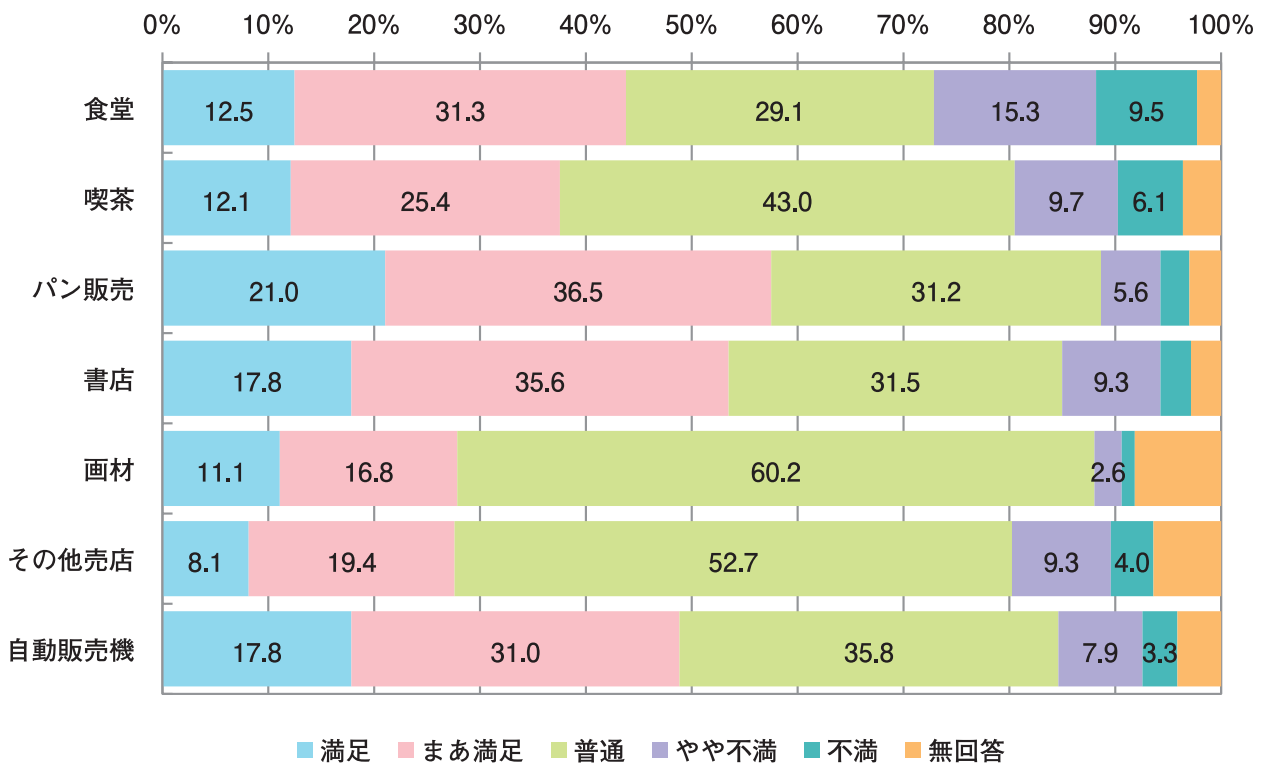
福利厚生施設の満足度について、「食堂」「喫茶」「パン販売」「書店」「画材」「その他売店」「自動販売機」の7項目で調査した。

この結果、パン販売、書店の満足度は高く6割に迫り、不満は1割程度となった。特にパン販売は、昼休みの限られた時間に自由な場所で食事ができること、限られた昼食代で多種類の中から選択できるという手軽さから高い評価を得ていると推測される。また、書店については、各エリアに配置された書店により、専門書が容易に購入できることや現金による割引（1割引）が満足度を高めたものと思われる。

食堂については、満足している学生は5割を下回っているが、不満の学生も2割を超える程度に留まっている。不満の理由としては、「味に対する不満」、「営業時間が短い」、「値段が高い」、「栄養のバランスが悪い」のほか、さまざまな理由が挙げられている。喫茶については、満足している学生が4割を下回っているが、不満の学生も2割以下となっている。画材、その他の売店については、「普通」と答える学生が多数派であった。

全体的には、大学の福利厚生施設に不満を感じている学生は多くないとの結果となっているが、日常的に利用する施設に対しては意見が多く、関心の高さを示している。

図 7.4 福利厚生施設の満足度（全体）



7.5 キャンパス内でのマナーについて（問 46）

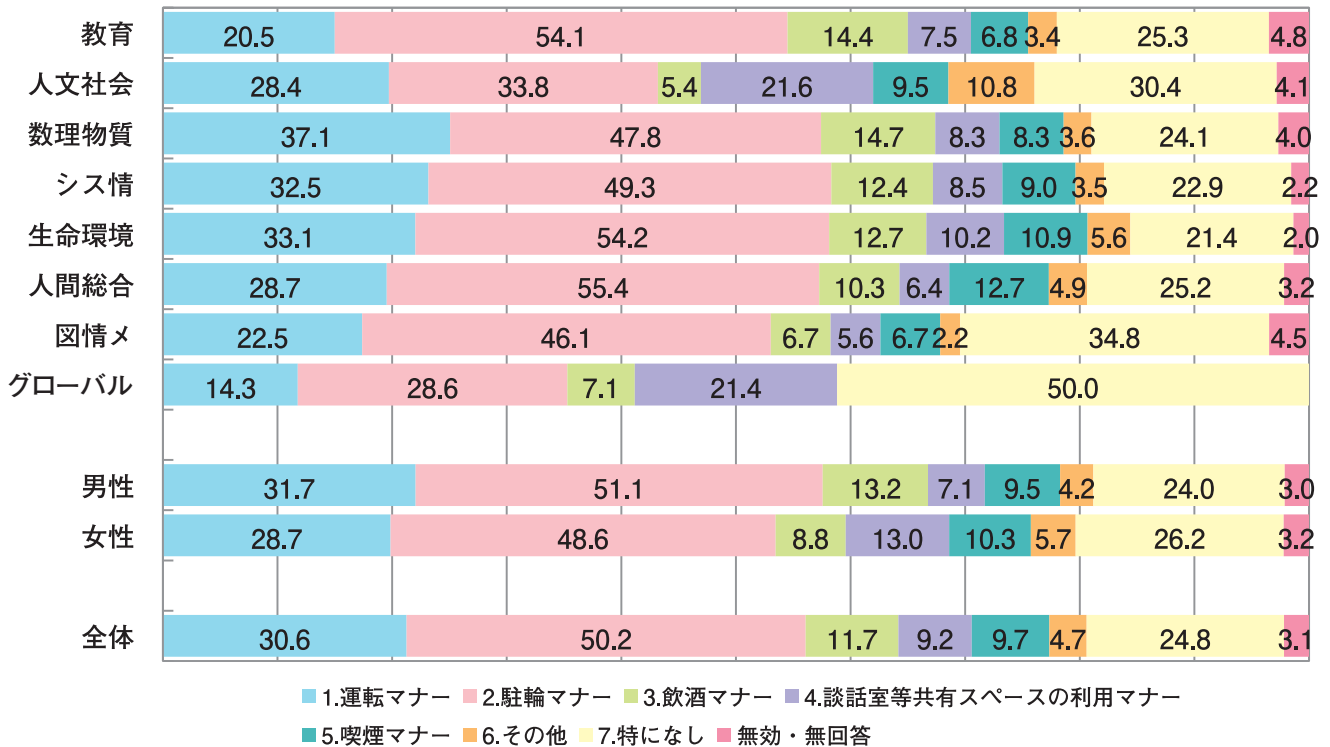
- ◎前回調査同様、自転車の運転マナー向上を望む声が多い。
- ◎キャンパスのごみ捨てマナーや図書館・宿舎でのマナーも指摘されている。

この項目では、あてはまる選択肢全てに回答してもらう形でキャンパスでのマナーについて向上を望んでいることを尋ねた。

全体としてマナー面で特に問題があると回答者が感じているのは、「駐輪マナー」（50.2%）、「運転マナー」（30.6%）の順で、前回調査時（平成 22 年度）にも回答率が高かった（前回調査の回答率は「自転車の運転マナー」（39.2%）、「自転車・バイクの駐輪マナー」（37.1%）、「自動車・バイクの運転マナー」（31.2%））。ついで「飲酒マナー」（11.7%）、「喫煙マナー」（9.7%）、「談話室等共有スペースのマナー」（9.2%）と続いている。

キャンパス内でのごみ捨てマナー、図書館でのマナー、宿舎やキャンパス内での夜間の騒音についても指摘があった。

図 7.5 向上を望むマナー（研究科別、男女別、全体、%）



第 8 章 進路や就職活動について

8.1 修了後の進路について (問 47)

- ◎修了後の進路は「進学」9.8%、「就職」58.6%、「研究員」3.9%、「復職」3.4%。
 ◎修士課程は「企業への就職」(47.2%)、博士課程は「大学教員」(21.3%)が最も高い。

大学院修了後の進路としては、約 1 割 (9.8%) が進学、約 6 割 (58.6%) が就職を回答している。進学では、筑波大学大学院への進学が大半 (進学者中の 75.8%) を占めており、筑波大学大学院での研究の継続を志向していることが伺える。就職では、企業への就職が最も高く (就職者中の 64.5%)、次いで小・中・高校の教員 (13.3%)、大学教員 (11.4%) が続く。修士課程等と博士課程の傾向を見るために、表注 1～3 のように分類し、再集計したところ、修士課程では、「企業 (への就職)」(47.2%) が群を抜いて高く、「小・中・高校の教員 (への就職)」(10.3%)、「筑波大学大学院 (への進学)」(10.0%) と続く。博士課程では、「大学教員」(21.3%) が最も高く、次いで「企業 (への就職)」(11.2%)、「研究員・研究生等」(10.2%) となっている。博士課程においては、進路は未定 (「決まっていない」+「まだ決まっていない」) の割合が 3 割を超えており、博士取得後の進路状況の厳しさを反映しているとともに、博士課程学生に対するキャリア形成支援の充実が期待される。

表 8.1.1 修了後の進路について<概況> (全体、課程別、研究科別、男女別 回答数は実数、他は%)

		回答数	進学計	就職計	復職計	研究員 研究生等 計※3	未定 その他 計	無回答	計
全体		1,939	9.8	58.6	3.4	3.9	18.2	6.1	100.0
課程別	修士課程・博士前期課程等※1	1,426	12.3	66.1	2.5	1.7	13.0	4.4	100.0
	博士後期課程・3年制博士課程等※2	492	2.8	38.0	5.9	10.2	33.5	9.6	100.0
研究科別	教育研究科	146	4.1	71.9	9.6	0.0	8.2	6.2	100.0
	人文社会科学研究科	148	10.8	35.8	2.7	4.7	35.1	10.8	100.0
	数理物質科学研究科	278	16.5	55.8	1.4	5.8	14.0	6.5	100.0
	システム情報工学研究科	458	5.0	77.5	1.7	0.9	11.8	3.1	100.0
	生命環境科学研究科	393	10.9	52.7	3.6	7.9	18.6	6.4	100.0
	人間総合科学研究科	408	12.5	48.0	4.2	3.2	24.8	7.4	100.0
	図書館情報メディア研究科	89	4.5	67.4	2.2	0.0	22.5	3.4	100.0
	その他 (グローバル教育院等)	14	7.1	28.6	7.1	28.6	14.3	14.3	100.0
男女別	男性	1,248	10.1	63.1	3.0	4.2	13.9	5.7	100.0
	女性	690	9.3	50.6	3.9	3.5	25.9	6.8	100.0

※1「修士課程・博士前期課程等」は一貫制博士課程の1年目・2年目を含む

※2「博士後期課程・3年制博士課程等」は一貫制博士課程の3年目～6年目以上を含む

※3「研究員・研究生等」は本学特別研究員、日本学術振興会、研究生等

表 8.1.2 修了後の進路について<詳細> (全体、課程別、研究科別、男女別、すべて%)

	全体	課程別		研究科別									男女別	
		修士課程・博士前期課程等※1	博士後期課程・3年制博士課程等※2	教育研究科	人文社会科学研究科	数理工学科学研究所	システム情報工学研究科	生命環境科学研究所	人間総合科学研究所	図書館情報メディア研究科	その他(グローバル教育院等)	男性	女性	
1. (進学等) 筑波大学大学院	7.5	10.0	0.4	2.7	8.1	12.6	3.5	9.2	9.3	4.5	0.0	7.4	7.7	
2. (進学等) 国内の他大学大学院	0.5	0.6	0.2	0.7	0.0	1.1	0.4	0.0	0.7	0.0	0.0	0.6	0.1	
3. (進学等) 海外の大学院	1.4	1.3	1.8	0.0	2.7	2.5	0.9	1.3	1.5	0.0	7.1	1.6	1.0	
4. (進学等) その他	0.5	0.5	0.4	0.7	0.0	0.4	0.2	0.5	1.0	0.0	0.0	0.5	0.4	
5. 研究員、研究生等※3	3.9	1.7	10.2	0.0	4.7	5.8	0.9	7.9	3.2	0.0	28.6	4.2	3.5	
6. (就職) 企業	37.8	47.2	11.2	4.1	12.2	48.2	71.6	39.4	12.3	43.8	7.1	43.3	27.8	
7. (就職) 大学教員	6.7	1.6	21.3	0.0	20.3	2.2	2.0	2.5	15.4	9.0	21.4	7.1	5.9	
8. (就職) 小・中・高校の教員	7.8	10.3	0.8	61.6	1.4	1.8	0.4	1.5	11.3	0.0	0.0	7.1	9.1	
9. (就職) 公務員	4.1	5.0	1.4	4.1	0.7	3.2	1.5	6.4	5.6	10.1	0.0	3.5	5.2	
10. (就職) 自営・起業	0.7	0.7	0.8	0.7	0.0	0.4	0.7	0.8	1.2	1.1	0.0	0.8	0.6	
11. (就職) その他	1.5	1.2	2.4	1.4	1.4	0.0	1.3	2.0	2.2	3.4	0.0	1.4	1.9	
12. (復職) 企業	0.5	0.1	1.6	0.0	0.0	0.7	0.2	0.8	0.7	0.0	0.0	0.6	0.4	
13. (復職) 大学教員	0.6	0.1	2.0	0.0	1.4	0.7	0.2	1.3	0.5	0.0	0.0	0.5	0.9	
14. (復職) 小・中・高校の教員	0.8	1.1	0.2	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.1	0.0	1.0	0.6	
15. (復職) 公務員	0.9	0.9	1.0	0.0	1.4	0.0	1.3	1.3	0.7	1.1	7.1	0.8	1.2	
16. (復職) 自営	0.2	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0	0.1	0.3	
17. (復職) その他	0.3	0.2	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.2	0.6	
18. その他	1.3	0.8	3.0	1.4	0.7	0.4	0.9	2.5	1.5	2.2	0.0	1.0	1.9	
19. 決まっていない	15.6	11.6	27.4	5.5	33.1	12.2	10.3	15.3	20.8	19.1	14.3	12.0	22.0	
20. まだ考えていない	1.3	0.7	3.0	1.4	1.4	1.4	0.7	0.8	2.5	1.1	0.0	0.9	2.0	
無効・無回答	6.1	4.4	9.6	6.2	10.8	6.5	3.1	6.4	7.4	3.4	14.3	5.7	6.8	

※1「修士課程・博士前期課程等」は一貫性博士課程の1年目・2年目を含む

※2「博士後期課程・3年制博士課程等」は一貫性博士課程の3年目～6年目以上を含む

※3「研究員・研究生等」は本学特別研究員、日本学術振興会、研究生等

8.2 修了後の外国での就労希望について（問 48）

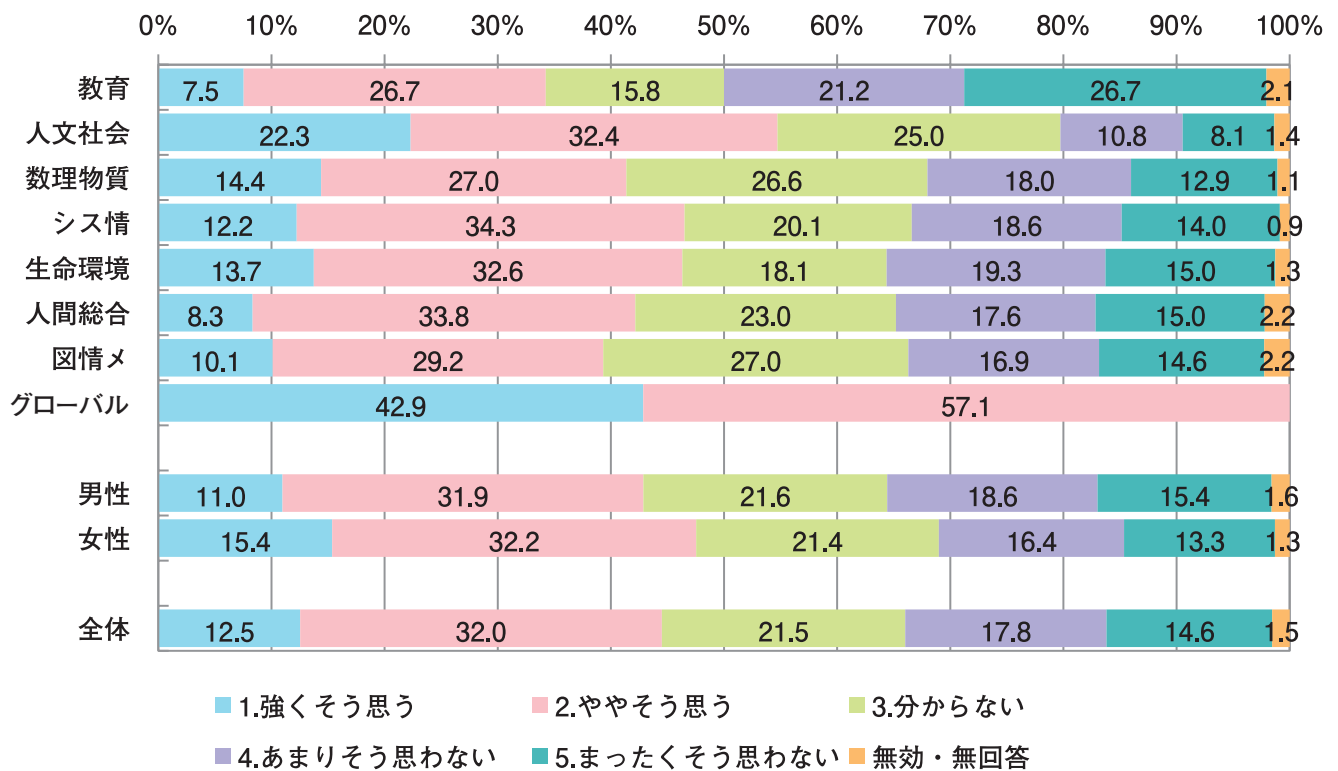
◎約半数の学生が外国での就労を視野に。

◎学群生より高い大学院生の国際志向（学群生 29.3%、大学院生 44.5%）。

今回調査で初めて、修了後の外国での就労希望について尋ねたところ、44.5%が外国での就労を視野に入れていることがわかった（「強くそう思う」+「ややそう思う」）。研究科別にみると、際立った差はないが、人文社会で高く（54.7%）、教育（34.2%）で低い傾向がある。男女別では、男子に比べ女子の方がやや高い（男子 42.9%、女子 47.6%）。

学群と大学院とを比較すると、外国での就労を視野に入れている学生の割合は、大学院の方がかなり高い（大学院 44.5%、学群 29.3%）。留学生の回答も含まれるため、留学生割合の差が影響していることも考えられるが、今後の動向が注目される。

図 8.2 修了後の外国での就労希望（研究科別、男女別、全体）



8.3 進路決定の理由について（問 49）

- ◎進路は「やりがい」「自分の能力や適性」「安定した生活」を考えて決定。
- ◎「大学院での学修の活用」「大学院での研究の活用」を重視する割合は低い。

進路選択の理由について、「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して3つまでの複数回答を求め、無回答を除く集計を行ったところ、全体では、「やりがい」（42.3%）が最も多く、次いで「自分の能力や適性」（38.4%）、「安定した生活」（30.4%）があげられた。「大学院での学修の活用」（4.7%）、「大学院での研究の活用」（8.0%）は相対的に低い。

男女別にみると、「やりがい」をもっとも重視する傾向に変化はないが、ポイント差が比較的大きいものを見ていくと、男子においては「年収」「安定した生活」が、女子においては「自分の能力や適性」、「専門知識を深める」、「大学院での研究の活用」が相対的に重視される傾向がある。

研究科別にみると、進路決定の理由はかなり異なっている。教育研究科においては「やりがい」、「社会的貢献」の比率が際立って高く「年収」「安定した生活」が相対的に重視されていない点が特徴的である。また、人文社会においては、「やりがい」よりも「自分の能力や適性」が重視されており、「専門知識を深める」「大学院での研究の活用」も相対的に高いことから、「自分の専門を生かして、能力や適性を活かすこと」を求める傾向が強い。

表 8.3 進路決定の理由について（複数回答：研究科別、男女別、全体、集計母数以外は%）

研究科名等	教育	人文社会	数理物質	シス情	生命環境	人間総合	図情メ	グローバル	男性	女性	全体
集計母数※	73	69	165	332	233	206	59	4	755	388	1,143
1. やりがい	67.1	26.1	40.0	39.2	42.9	46.6	39.0	25.0	42.3	42.5	42.3
2. 社会的貢献	26.0	17.4	12.1	17.8	21.9	16.0	16.9	0.0	18.4	17.0	17.9
3. 年収	11.0	17.4	24.2	19.6	12.0	7.3	10.2	0.0	17.0	11.9	15.2
4. 安定した生活	24.7	30.4	35.2	34.0	28.8	24.3	35.6	0.0	31.4	28.6	30.4
5. 自分の能力や適性	37.0	42.0	29.7	38.3	38.2	42.2	44.1	75.0	37.1	41.0	38.4
6. 専門知識を深める	5.5	17.4	9.1	10.5	8.6	15.0	10.2	25.0	9.7	13.1	10.8
7. 大学院での学修の活用	5.5	8.7	4.8	4.2	3.0	5.3	5.1	25.0	4.4	5.4	4.7
8. 大学院での研究の活用	4.1	15.9	7.3	3.9	9.4	11.7	8.5	25.0	6.9	10.1	8.0
9. 社会的評価	0.0	1.4	2.4	4.8	2.1	1.0	1.7	0.0	2.4	2.8	2.5
10. 将来性	2.7	11.6	15.8	15.7	12.0	6.8	10.2	0.0	11.5	12.6	11.9
11. 地理的利便性	1.4	1.4	2.4	3.0	4.7	1.0	3.4	0.0	2.8	2.6	2.7
12. その他	0.0	1.4	1.8	1.8	3.9	3.9	0.0	0.0	2.5	2.1	2.4

※集計母数は無回答を除く回答者数

8.4 将来の進路についての感じ方について（問 50）

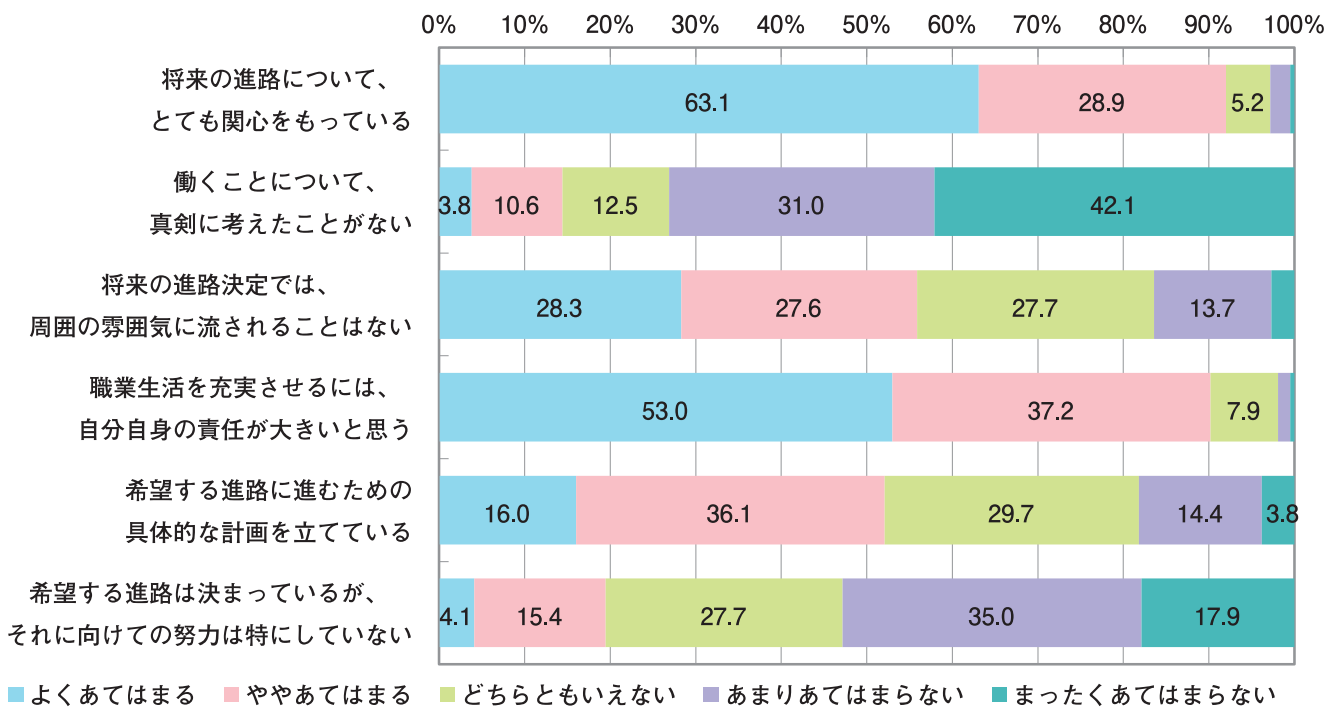
- ◎将来の進路について関心を持っている者は92.0%。
- ◎職業生活を充実させるためには自分自身の責任が大きいと感じている者は90.2%。
- ◎希望する進路に進むための具体的な計画を立てている者は52.1%。

「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して、将来の進路についての感じ方を尋ね、無回答を除く集計を行ったところ、進路への関心の程度については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が92.0%であった。働くことについて真剣に考えた経験についての肯定的な回答（反転項目のため「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の合計）は73.1%であり、将来への関心の高さと比較すると、働くことへの関心は相対的に低めとなっている。

進路決定や職業生活に対する自律の程度を尋ねたところ、進路決定場面における自律度については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計は55.9%であった。職業生活全体における自律度においては、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計は90.2%であり、職業生活の充実のためには自立が重要であると認識されていた。

進路を実現するための計画や実行の程度を尋ねたところ、計画の具体性については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答の合計が52.1%であった。

図 8.4 将来の進路についての感じ方（全体）



8.5 就職活動の情報源について (問 51)

- ◎就職活動の情報源として役立ったのは、「インターネット」(51.2%)。
 ◎「ゼミの同輩・先輩」(38.7%)、「指導教員」(21.1%)、「キャリア支援室・就職課」(17.3%)
 がポイント増。大学のつながりで得られる生の情報が重視される傾向に。

「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して、就職活動の情報源について3つまでの複数回答を求めたところ、もっとも高かったのは「インターネットによる企業情報」(51.2%)である。次いで「ゼミの同輩・先輩」(38.7%)、「指導教員」(21.1%)があげられており、大学院生においては、指導教員を含む研究室やゼミのつながりが重要な情報源となっている。また大学が提供している支援である「就職課・キャリア支援室」については17.3%、「就職ガイダンス」については14.5%が役に立った情報源としてあげている。

男女別にみると、男性は「OB・OG」や「指導教員」を役立ったとする割合がやや高く、女性は「就職課・キャリア支援室」「就職資料コーナー」を役立ったとする割合が高い。

前回、前々回調査と比較すると、「インターネットによる企業情報」の割合は減少傾向にある一方で、「ゼミの同輩・先輩」、「指導教員」、「就職課・キャリア支援室」を役立った情報源としてあげる割合が増加している。画一的な情報ではなく、大学のつながりで得られる生の情報が重視される傾向がみられる。

表 8.5 就職活動に役立った情報源 (複数回答：研究科別、男女別、全体、集計母数以外は%)

研究科名等	教育	人文 社会	数理 物質	シス情	生命 環境	人間 総合	図情メ	グローバル	男性	女性	全体
集計母数※	58	56	146	309	206	167	51	3	672	325	997
1. 指導教員	27.6	32.1	17.8	15.5	15.5	31.1	31.4	66.7	22.5	18.2	21.1
2. 専攻等の就職委員	3.4	0.0	3.4	9.4	2.4	3.6	9.8	33.3	5.2	5.5	5.3
3. ゼミの同輩・先輩	46.6	25.0	36.3	43.4	41.7	29.9	39.2	66.7	39.4	37.2	38.7
4. 就職課・キャリア支援室	10.3	14.3	20.5	15.5	23.3	15.0	13.7	0.0	14.7	22.5	17.3
5. スチューデントプラザの 就職資料コーナー	10.3	5.4	5.5	3.6	5.8	7.2	2.0	0.0	4.0	8.0	5.3
6. 大学の情報提供システム	8.6	7.1	6.2	11.7	5.3	5.4	2.0	0.0	8.3	5.8	7.5
7. 大学の就職ガイダンス	5.2	10.7	24.0	16.5	17.0	7.2	3.9	33.3	13.8	16.0	14.5
8. 就職情報誌	3.4	3.6	11.0	10.0	9.7	7.2	17.6	0.0	9.7	8.3	9.2
9. 企業からのDM	0.0	3.6	9.6	4.5	4.4	3.0	3.9	0.0	4.6	4.6	4.6
10. インターネット	29.3	51.8	55.5	54.7	59.2	37.1	54.9	33.3	53.1	47.1	51.2
11. インターンシップ	5.2	12.5	4.1	14.6	4.9	5.4	7.8	33.3	8.6	8.3	8.5
12. OB・OG	13.8	8.9	16.4	23.6	17.0	25.1	7.8	0.0	20.2	16.9	19.2
13. その他	12.1	3.6	7.5	4.5	9.7	11.4	7.8	0.0	6.7	9.8	7.7

※集計母数は無回答を除く回答者数

8.6 指導教員への相談について（問 52）

- ◎約 4 割が指導教員に相談（「たびたび相談した」＋「時々相談した」）。
- ◎わずかではあるが「相談しようとしたが断られた」学生も。

「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して、進路について指導教員にどの程度相談しているかを尋ね、無回答を除く集計を行ったところ、全体では、指導教員に「相談した」学生は「時々相談した」を含め 37.3%である。約 3 分の 1 にあたる学生が指導教員に相談しているということになる。研究科別にみると、指導教員に相談している割合が高いのは図情メディア（54.9%）、人文社会（53.7%）、低いのは数理物質（28.4%）シス情（31.4%）である。わずかではあるが、「相談しようとしたが断られた」と答えた学生が存在している。

表 8.6 指導教員への相談（研究科別、男女別、全体、集計母数以外は%）

研究科名等	教育	人文社会	数理物質	シス情	生命環境	人間総合	図情メ	グローバル	男性	女性	全体
集計母数※	59	54	148	306	209	171	51	3	677	325	1,002
1. たびたび相談した	8.5	14.8	7.4	4.9	6.7	9.9	13.7	33.3	7.8	7.7	7.8
2. 時々相談した	25.4	38.9	20.9	26.5	30.6	36.8	41.2	0.0	28.8	31.1	29.5
3. ほとんど相談していない	35.6	22.2	28.4	35.3	34.0	25.7	29.4	0.0	31.6	30.5	31.2
4. 相談はしていない	30.5	22.2	42.6	32.4	27.3	25.7	15.7	66.7	30.7	29.5	30.3
5. 相談しようとしたが断られた	0.0	0.0	0.7	0.3	1.0	0.6	0.0	0.0	0.3	0.9	0.5
6. その他	0.0	1.9	0.0	0.7	0.5	1.2	0.0	0.0	0.7	0.3	0.6

※集計母数は無回答を除く回答者数

8.7 就職活動の学習・研究への影響について（問 53）

◎約 6 割が「学習・研究に支障あり」と回答（「支障は多少出ている」+「支障がとても出ている」）。

今回の調査で初めて、就職活動によって学習・研究に支障が出ているかどうかを尋ねた。対象を「就職活動を行った」「就職活動中」の者に限定して、無回答を除く集計を行ったところ、「支障がとても出ている」17.9%、「支障が多少は出ている」が42.8%となり、あわせて6割以上（61.7%）の学生が学習への支障が出たと回答している。

研究科別にみると、「支障が多少は出ている」「支障がとても出ている」とする割合が相対的に高いのは教育（70.7%）。相対的に低いのは人文社会（35.4%）である。男女別では際立った差はみられない。

表 8.7 学習・研究への影響（研究科別、男女別、全体、集計母数以外は%）

研究科名等	教育	人文社会	数理物質	シス情	生命環境	人間総合	図情メ	グローバル	男性	女性	全体
集計母数※	58	48	148	304	207	167	49	2	667	317	984
1. 支障はまったく出していない	1.7	35.4	14.2	9.9	9.7	17.4	14.3	50.0	11.8	14.8	12.8
2. 支障はほとんど出していない	27.6	29.2	19.6	26.3	22.7	35.9	30.6	0.0	26.4	26.8	26.5
3. 支障が多少は出ている	50.0	27.1	39.2	45.1	49.3	37.1	36.7	50.0	42.3	43.8	42.8
4. 支障がとても出ている	20.7	8.3	27.0	18.8	18.4	9.6	18.4	0.0	19.5	14.5	17.9

※集計母数は無回答を除く回答者数

第9章 その他

9.1 学修や研究・生活に関わる情報源について（問 54）

◎情報源は、指導教員と友人が最も多い。

学修・研究や生活に関わる一般的な情報源としてもっとも多くあげられたのが友人等（57.5%）であり、二番目に指導教員（47.9%）であった。学群と比べると大学院では指導教員の役割が特に重要であることがわかる。留学生は日本人学生と比べ、研究科・専攻の掲示板をよく使っているようである。

表 9.1.1 学修・研究や生活に関わる一般的な情報源（全体、研究科別、%）

	全体	教育	人文 社会	数理 物質	シス情	生命 環境	人間 総合	図情メ	グローバル
1. 指導教員	47.9	42.5	53.4	41.7	40.0	54.5	52.2	61.8	50.0
2. 研究科・専攻の事務職員	21.4	16.4	36.5	22.3	17.5	24.4	18.4	15.7	71.4
3. 友人等	57.5	67.1	45.3	52.9	59.0	59.3	62.0	44.9	42.9
4. 研究科・専攻の掲示板	28.4	30.1	39.9	30.2	27.1	24.4	27.7	31.5	21.4
5. TWINS 掲示板	4.4	2.7	4.7	9.4	5.2	2.8	2.9	1.1	7.1
6. 大学の HP	29.5	29.5	20.3	28.4	34.3	31.8	27.2	24.7	28.6
7. 研究科・専攻等の HP	22.3	11.6	15.5	25.9	40.4	15.8	10.3	28.1	28.6
8. 専攻等のメーリングリスト	9.2	11.0	19.6	4.3	7.6	13.5	7.1	3.4	14.3
9. SNS	6.6	6.2	2.0	4.7	9.4	6.1	6.1	12.4	0.0
10. その他	2.8	0.7	4.1	2.2	2.4	2.8	4.4	2.2	0.0
人数計	1,939	146	148	278	458	393	408	89	14

表 9.1.2 学修・研究や生活に関わる一般的な情報源（留学生・日本人学生別、%）

	全体	留学生	日本人学生
1. 指導教員	47.9	53.5	47.7
2. 研究科・専攻の事務職員	21.4	26.9	20.5
3. 友人等	57.5	56.3	59.2
4. 研究科・専攻の掲示板	28.4	38.6	26.8
5. TWINS 掲示板	4.4	5.4	4.3
6. 大学の HP	29.5	22.8	31.7
7. 研究科・専攻等の HP	22.3	15.8	24.3
8. 専攻等のメーリングリスト	9.2	11.4	8.9
9. SNS	6.6	8.7	6.2
10. その他	2.8	3.3	2.8
人数計	1,939	373	1,549

9.2 相談機関について（問 55）

- ◎ 4 つの相談機関の利用率は、0.3%から 13.9%と低調である。
- ◎ 新たに相談窓口ができた春日地区では、総合相談窓口の利用率が伸びた。

前回調査で利用率が 1.3%と特に低く対策の必要性が指摘されていた春日地区に新たに相談窓口が設けられた。その結果、春日地区にある図情メディアでの利用率は他研究科とほぼ同様の 4.5%となった。窓口が近くにあることで、利用率が上がることを示された結果となった。4 つの相談機関の利用率は、順に保健管理センター学生相談室、総合相談窓口、保健管理センター精神科、ハラスメント相談員制度、ワーク・ライフ・バランス相談室であった。

留学生の相談機関の利用率は日本人学生に比べると低いものの、前回調査からどの相談機関も微増しており、少しずつ認知度が上がっていると思われる。引き続き相談機関の PR と相談窓口の新規開設が望まれる。

図 9.2 相談機関の利用率・認知率（全体）

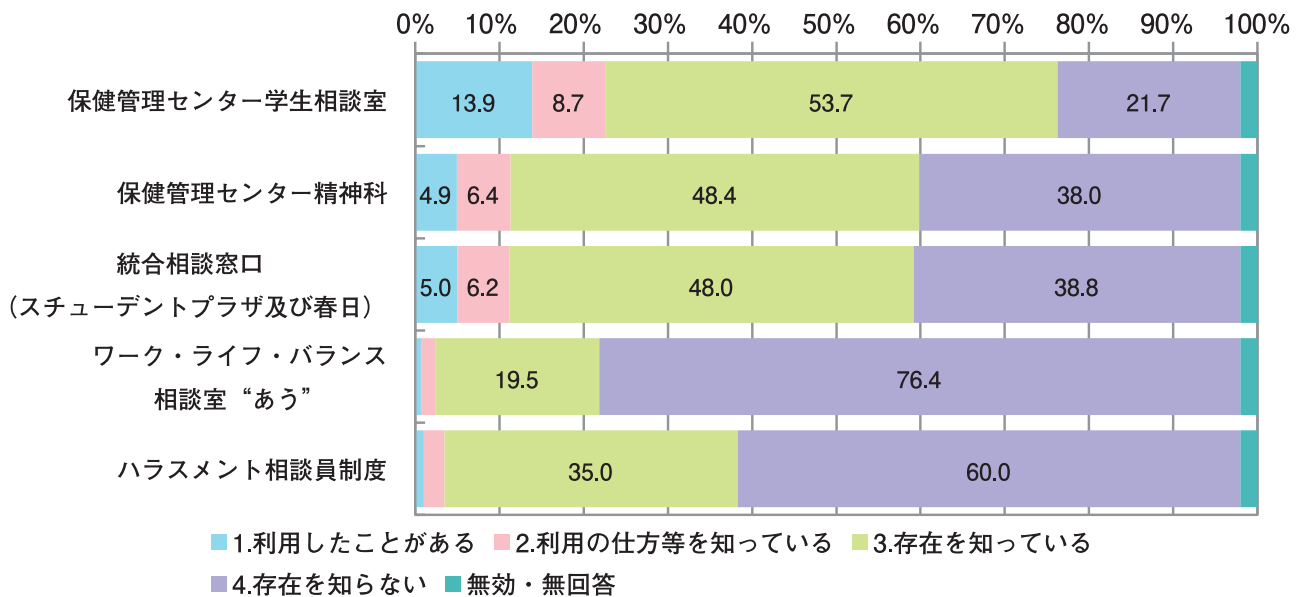


表 9.2 相談機関の利用率（留学生 / 日本人別、%）

	全体	留学生	日本人学生
保健管理センター学生相談室	13.9	11.5	14.9
保健管理センター精神科	4.9	2.8	5.5
総合相談窓口（スチューデントプラザ及び春日）	5.0	7.0	4.7
ワーク・ライフ・バランス相談室 “あう”	0.3	0.3	0.3
ハラスメント相談員制度	0.6	0.8	0.6
人数計	1,939	373	1,549

9.3 学内広報誌について (問 56)

- ◎学内広報誌はあまり読まれていない。
- ◎最も読まれている「筑波大学生新聞」でも、定期的読者は14.4%。

「筑波大学新聞」を定期的に読む大学院生が14.4%で一番多く、その他は10%以下であり、「どれも読まない」という回答が74.1%となった。留学生と日本人学生を比較してみると、全ての広報誌について留学生の方が読む率が低いことが分かった(表9.3)。今後は、留学生が関心を持つような紙面構成を考慮する必要がある。研究科・専攻が独自に出している広報誌を読むと答えた学生もおり、広報誌の多様化も伺える。

図 9.3 広報誌の定期的読者 (全体)

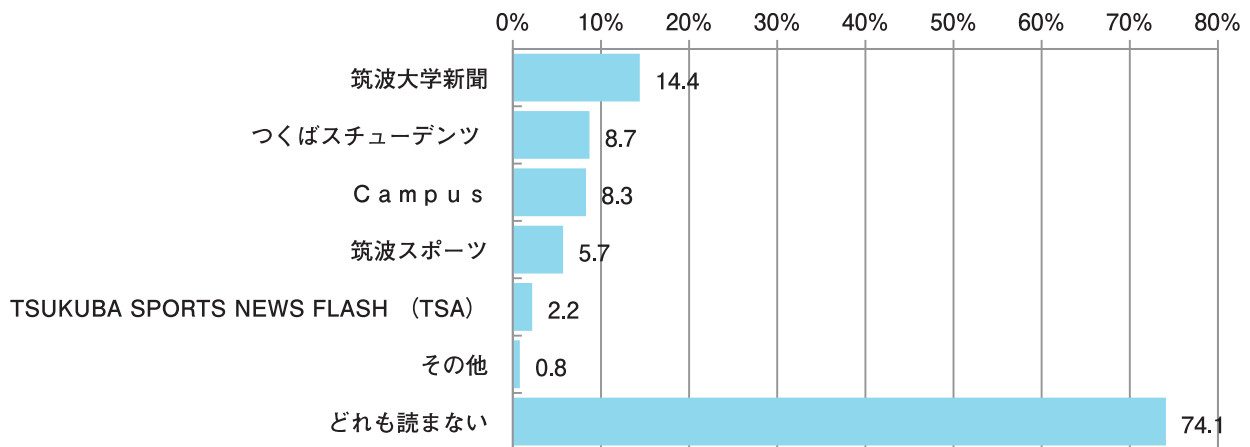


表 9.3 広報誌の定期的読者 (留学生／日本人、研究科別、%)

	全体	留学生	日本人学生	教育	人文社会	数理物質	シス情	生命環境	人間総合	図情メ	グローバル
1. 筑波大学新聞	14.4	12.4	15.1	13.0	16.9	10.1	12.7	13.5	19.9	15.7	7.1
2. つくばスチューデント	8.7	6.0	9.5	10.3	8.1	7.6	7.2	9.2	9.8	9.0	21.4
3. Campus	8.3	6.6	9.0	13.0	8.1	6.5	7.6	8.7	8.3	10.1	0.0
4. 筑波スポーツ	5.7	1.9	6.8	7.5	2.0	1.8	2.8	2.5	15.9	3.4	0.0
5. TSUKUBA SPORTS NEWS FLASH (TSA)	2.2	0.5	2.6	0.7	0.0	0.4	0.9	0.0	8.6	1.1	0.0
6. その他	0.8	0.5	0.9	0.7	0.0	0.4	1.7	1.5	0.0	0.0	0.0
7. どれも読まない	74.1	76.4	75.4	72.6	75.0	80.9	76.4	76.8	64.7	73.0	71.4
人数計	1,939	373	1,549	146	148	278	458	393	408	89	14

9.4 学外研修施設について (問 57)

- ◎利用率は 13.3%と低い。
- ◎研究科によって利用率に差がある。

本学は自然豊かな山中、石打、館山の 3 か所に学外研修施設を保有しており、学内広報誌でも定期的に利用案内を掲載している。大学院生の学外研修施設の利用率は 13.3%と低いものの、前回(平成 22 年度)調査と比較すると「存在を知らない」と答えた大学院生が 40.9%から 33.1%に減るなど、認知度が少しずつ上がっていることがうかがえる。ただしシス情、生命環境など利用率が比較的高い研究科と、人間総合、図情メディアなど利用率が低い研究科があり、利用率に差がみられる。

前回調査に引き続き利用率が低かった留学生に対しては、積極的に学外施設の存在をアピールしていくことが必要であろう。

図 9.4 学外研修施設の利用率 (全体)

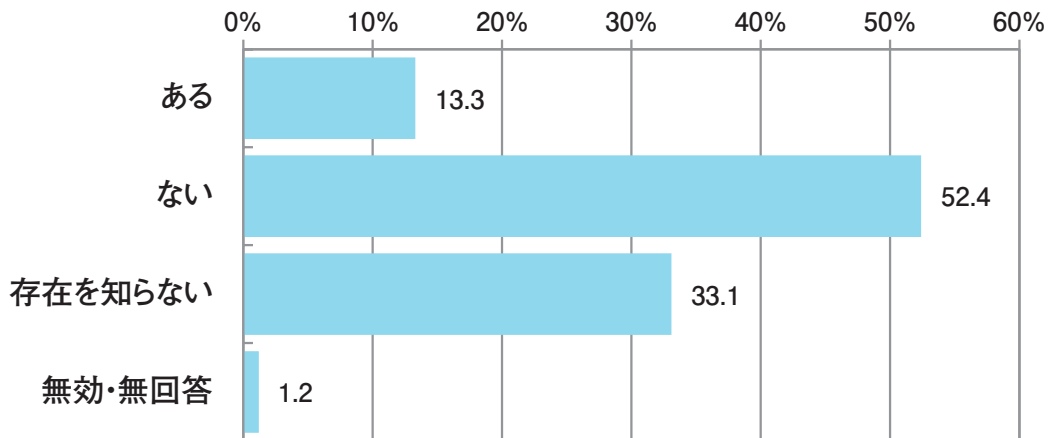


表 9.4 学外研修施設の利用率 (留学生 / 日本人、研究科別、%)

	全体	留学生	日本人学生	教育	人文	数理物質	シス情	生命環境	人間総合	図情メ	グローバル
学外施設の利用率	13.3	10.1	14.4	8.2	11.5	13.7	18.6	16.0	8.8	7.9	0.0
人数計	1,939	373	1,549	146	148	278	458	393	408	89	14

第10章 自由記述

1. はじめに

本調査では、「筑波大学大学院の教育・研究環境や学生生活全般に対する要望や提言等を自由に記入してください」との呼びかけで自由記述回答を求めた。また、回答者にはその自由記述の内容に応じて、次の分類のうち該当する項目を選択し記入してもらった。

- A. 制度等に対する要望・不満：(A1) カリキュラム (A2) 学生生活支援 (A3) 経済支援
(A4) キャリア・就職支援 (A5) その他
- B. 教職員に対する要望・不満：(B1) 教員に対して (B2) 事務職員に対して (B3) その他
- C. 施設に対する要望・不満：(C1) 研究環境 (C2) IT (C3) 図書館 (C4) 宿舎 (C5) 食堂・売店
(C6) 駐輪場 (C7) ペデ・道路 (C8) その他
- D. その他

本調査への有効回答数 1,939 のうち 748 人 (40.4%) の回答者から、のべ 1,596 件の自由記述回答が寄せられた。自由回答の内容は多岐多様にわたり、回答者一人当たりの回答件数も一様でなく、記述内容に関する数量的な分析は困難なことから、以下では上記の分類に従って自由記述による不満・要望・提言等の意見について大まかに概観することとする。

2. 個々の記述内容の概観

A. 制度に関する要望・不満

制度に関しては 370 件の要望・不満が記入されたが、これは、全回答 1,596 件の 23.2%にあたる。

(A1) カリキュラム

まず、2013 年度からの 2 学期制移行については、学期制や夏季休業期間を他大学に準じたものにして欲しいという意見がある一方で、2 学期制のメリットがわからない、3 学期制が良いといった意見もあり、賛否両論であった。単なる賛否とは別にして 2 学期制移行後のカリキュラムを早く示して欲しいという実際的な要望も寄せられていた。

カリキュラムに関しては、一般論的に修了要件の単位数、特に授業科目が多いことが負担となっている旨の意見が多くみられた。そのため研究に集中できないとの訴えも多い。一方で、研究が授業履修の妨げになっているとの意見はほとんどみられず、大学院生は授業よりも研究を重視している姿勢が窺える。

ただし、授業科目への要望が薄い訳ではなく、講義内容の広範囲化や充実を求める声もある。個別の授業への要望は省略するが、全学に共通的な事項として、研究方法やそれに必要なプログラミングなどの技術、論文作成上の文章能力養成といった研究スキルに関する授業開講への要望がみられたほか、大学院共通科目を含む他専攻・他研究科の授業科目を修了要件として認めて欲しいとの意見も目立った。

運用面に関しては、履修方法や授業情報がわかりにくいという不満があり、これに関しては、他大学からの入学者や社会人学生に対する情報提供充実の要望がみられた。シラバスを含む授業情報の提供方法に関して、授業科目開設専攻以外の他専攻・他研究科の学生に対しても十分な配慮を求める声がある。修了要件が曖昧なので明確にして欲しいとの指摘も散見されたが、これは特に博士後期課程における必要単位数や博士論文の提出要件を指す場合が多いものと思われる。集中授業について、通常の授業科目の開講時限との重複を回避して欲しいとの要望のほか、土日・休日の利用や連続日程での実施を求める声もみられた。

その他、留学生向けにシラバス等各種資料の英語版の作成や英語対応授業の増設、日本人学生の海外留

学推進のためのカリキュラム上の工夫、成績評価の公正化、研究室・専攻・研究科間の移籍に関する柔軟的対応などについて要望が寄せられていた。

(A2) 学生生活支援

現在は掲示板に紙媒体で提供されている支援室からの情報を Web ページや電子メール、ソーシャルネットワークなど IT 技術を活用してデジタル配信して欲しいとの要望が非常に多くみられた。この提言は、今回の調査で寄せられた「支援内容や支援室の業務がわかりにくい」との不満の改善にも役立つものである。その他 IT 関連では、学内の各種システムの ID やパスワードの統合化を求める声があった。

学内生活では、各キャンパスや遠隔施設間の移動の際の交通費の補助を求める声が目立った。また、必修科目化を含めて学生の交通ルールや社会的マナーの向上を図るための取り組みが必要との意見がみられた。

学生生活支援一般に共通して、留学生や他大学からの入学者、社会人学生に対する情報提供の配慮を求める声が多い。必要な情報の種類は、大学の制度、設備、学務手続きの方法、学生活動、各種施設の利用方法など多岐にわたっており、全学・研究科・専攻それぞれのレベルで、学外からの大学院進学者向けのオリエンテーションを実施するなど情報提供の工夫が求められている。

(A3) 経済支援

経済支援に関しては、全般的には、入学料・授業料免除の枠を拡大し、奨学金を受けられるようにして欲しいとの総論で一致している。自由記述回答からはその背景として、大学院の場合、留学生や社会人（経験者）学生のほか一般学生でも家族からの資金援助を受けず学費・生活費を学生自身が工面しているケースが多くなっていることが推察される。

ただし、経済支援充実の具体策となると要望の方向性は分散し、場合によっては相互に対立する意見さえ見受けられた。経済支援の対象者について、例えば、「留学生は経済的に厳しいので支援して欲しい」という要望の一方で、「留学生は優遇されているので日本人学生への支援を充実すべき」との不満もあり対立が生じている。こうした意見対立は、経済支援は経済的に困窮している学生を優先すべきという意見に対して学業成績が優秀な者を優先して欲しいとの意見があった点、経済状況の評価対象について家族からの援助を受けていない学生からは「本人のみを対象とすべきだ」との意見がある一方、配偶者や子どもを持つ学生からは「家族状況を考慮して欲しい」との意見があった点などで見られた。また、明示的な対立構造にはないが、博士後期課程の学生やオーバードクターの学生への支援の充実して欲しいとの訴えもみられた。こうした意見対立の存在を踏まえれば、万人が納得するような経済支援の充実策は極めて難解な課題と言わざるを得ない。また、授業料免除や奨学金採用の選考基準の透明化・公平化を求める声も数多く寄せられたが、これは経済支援の対象者選考の現状に対して不公平感が漂っていることの裏返しとも言え、そこには上記のような意見対立が影を落としていることもうかがえる。

授業料免除に関しては、「全額免除を増やして欲しい」とか「半額免除を増やして欲しい」という意見の一方で、「一部の学生のみ免除するのではなく全体的に授業料を下げるべき」との提言もあった。奨学金については、給付型を求める声が多くあったほか、つくばスカラシップの支援対象を国内で研究を行う学生にも広げて欲しいとの要望があった。

授業料等免除や奨学金以外では、TA・TF・RA の雇用時間拡大と給与増額を求める声や学生が自ら管理できる研究費の支給制度創設への要望が目立った。特に、TA・TF・RA に関しては、給与に実際の労働時間を反映して欲しいとの指摘があった。また、研究費に関しては国内外への学会等参加のための交通費支給への求めが多い。

(A4) キャリア・就職支援

キャリア・就職支援に関して総論的には現状からの改善や充実を望む声が多く、特に、民間企業を中心として就職活動環境が毎年のように変化する中、教職員に就活状況の実態を把握して欲しいとの要望が目立ったほか、就職活動に関して学生からの個別相談に対応するアドバイスやカウンセリングを担当する専門教職員の配置を求める意見もある。一方、OB・OG 懇親会などの取り組みが評価されており、さらに過去の卒業生・修了生の就活経験の提供やOB・OG 訪問のための連絡先の提供など、OB・OG の活用や連携強化が望まれている。情報提供に関しては、就職支援のメニューや企画開催など幅広い広報の充実への要望が多く、就職支援講座の動画の Web 配信の提案もあった。

その他の具体案としては、留学生や博士後期課程生、社会人（経験者）学生を対象とした就職サポートへの要望意見があったほか、海外インターンシップ実施への支援を求める声もみられた。

就職活動を進める上での悩みとしては、研究との両立の難しさや交通費負担の大きさをあげる意見が多く、後者に関しては経済的な支援を求める声もあった。

(A5) その他

研究室や専攻、研究科の垣根を越えた交流の機会を求める声があるほか、研究室というともすれば閉鎖的になりがちな組織・空間を大学としても適正に管理すべきとの意見もみられた。関連してアカデミックハラスメント、パワーハラスメント対応の改善の要望もあり、そこには相談体制の改善も含まれている。相談窓口が身近すぎると却って利用しづらい旨の意見があった。また、日本語の不得手な留学生や外国人教員の周囲では、それをサポートする日本人学生にしわ寄せが生じていると指摘し大学として制度的な改善を求める声もみられた。

博士特別研究員制度など博士号取得後の研究者育成支援を求める声もみられた。「経済支援」での記述とは相反するが、そこでは収入よりも一研究者としての「所属」や「身分」の保障が望まれている。

B. 教職員に関する要望・不満

教職員に関しては 229 件の不満・要望が記入されたが、これは、全回答 1,596 の 14.3%にあたる。

(B1) 教員に対して

教員に対する意見、要望・不満では、さまざまな理由によって大学院の教育・指導が不十分であることに言及した回答が目立った。

理由の一つは、教員の会議やデスクワークの量の多さであり、教員の数の少なさもあげられた。結果として授業の準備が不足して学生が困る、指導の時間がない事態が生まれているという。理由の第二は、カリキュラム・指導法あるいは教員の姿勢に問題があるという認識にもとづく不満である。前者については、コースの目標を反映したカリキュラム・授業内容の組み立てや、学生の関心や理解に即した授業法の工夫が要望されている。教員の姿勢に関しては学生の主体性は重視するにしても、頻繁な指導・声かけの必要性と情熱をもった指導を求める声があった。教員とのコミュニケーションが不十分なために、大学院生のニーズにあわせた指導がおこなわれていないと考えていることが読み取れる。

教育・指導の仕方に関連づけて指摘される要望・不満では、ハラスメントの訴えもさまざまあげられた。学生の生活に対する配慮を欠いたまま、長時間にわたって研究・研究室に拘束される慣習への不満は根強く、また過度な能力主義に依拠して学生を評価する姿勢、人前で中傷する発言や飲酒の席での振る舞いなどにハラスメントを感じている。しかし、ハラスメント相談は利用しにくいという。これらの不満と関連して、教員の評価制度や、指導の現状を把握するアンケート実施などの提案があった。

(B2) 事務職員に対して

職員に対する不満は、比較的、共通する内容が多く寄せられた。数の多さで目立ったものは、職員の態度の悪さである。学生ユーザーにサービスを提供するという役割が職員に浸透しておらず、言葉づかいが悪い、横柄な態度、面倒くさそうにする、学生を見下しているように感じるという。また、質問に対する回答があいまいで、誤りがあるなど対応の不適切さもあげられ、諸制度に関する内容を理解した上での対応を望む声もあった。

改善策としては、事務の連絡に Web の活用、各事務系統の間で連携によるたらい回しの解消や、教員一事務員の連携によって効率化をはかることなどの提言があった。

(B3) その他

教員、職員ともに人員増を求める声や、官僚制の弊害を解消する必要性などの意見があった。

C. 施設に関する要望・不満

施設に関しては 918 件の不満・要望が記入されたが、これは、全回答 1,596 の 57.5%にあたる。

(C1) 研究環境

耐震強度に関する不安を含めて建物の老朽化にまつわる問題についての指摘が多かった。また、学習室、制作スペース、休憩スペース等、空間的な拡張を求める声や、夜間・土日・休日における冷暖房の稼働を望む声が多く寄せられた。研究のためのスペースや設備、特に冷暖房に関しては研究棟によって状況が異なることから、不公平感が訴えられている。建物・設備の利用時間に関しては、全体的に制限をなくしてほしいという意見が多いが、研究棟が 24 時間出入り可能であるため危険であるという意見もあった。

(C2) IT

院生の研究室等で使用されているパソコンやプリンタに関して、設置台数の増加や老朽化したものの買い替えが望まれている。また、ネットワークへのアクセスに関して、無線 LAN のアクセスポイントの増設と電波状況の改善が求められている。それ以外、多様なネットワークシステムへのアクセス方法を統一してほしい、学外のパソコンあるいはスマートフォンからのアクセスを可能にしてほしいといった要望があった。

(C3) 図書館

研究における基本文献の充実、また、閲覧可能な電子ジャーナルの増加を望む声が寄せられている。一般図書に関しても所蔵してほしいという声が多数あった。設備として、パソコンやプリンタ、また、コピー機の台数を増やして欲しいという要望が挙げられている。土日・休日・長期休暇中の開館時間の延長が望まれているが、図書館によって開館時間が異なることに由来する不公平感もあることがうかがえる。

(C4) 宿舎

建物ごとに異なる問題に関して具体的な改善の要求が出されているが、全体としては、入居者数に対して浴場・シャワー・捕食室の数が足りない、ネット環境が悪いという声が多い。また、共有スペースの利用に関するマナーの悪さが多く指摘されている。さらに、更新の年数や入居条件の見直し、管理事務室の受付時間の延長、および、職員の（英語による）対応の改善も求められている。

(C5) 食堂・売店

食堂については、価格、味、栄養バランス、メニュー数、営業時間についての要望が多数あった。また、メジャー外食チェーン店を要望する声も複数あった。書籍・文具・画材等の販売店舗数、品揃えについての要望が多数あり、スーパー、コンビニ、ホームセンターを望む声も複数あった。

(C6) 駐輪場

出入口前や点字ブロック上の駐輪、マナーについての苦情、駐輪場の増設や整備、ループへのシフト、自転車登録制についても複数の提案があった。

(C7) ペデ・道路

街灯の増設、水はけの改善、特にループの黄色い段差（ハンプ）に対する不満が多く見られた。ペデ上での交通ルールの明確化、自転車マナー、バスの運行スケジュール等への要望が複数みられた。

(C8) その他

空調に関する要望、トイレを綺麗にしてほしいとの要望が多数見られた。駐車場について荷物搬入のための短時間利用や無料化、増設などの要望が多く見られた。運動施設の開放について複数の要望があった。

D. その他

「その他」としては79件の不満・要望が記入されたが、これは、全回答1,596の4.9%にあたる。

本アンケートについて、内容や実施方法に関して、複数意見が見られた。大学の広報活動等に関して意見が複数見られた。

3. まとめ

今回の「筑波大学大学院学生実態調査」の有効回答数は前述のように1,939であったが、これは大学院在籍生6,600名余りのうちのおよそ3割である。さらに、その有効回答のうち自由記述回答が記入されたものは約4割であり、それは大学院生全体の11%程度にとどまる。そのため、本章で概観した自由記述の意見は、そうした回答があったからと言って、ただちにそれが本学の大学院生全体を代表するような多数意見であるとは限らない。それゆえ、自由記述の有無だけで大学院生の意見の全体像や傾向を理解しようとするのは適当ではない。ただし、たとえごく少数の指摘であったとしても、もしかしたら未だ表面化していない潜在的な問題・課題の種や芽を捕捉する手がかりとして活用することはできるかもしれない。そうした例としては、ハラスメントの問題や日本語が不得手な留学生や外国人教員のサポートのために周囲の大学院生に負担のしわ寄せが生じているとの指摘などがあげられる。特に前者に関しては、保健管理センターの対応を含めて相談窓口体制の充実・改善が求められる。

自由記述で寄せられた意見は多種多様であり、同種の問題であっても相互に対立・相反する意見が見られることもある。その最たる例は、どのような者を経済支援の対象とすべきかという優先度に関する意見対立である。学群生に比べ、学卒で学内から進学した学生のほかにも、学外からの進学者、留学生、社会人（経験者）、配偶者・子持ち、経済的自活者など多様な条件下の学生が大学院には混在しており、それぞれの立場なりの窮状を訴えて支援を求めているわけであるから、意見が一意に収束することはあり得ない。この課題については、自由記述の有無というよりは、むしろそれ以外のデータ等に基づき大学としての戦略的なポリシーが示されるべき部分であると言えよう。

自由記述で記入された不満や意見の中には、今回調査だけでなく、過去の調査でも同じようなことが繰り返し寄せられてきた内容も少なくない。同種の意見が恒常的に寄せられるということは、そうした指摘に対して対応を怠っているとも受け取られかねない。こうした要望・意見の例としては、施設・設備や食堂・売店に関する改善要望などコストや採算性の面で即座には実現が難しいものと、学生と接する上での教職員の態度のように直接的なコストはあまりかからないはずではあるがなかなか一朝一夕には解決し難い問題とがある。前者に関しては、学生からの要望が実現困難なものであるとすれば、その根拠・理由の説明を学内に周知し学生の理解を得るという努力も「対応」の一形態であると考えられよう。後者に関し

ては、多くの場合、当事者の自覚や意識にも関わる問題であり、意識改革のための継続的な取り組みが求められる。

本節の冒頭では、自由記述の意見の有無だけで大学院生全体の多数意見と解釈することはできないと述べたが、自由記述回答によって潜在的な問題の種や芽を捕捉したとすれば、改めてその実態や実情を把握するための取り組みがなされて然るべきであろう。つまり、重要な課題については今後別途の調査を行うべきであるかもしれないし、少なくとも次回の学生実態調査の調査内容の検討に当たっては今回調査の自由記述回答についても参照されることが望まれる。

【資料】

平成 24 年度筑波大学大学院学生 実態調査データ集計表 < 全体 >

I. あなた自身について

1. 性別

		全体	
		回答数	回答率
1	男性	1,248	64.4%
2	女性	690	35.6%
無効・無回答		1	0.1%
合計		1,939	100.0%

2. 年齢

		全体	
		回答数	回答率
1	24 歳以下	1,088	56.1%
2	25 ～ 29 歳	588	30.3%
3	30 ～ 34 歳	126	6.5%
4	35 ～ 39 歳	64	3.3%
5	40 歳以上	71	3.7%
無効・無回答		2	0.1%
合計		1,939	100.0%

3. 所属研究科

		全体	
		回答数	回答率
1	教育研究科	146	7.5%
2	人文社会科学研究科	148	7.6%
3	数理物質科学研究科	278	14.3%
4	システム情報工学研究科	458	23.6%
5	生命環境科学研究科	393	20.3%
6	人間総合科学研究科	408	21.0%
7	図書館情報メディア研究科	89	4.6%
8	その他（グローバル教育院等）	14	0.7%
無効・無回答		5	0.3%
合計		1,939	100.0%

4. 在籍年数

		全体	
		回答数	回答率
1	修士課程の 1 年目	285	14.7%
2	修士課程の 2 年目	243	12.5%
3	修士課程の 3 年目以上	16	0.8%
4	博士前期課程の 1 年目	418	21.6%
5	博士前期課程の 2 年目	401	20.7%
6	博士前期課程の 3 年目以上	25	1.3%
7	博士後期課程の 1 年目	120	6.2%
8	博士後期課程の 2 年目	107	5.5%
9	博士後期課程の 3 年目	89	4.6%
10	博士後期課程の 4 年目以上	48	2.5%
11	一貫制博士課程の 1 年目	27	1.4%
12	一貫制博士課程の 2 年目	11	0.6%
13	一貫制博士課程の 3 年目	16	0.8%
14	一貫制博士課程の 4 年目	11	0.6%
15	一貫制博士課程の 5 年目	11	0.6%
16	一貫制博士課程の 6 年目以上	14	0.7%
17	3 年制博士課程の 1 年目	21	1.1%
18	3 年制博士課程の 2 年目	24	1.2%
19	3 年制博士課程の 3 年目	27	1.4%
20	3 年制博士課程の 4 年目以上	4	0.2%
21	専門職学位課程の 1 年目	0	0.0%
22	専門職学位課程の 2 年目	0	0.0%
23	専門職学位課程の 3 年目	1	0.1%
24	専門職学位課程の 4 年目以上	0	0.0%
無効・無回答		20	1.0%
合計		1,939	100.0%

5. 外国人留学生

		全体	
		回答数	回答率
1	外国人留学生である	373	19.2%
2	外国人留学生ではない	1,549	79.9%
無効・無回答		17	0.9%
合計		1,939	100.0%

5-①. 留学タイプ

		全体	
		回答数	回答率
1	私費留学生	219	58.7%
2	文部科学省国費留学生	76	20.4%
3	文部科学省以外の日本の団体等の奨学生	37	9.9%
4	自国の奨学生	22	5.9%
5	その他	14	3.8%
無効・無回答		5	1.3%
合計		373	100.0%

6. 社会人の経験

		全体	
		回答数	回答率
1	社会人経験がある	382	19.7%
2	社会人経験はない	1,529	78.9%
無効・無回答		28	1.4%
合計		1,939	100.0%

6-①. 在職状況

		全体	
		回答数	回答率
1	現在も在職中	122	31.9%
2	現在は休職中	46	12.0%
3	退・辞職し、現在、定職はない	182	47.6%
4	定職はなかった	18	4.7%
5	その他	12	3.1%
無効・無回答		2	0.5%
合計		382	100.0%

7. 職場の理解

		全体	
		回答数	回答率
1	学費の負担を含め、全面的に得られている	35	20.8%
2	就学に支障のない程度に得られている	83	49.4%
3	職場の休職制度利用	26	15.5%
4	職場の派遣制度利用	9	5.4%
5	職場のその他の制度利用	4	2.4%
6	職場には秘密にしている	1	0.6%
7	その他	19	11.3%
無効・無回答		1	0.6%
合計		178	

8. 志望理由

		全体	
		回答数	回答率
1	研究領域に魅力がある	915	47.2%
2	教育内容が優れている	274	14.1%
3	希望する分野がある	867	44.7%
4	指導教員の資質・能力、指導体制が優れている	689	35.5%
5	研究室の雰囲気の魅力がある	290	15.0%
6	教育・研究施設が優れている	366	18.9%
7	幅広い専門が学べる	211	10.9%
8	学費や生活費等の経済的な支援体制が充実している	143	7.4%
9	修了後の進路等就職に有利である	298	15.4%
10	修了年限の弾力的な運用がある	14	0.7%
11	親や指導教員等から勧められた	189	9.7%
12	実家から通える	107	5.5%
13	資格等が取りやすい	32	1.7%
14	その他	109	5.6%
無効・無回答		15	0.8%
合計		4,519	

9. 入学前

		全体	
		回答数	回答率
1	筑波大学・大学院	1,040	53.6%
2	日本国内の他大学・大学院	585	30.2%
3	日本国外の大学・大学院	300	15.5%
無効・無回答		14	0.7%
合計		1,939	100.0%

10. 現在の住まい

		全体	
		回答数	回答率
1	筑波大学学生宿舎	340	17.5%
2	民間のアパート・マンション等	1,270	65.5%
3	親と同居	231	11.9%
4	親戚・知人宅	6	0.3%
5	その他	73	3.8%
無効・無回答		19	1.0%
合計		1,939	100.0%

11. 学生宿舎への入居

		全体	
		回答数	回答率
1	希望する	94	5.9%
2	希望しない	1,404	88.9%
無効・無回答		82	5.2%
合計		1,580	100.0%

12. 現在の居住地

		全体	
		回答数	回答率
1	つくば市 天久保	434	27.5%
2	つくば市 春日	433	27.4%
3	つくば市 桜	103	6.5%
4	つくば市 柴崎	21	1.3%
5	つくば市 吾妻	29	1.8%
6	(筑波大学外でつくば市内) その他	182	11.5%
7	茨城県南地域	65	4.1%
8	茨城県西地域	19	1.2%
9	(つくば市以外で茨城県内) その他	17	1.1%
10	東京都	66	4.2%
11	千葉県	60	3.8%
12	埼玉県	38	2.4%
13	(茨城県外で関東地方) その他	16	1.0%
14	(その他の地域) その他	34	2.2%
無効・無回答		63	4.0%
合計		1,580	100.0%

II. 生活全般について

13. 家計支持者

		全体	
		回答数	回答率
1	あなた自身	485	25.0%
2	配偶者	79	4.1%
3	父親・母親	1,336	68.9%
4	両親以外の親族	11	0.6%
5	その他	17	0.9%
無効・無回答		11	0.6%
合計		1,939	100.0%

14. 奨学金の受給

		全体	
		回答数	回答率
1	受けていない	911	47.0%
2	日本学生支援機構の奨学金	744	38.4%
3	私費外国人留学生学習奨励費	31	1.6%
4	地方公共団体の奨学金	12	0.6%
5	日本の民間団体・財団等の奨学金	55	2.8%
6	日本学術振興会の特別研究員	60	3.1%
7	文部科学省国費留学生	82	4.2%
8	自国政府の奨学金（留学生の場合）	23	1.2%
9	その他	38	2.0%
無効・無回答		11	0.6%
合計		1,967	100.0%

15. 「つくばスカラシップ」制度

		全体	
		回答数	回答率
1	知っている	457	23.6%
2	知らない	1,476	76.1%
無効・無回答		6	0.3%
合計		1,939	100.0%

16. 「つくばスカラシップ」制度の利用希望

		全体	
		回答数	回答率
1	希望する	144	31.5%
2	希望しない	307	67.2%
無効・無回答		6	1.3%
合計		457	100.0%

16-①. 「つくばスカラシップ」制度で希望する支援内容

		全体	
		回答数	回答率
1	留学生支援	87	60.4%
2	海外留学支援	38	26.4%
3	国際的医学研究人養成コース支援	2	1.4%
4	緊急支援	32	22.2%
無効・無回答		10	6.9%
合計		169	

17. 大学に希望する経済支援

		全体	
		回答数	回答率
1	給付型（返還義務なし）奨学金	1,198	61.8%
2	貸与型（返還義務あり）奨学金	225	11.6%
3	授業料免除	1,142	58.9%
4	一時貸付金	134	6.9%
5	その他	37	1.9%
6	特に希望しない	261	13.5%
無効・無回答		42	2.2%
合計		3,039	

17-4. 一時貸付金の必要理由

		全体	
		回答数	回答率
1	授業料のため	72	53.7%
2	生活費のため	55	41.0%
3	その他	10	7.5%
無効・無回答		19	14.2%
合計		156	

18.1 ヶ月の収入

		全体	
		回答数	回答率
1	6万円未満	687	35.4%
2	6～9万円未満	389	20.1%
3	9～12万円未満	312	16.1%
4	12～15万円未満	216	11.1%
5	15～18万円未満	107	5.5%
6	18～25万円未満	118	6.1%
7	25～30万円未満	33	1.7%
8	30万円以上	50	2.6%
無効・無回答		27	1.4%
合計		1,939	100.0%

19. 収入源

		全体	
		回答数	回答率
1	有職者としての給与	152	7.8%
2	奨学金	847	43.7%
3	仕送り	791	40.8%
4	筑波大学でのTA・TF（ティーチング・アシスタント、ティーチングフェロー）	561	28.9%
5	筑波大学でのRA（リサーチ・アシスタント）	113	5.8%
6	指導教員から頼まれた学内でのアルバイト	123	6.3%
7	上記4～6以外の学内でのアルバイト	70	3.6%
8	他大学での非常勤講師	47	2.4%
9	民間会社の契約社員や派遣社員	9	0.5%
10	筑波大学以外での定常的なアルバイト	424	21.9%
11	筑波大学以外での不定期なアルバイト	199	10.3%
12	借入金	10	0.5%
13	貯金	136	7.0%
14	その他	76	3.9%
無効・無回答		20	1.0%
合計		3,578	

20.1 ヶ月の生活費・研究活動費

		全体	
		回答数	回答率
1	充分である	405	20.9%
2	まあまあ足りている	652	33.6%
3	ぎりぎりである	629	32.4%
4	不足している	241	12.4%
無効・無回答		12	0.6%
合計		1,939	100.0%

20-①. 生活費・研究活動費で不足しているもの

		全体	
		回答数	回答率
1	授業料の納入ができない	70	29.0%
2	研究時間確保でアルバイトができない	142	58.9%
3	研究用資料・書籍が購入できない	119	49.4%
4	IT環境を整備できない	30	12.4%
5	学会・研究会等に行けない	72	29.9%
6	研究のための調査に行けない	51	21.2%
7	研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない	25	10.4%
8	その他	19	7.9%
無効・無回答		1	0.4%
合計		529	

21. アルバイトの研究・学修への影響

		全体	
		回答数	回答率
1	かなり妨げになっている	119	6.1%
2	多少妨げになっている	413	21.3%
3	妨げになっていない	382	19.7%
無効・無回答		1,025	52.9%
合計		1,939	100.0%

22. 平均的な1日または1週間の過ごし方

		平均時間	
1	授業・学習・実習・研究等の時間	8.8	時間/日
2	睡眠時間	6.7	時間/日
3	サークル・ボランティア等の活動時間	2.0	時間/週
4	アルバイト・就業時間	7.2	時間/週

23-1. 学生宿舎の居室タイプ

		全体	
		回答数	回答率
1	単身宿舎	224	65.9%
2	世帯宿舎	50	14.7%
3	二人室	27	7.9%
無効・無回答		39	11.5%
合計		340	100.0%

23-2. 学生宿舎の地区

		全体	
		回答数	回答率
1	平砂地区	69	20.3%
2	追越地区	129	37.9%
3	一の矢地区	124	36.5%
4	春日地区	10	2.9%
無効・無回答		8	2.4%
合計		340	100.0%

24. 学生宿舎満足度

	満足		まあ満足		普通		やや不満		不満		無効・無回答		合計	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 料金	112	32.9%	92	27.1%	71	20.9%	39	11.5%	22	6.5%	4	1.2%	340	100.0%
2 居室	58	17.1%	89	26.2%	86	25.3%	60	17.6%	43	12.6%	4	1.2%	340	100.0%
3 捕食室	29	8.5%	52	15.3%	110	32.4%	55	16.2%	60	17.6%	34	10.0%	340	100.0%
4 トイレ	53	15.6%	78	22.9%	100	29.4%	52	15.3%	51	15.0%	6	1.8%	340	100.0%
5 洗濯室 (ランドリー)	49	14.4%	96	28.2%	107	31.5%	42	12.4%	27	7.9%	19	5.6%	340	100.0%
6 浴場	57	16.8%	81	23.8%	101	29.7%	48	14.1%	35	10.3%	18	5.3%	340	100.0%
7 コインシャワー	54	15.9%	75	22.1%	104	30.6%	31	9.1%	36	10.6%	40	11.8%	340	100.0%
8 外灯	58	17.1%	78	22.9%	115	33.8%	52	15.3%	30	8.8%	7	2.1%	340	100.0%
9 出入口の施錠	84	24.7%	83	24.4%	90	26.5%	46	13.5%	31	9.1%	6	1.8%	340	100.0%
10 売店・食堂	34	10.0%	64	18.8%	124	36.5%	65	19.1%	41	12.1%	12	3.5%	340	100.0%
11 管理事務所の対応	84	24.7%	98	28.8%	100	29.4%	34	10.0%	18	5.3%	6	1.8%	340	100.0%
12 全体として	26	7.6%	123	36.2%	103	30.3%	58	17.1%	18	5.3%	12	3.5%	340	100.0%

25-①. 学生宿舎内の近隣入居者との関係

	全体	
	回答数	回答率
1 よく会話する	32	9.4%
2 とくどき会話する	82	24.1%
3 あいさつを交わす程度	120	35.3%
4 ほとんど会話しない	103	30.3%
無効・無回答	3	0.9%
合計	340	100.0%

25-④. 「学生宿舎コミュニティリーダー」制度の必要性

	全体	
	回答数	回答率
1 必要である	164	48.2%
2 学群新入生居住棟以外の棟にも必要である	66	19.4%
3 必要ではない	66	19.4%
無効・無回答	44	12.9%
合計	340	100.0%

25-②. 留学生居住者との交流（留学生の場合は日本人居住者との交流）

	全体	
	回答数	回答率
1 よくある	23	6.8%
2 とくどきある	63	18.5%
3 あまりない	114	33.5%
4 まったくない	137	40.3%
無効・無回答	3	0.9%
合計	340	100.0%

25-⑤. 今年度宿舎祭の参加状況

	全体	
	回答数	回答率
1 企画で参加した（イベントや模擬店等）	1	0.3%
2 来場者として参加した	78	22.9%
3 参加しなかった	255	75.0%
無効・無回答	6	1.8%
合計	340	100.0%

25-③. 「学生宿舎コミュニティリーダー」制度の認知度

	全体	
	回答数	回答率
1 知っている	77	22.6%
2 知らない	258	75.9%
無効・無回答	5	1.5%
合計	340	100.0%

26. 日常生活満足度

	全体	
	回答数	回答率
1 かなり満足	147	7.6%
2 おおむね満足	964	49.7%
3 どちらとも言えない	405	20.9%
4 少し不満	172	8.9%
5 かなり不満	73	3.8%
無効・無回答	178	9.2%
合計	1,939	100.0%

Ⅲ. 通学・事故等について

27. 通学手段

	雨天時		雨天以外	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1 徒歩	827	42.7%	562	29.0%
2 自転車	792	40.8%	1,318	68.0%
3 バイク（原付を含む）	83	4.3%	139	7.2%
4 自家用車	440	22.7%	354	18.3%
5 キャンパス交通システム（学内循環バス）	516	26.6%	354	18.3%
6 学内循環バス以外の路線バス	116	6.0%	74	3.8%
7 つくばエクスプレス（TX）	203	10.5%	197	10.2%
8 JR 常磐線	24	1.2%	22	1.1%
9 その他①	92	4.7%	88	4.5%
10 その他②	18	0.9%	18	0.9%
無効・無回答	43	2.2%	57	2.9%
合計	3,154		3,183	

28. 片道の通学時間（雨天以外）

	全体	
	回答数	回答率
1 15分未満	1,194	61.6%
2 15分～30分	395	20.4%
3 30分～45分	59	3.0%
4 45分～1時間	46	2.4%
5 1時間～1時間半	85	4.4%
6 1時間半～2時間	88	4.5%
7 2時間以上	56	2.9%
無効・無回答	16	0.8%
合計	1,939	100.0%

29. 学内循環バスの利用頻度

	全体	
	回答数	回答率
1 ほぼ毎日	198	10.2%
2 週に2～3回	307	15.8%
3 月に2～3回	477	24.6%
4 年に数回	403	20.8%
5 いままで数回	325	16.8%
6 利用したことはない	215	11.1%
無効・無回答	14	0.7%
合計	1,939	100.0%

30. 自転車事故経験の有無（過去1年間、新入生は大学院入学後）

	全体	
	回答数	回答率
1 事故の経験はない	1,831	94.4%
2 加害者になったことがある	12	0.6%
3 被害者になったことがある	51	2.6%
4 自損事故の経験がある	38	2.0%
無効・無回答	15	0.8%
合計	1,947	

31. 交通事故経験の有無（過去1年間、新入生は大学院入学後）

	全体	
	回答数	回答率
1 事故の経験はない	1,798	92.7%
2 加害者になったことがある	30	1.5%
3 被害者になったことがある	51	2.6%
4 自損事故の経験がある	44	2.3%
無効・無回答	21	1.1%
合計	1,944	

32. 盗難被害の有無

		全体	
		回答数	回答率
1	被害に遭ったことはない	1,643	84.7%
2	学内で被害に遭った	136	7.0%
3	学生宿舎内で被害に遭った	45	2.3%
4	学外で被害に遭った	128	6.6%
無効・無回答		27	1.4%
合計		1,979	

33. 引ったくり・暴行・傷害・たかり・恐喝等被害の有無

		全体	
		回答数	回答率
1	被害に遭ったことはない	1,898	97.9%
2	学内で被害に遭った	9	0.5%
3	学生宿舎内で被害に遭った	1	0.1%
4	つくば市内で被害に遭った	15	0.8%
5	その他の場所で被害に遭った	3	0.2%
無効・無回答		14	0.7%
合計		1,940	

34. カルト宗教等への参加勧誘

	ある		ない		無効・無回答		合計		
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
1	大学院入学後、勧誘を受けて嫌な思いをしたことがありますか	278	14.3%	1,644	84.8%	17	0.9%	1,939	100.0%
2	大学院入学後、他の人が勧誘を受けて困っているのを見たり、聞いたりしたことがありますか	368	19.0%	1,531	79.0%	40	2.1%	1,939	100.0%

35. ハラスメント

	セクハラ		アカハラ		その他		
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
1	感じたことはない	1,729	89.2%	1,605	82.8%	1,632	84.2%
2	感じたことがあるが誰にも話をしていない	19	1.0%	62	3.2%	36	1.9%
3	感じたことがあり親しい友人に話した	26	1.3%	107	5.5%	64	3.3%
4	感じたことがあり知り合いの教員に話した	5	0.3%	36	1.9%	11	0.6%
5	研究科・専攻のハラスメント担当教員に話した	4	0.2%	9	0.5%	6	0.3%
6	全学に設置されているハラスメント相談員に話した	3	0.2%	6	0.3%	3	0.2%
7	その他	4	0.2%	12	0.6%	6	0.3%
無効・無回答		168	8.7%	143	7.4%	200	10.3%
合計		1,958		1,980		1,958	

Ⅳ. 健康状態について

36. 健康状態（過去1年間）

		全体	
		回答数	回答率
1	健康である	1,259	64.9%
2	健康不良で数日寝込んだ（受診・入院を除く）	428	22.1%
3	身体の病気で受診・入院した	226	11.7%
4	精神的な問題で受診・入院した	69	3.6%
5	心理的な問題で相談機関を利用した	68	3.5%
6	けがで受診・入院した	66	3.4%
7	その他	34	1.8%
無効・無回答		12	0.6%
合計		2,162	

37. 悩みの原因（過去1年間）

		全体	
		回答数	回答率
1	学業や研究の不振	1,055	54.4%
2	単位修得の問題	141	7.3%
3	休学・退学	85	4.4%
4	転研究科・転専攻	30	1.5%
5	進路	787	40.6%
6	就職	696	35.9%
7	友人との関係	158	8.1%
8	教員との関係	249	12.8%
9	研究室内の問題	263	13.6%
10	サークル内の問題	44	2.3%
11	恋愛関係	280	14.4%
12	家族関係	165	8.5%
13	自分の性格	366	18.9%
14	自分の精神的・心理的状态	411	21.2%
15	自分の身体的病気・けが等の状態	130	6.7%
16	経済状態	548	28.3%
17	ハラスメント	50	2.6%
18	その他	29	1.5%
19	特になし	205	10.6%
無効・無回答		24	1.2%
合計		5,716	

38. 感じ方（過去1年間）

	とてもあてはまる		少しあてはまる		あまりあてはまらない		まったくあてはまらない		無効・無回答		合計		
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
1	自分のやりたいことができていない	620	32.0%	987	50.9%	255	13.2%	56	2.9%	21	1.1%	1,939	100.0%
2	何となく不安になることがある	531	27.4%	889	45.8%	335	17.3%	159	8.2%	25	1.3%	1,939	100.0%
3	自分のことをよく分かってくれている人がいる	672	34.7%	790	40.7%	363	18.7%	87	4.5%	27	1.4%	1,939	100.0%
4	何をやってもうまくいかない気がする	142	7.3%	568	29.3%	804	41.5%	394	20.3%	31	1.6%	1,939	100.0%
5	気分がゆううつである	172	8.9%	577	29.8%	712	36.7%	450	23.2%	28	1.4%	1,939	100.0%
6	「死にたい」と思ったことがある	105	5.4%	247	12.7%	367	18.9%	1,190	61.4%	30	1.5%	1,939	100.0%
7	大学生活が充実している	461	23.8%	1,031	53.2%	351	18.1%	66	3.4%	30	1.5%	1,939	100.0%

V. 相談相手について

39-A. 相談相手

	1 番目		2 番目		3 番目	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 家族	751	38.7%	345	17.8%	326	16.8%
2 恋人	319	16.5%	189	9.7%	82	4.2%
3 友人（学内）	323	16.7%	474	24.4%	327	16.9%
4 友人（学外）	228	11.8%	366	18.9%	276	14.2%
5 先輩・後輩（学内）	51	2.6%	160	8.3%	203	10.5%
6 先輩・後輩（学外）	24	1.2%	45	2.3%	83	4.3%
7 教員	31	1.6%	109	5.6%	214	11.0%
8 その他	13	0.7%	11	0.6%	14	0.7%
9 特にいない	93	4.8%	92	4.7%	177	9.1%
無効・無回答	106	5.5%	148	7.6%	237	12.2%
合計	1,939	100.0%	1,939	100.0%	1,939	100.0%

39-B. 相談相手と話す機会

	頻繁にある		少しある		あまりない		ほとんどない		無効・無回答		合計	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 1 番目の人とは	1,148	66.0%	436	25.1%	85	4.9%	24	1.4%	47	2.7%	1,740	100.0%
2 2 番目の人とは	765	45.0%	672	39.6%	173	10.2%	36	2.1%	53	3.1%	1,699	100.0%
3 3 番目の人とは	506	33.2%	602	39.5%	286	18.8%	84	5.5%	47	3.1%	1,525	100.0%

VI. サークル活動について

40. サークル活動

	全体	
	回答数	回答率
1 正式メンバーで活動中	260	13.4%
2 コーチ・顧問等で活動中	40	2.1%
3 その他の立場で活動中	57	2.9%
4 以前、活動していた	320	16.5%
5 活動したことはない	1,207	62.2%
無効・無回答	55	2.8%
合計	1,939	100.0%

41. サークル活動の動機

	全体	
	回答数	回答率
1 友人が欲しくて	253	37.4%
2 知識・教養のため	105	15.5%
3 健康のため	180	26.6%
4 技術向上のため	175	25.8%
5 団体生活を体験したい	65	9.6%
6 趣味と一致	312	46.1%
7 余暇の利用のため	132	19.5%
8 レクリエーションの一環で	78	11.5%
9 希望の進路と同じで有益	28	4.1%
10 就職等にプラス	25	3.7%
11 大学時代からの継続	217	32.1%
12 勧誘されて	28	4.1%
13 社会貢献のため	29	4.3%
14 その他	17	2.5%
無効・無回答	45	6.6%
合計	1,689	

Ⅶ. 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について

42. 教員に期待すること

		全体	
		回答数	回答率
1	優れた研究者であって欲しい	646	33.3%
2	授業内容を充実させて欲しい	253	13.0%
3	もっと解りやすく教えて欲しい	238	12.3%
4	研究指導の時間を確保して欲しい	300	15.5%
5	ハラスメントの問題に敏感になって欲しい	47	2.4%
6	研究成果を教育の現場にもっと反映して欲しい	136	7.0%
7	その他	86	4.4%
無効・無回答		233	12.0%
合計		1,939	100.0%

43. 教育面や制度面で不十分な点

		全体	
		回答数	回答率
1	教育研究スタッフ	538	27.7%
2	カリキュラム	493	25.4%
3	講演会等課外教育プログラム	196	10.1%
4	留学制度	299	15.4%
5	授業料免除等の経済的支援	923	47.6%
6	就職活動の支援	653	33.7%
7	教員との懇談会	131	6.8%
8	支援室や事務室の対応	505	26.0%
9	メンタル面に関する支援	157	8.1%
10	その他	82	4.2%
無効・無回答		56	2.9%
合計		4,033	

44. 整備・充実してほしい施設等

		全体	
		回答数	回答率
1	教室・実験室	729	37.6%
2	図書館	525	27.1%
3	IT環境	449	23.2%
4	体育施設	281	14.5%
5	課外活動施設	172	8.9%
6	セキュリティ	207	10.7%
7	駐車場	282	14.5%
8	駐輪場	423	21.8%
9	学内循環バス	265	13.7%
10	ペDESTリアン	191	9.9%
11	外灯	481	24.8%
12	その他	241	12.4%
無効・無回答		53	2.7%
合計		4,299	

45. 福利厚生施設満足度

		満足		まあ満足		普通		やや不満		不満		無効・無回答		合計	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	食堂	242	12.5%	607	31.3%	564	29.1%	297	15.3%	185	9.5%	44	2.3%	1,939	100.0%
2	喫茶	235	12.1%	493	25.4%	833	43.0%	189	9.7%	119	6.1%	70	3.6%	1,939	100.0%
3	パン販売	408	21.0%	707	36.5%	604	31.2%	109	5.6%	53	2.7%	58	3.0%	1,939	100.0%
4	書店	346	17.8%	691	35.6%	611	31.5%	180	9.3%	56	2.9%	55	2.8%	1,939	100.0%
5	画材	215	11.1%	325	16.8%	1,167	60.2%	50	2.6%	24	1.2%	158	8.1%	1,939	100.0%
6	その他売店	158	8.1%	377	19.4%	1,021	52.7%	181	9.3%	78	4.0%	124	6.4%	1,939	100.0%
7	自動販売機	346	17.8%	601	31.0%	694	35.8%	154	7.9%	64	3.3%	80	4.1%	1,939	100.0%

46. 向上を望むキャンパス内マナー

		全体	
		回答数	回答率
1	運転マナー	594	30.6%
2	駐輪マナー	973	50.2%
3	飲酒マナー	226	11.7%
4	談話室等共有スペースの利用マナー	179	9.2%
5	喫煙マナー	189	9.7%
6	その他	91	4.7%
7	特になし	481	24.8%
無効・無回答		61	3.1%
合計		2,794	

VIII. 進路や就職活動について

47. 修了後の進路

		全体	
		回答数	回答率
1	筑波大学大学院	145	7.5%
2	国内の他大学大学院	9	0.5%
3	海外の大学院	27	1.4%
4	(進学等) その他	9	0.5%
5	研究員、研究生等(本学特別研究員、日本学術振興会、研究生等)	76	3.9%
6	(就職) 企業	732	37.8%
7	(就職) 大学教員	129	6.7%
8	(就職) 小・中・高校の教員	151	7.8%
9	(就職) 公務員	80	4.1%
10	(就職) 自営・起業	14	0.7%
11	(就職) その他	30	1.5%
12	(復職) 企業	10	0.5%
13	(復職) 大学教員	12	0.6%
14	(復職) 小・中・高校の教員	16	0.8%
15	(復職) 公務員	18	0.9%
16	(復職) 自営	3	0.2%
17	(復職) その他	6	0.3%
18	その他	26	1.3%
19	決まっていない	302	15.6%
20	まだ考えていない	25	1.3%
無効・無回答		119	6.1%
合計		1,939	100.0%

48. 外国での就労希望度

		全体	
		回答数	回答率
1	強くそう思う	243	12.5%
2	ややそう思う	620	32.0%
3	分からない	417	21.5%
4	あまりそう思わない	345	17.8%
5	まったくそう思わない	284	14.6%
無効・無回答		30	1.5%
合計		1,939	100.0%

49. 進路決定の理由

		全体	
		回答数	回答率
1	やりがい	484	25.0%
2	社会的貢献	205	10.6%
3	年収	174	9.0%
4	安定した生活	348	17.9%
5	自分の能力や適性	439	22.6%
6	専門知識を深める	124	6.4%
7	大学院での学修の活用	54	2.8%
8	大学院での研究の活用	91	4.7%
9	社会的評価	29	1.5%
10	将来性	136	7.0%
11	地理的利便性	31	1.6%
12	その他	27	1.4%
無効・無回答		796	41.1%
合計		2,938	

50. 進路の感じ方

	よくあてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		まったくあてはまらない		無効・無回答		合計		
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
1	将来の進路について、とても関心をもっている	679	35.0%	311	16.0%	56	2.9%	25	1.3%	5	0.3%	863	44.5%	1,939	100.0%
2	働くことについて、真剣に考えたことがない	41	2.1%	114	5.9%	134	6.9%	333	17.2%	452	23.3%	865	44.6%	1,939	100.0%
3	将来の進路決定では、周囲の雰囲気流されることはない	303	15.6%	296	15.3%	297	15.3%	147	7.6%	29	1.5%	867	44.7%	1,939	100.0%
4	職業生活を充実させるには、自分自身の責任が大きいと思う	567	29.2%	398	20.5%	85	4.4%	15	0.8%	5	0.3%	869	44.8%	1,939	100.0%
5	希望する進路に進むための具体的な計画を立てている	171	8.8%	386	19.9%	317	16.3%	154	7.9%	41	2.1%	870	44.9%	1,939	100.0%
6	希望する進路は決まっているが、それに向けての努力は特にしていない	44	2.3%	165	8.5%	296	15.3%	374	19.3%	191	9.9%	869	44.8%	1,939	100.0%

51. 就職活動の情報源

	全体	
	回答数	回答率
1 指導教員	210	10.8%
2 専攻等の就職委員	53	2.7%
3 ゼミの同輩・先輩	386	19.9%
4 就職課・キャリア支援室	172	8.9%
5 スチューデントプラザの就職資料コーナー	53	2.7%
6 大学の情報提供システム	75	3.9%
7 大学の就職ガイダンス	145	7.5%
8 就職情報誌	92	4.7%
9 企業からのDM	46	2.4%
10 インターネット	510	26.3%
11 インターンシップ	85	4.4%
12 OB・OG	191	9.9%
13 その他	77	4.0%
無効・無回答	942	48.6%
合計	3,037	

52. 指導教員への相談

	全体	
	回答数	回答率
1 たびたび相談した	78	4.0%
2 時々相談した	296	15.3%
3 ほとんど相談していない	313	16.1%
4 相談はしていない	304	15.7%
5 相談しようとしたが断られた	5	0.3%
6 その他	6	0.3%
無効・無回答	937	48.3%
合計	1,939	100.0%

53. 就職活動の学習・研究への影響

	全体	
	回答数	回答率
1 支障はまったく出ていない	126	6.5%
2 支障はほとんど出ていない	261	13.5%
3 支障が多少は出ている	421	21.7%
4 支障がとても出ている	176	9.1%
無効・無回答	955	49.3%
合計	1,939	100.0%

Ⅸ. その他について

54. 情報取得源

	全体	
	回答数	回答率
1 指導教員	929	47.9%
2 研究科・専攻の事務職員	415	21.4%
3 友人等	1,114	57.5%
4 研究科・専攻の掲示版	551	28.4%
5 TWINS 掲示版	86	4.4%
6 大学のHP	572	29.5%
7 研究科・専攻等のHP	432	22.3%
8 専攻等のメーリングリスト	179	9.2%
9 SNS (social networking service)	128	6.6%
10 その他	55	2.8%
無効・無回答	35	1.8%
合計	4,496	

55. 相談機関

		利用したことがある		利用の仕方等を知っている		存在を知っている		存在を知らない		無効・無回答		合計	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	保健管理センター学生相談室	270	13.9%	168	8.7%	1,042	53.7%	421	21.7%	38	2.0%	1,939	100.0%
2	保健管理センター精神科	95	4.9%	125	6.4%	939	48.4%	737	38.0%	43	2.2%	1,939	100.0%
3	総合相談窓口（スチューデントプラザ及び春日）	97	5.0%	121	6.2%	931	48.0%	752	38.8%	38	2.0%	1,939	100.0%
4	ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”	6	0.3%	29	1.5%	378	19.5%	1,482	76.4%	44	2.3%	1,939	100.0%
5	ハラスメント相談員制度	12	0.6%	46	2.4%	678	35.0%	1,163	60.0%	40	2.1%	1,939	100.0%

56. 定期的に読む学内広報誌

		全体	
		回答数	回答率
1	筑波大学新聞	279	14.4%
2	つくばスチューデント	168	8.7%
3	Campus	161	8.3%
4	筑波スポーツ	110	5.7%
5	TSUKUBA SPORTS NEWS FLASH (TSA)	42	2.2%
6	その他	16	0.8%
7	どれも読まない	1,436	74.1%
無効・無回答		39	2.0%
合計		2,251	

57. 学外研修施設利用の有無

		全体	
		回答数	回答率
1	ある	258	13.3%
2	ない	1,016	52.4%
3	存在を知らない	642	33.1%
無効・無回答		23	1.2%
合計		1,939	100.0%

東京地区

平成 24 年度筑波大学大学院学生実態調査(東京地区)

*** お願い ***

この調査は、筑波大学大学院学生の生活・教育・研究環境の実態を把握し、本学大学院学生の生活の一層の向上および教育・研究環境の改善に資することを目的として実施するものです。

今回の調査対象者は、筑波大学大学院に在籍する学生全員です。

この調査は無記名で、他の目的に用いることはありませんので、ありのままを記入してください。

調査結果は、調査報告書として公表し、必要な方策を講じる予定です。

この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

平成 24 年 9 月

筑波大学 副学長(学生担当) 鈴木 久敏

1. 記入の方法などについて

- ① 回答は、すべてこの調査用紙(次頁から全5ページ)に記入してください。
- ② 回答は、番号を選ぶ選択方式と、具体的に記入または記述するものがあります。
番号選択方式の場合はあてはまる番号に○を付けてください。
記入または記述の場合は指定された欄に書き込んでください。
- ③ 氏名・学籍番号などあなた自身を特定し得る情報を書く必要はありません。回収した調査用紙は無記名のまま統計的に処理されます。
- ④ 平成 24 年 9 月 1 日現在で記入してください。

2. 提出期間

平成 24 年 9 月 5 日(水)～平成 24 年 9 月 28 日(金)

3. 回収方法

記入が済んだ調査用紙は、専攻事務室等にある大学院学生実態調査「回収箱」に投函してください。

4. 問い合わせ

この調査に関する質問・ご意見等は、

学生生活支援室：電話 029-853-2465

にご連絡ください。

I. あなた自身について

問(1) あなたの性別をお答えください。

1. 男性 2. 女性

問(2) あなたの年齢をお答えください。

1. 29歳以下 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳 5. 60歳以上

問(3) あなたが所属する研究科の番号に○を付け、在籍する専攻名を記入してください。

1. ビジネス科学研究科 (_____) 専攻
2. 人間総合科学研究科 (_____) 専攻

問(4) あなたは筑波大学大学院に在籍して何年目(休学および留学した期間を含めて下さい)ですか?
あてはまる課程の在籍年数の番号一つに○を付けてください。

- | | | | | |
|-------------|---|--------|--------|----------------------|
| 1. 修士課程の | → | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目以上 |
| 2. 博士前期課程の | → | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目以上 |
| 3. 博士後期課程の | → | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目 4. 4年目以上 |
| 4. 専門職学位課程の | → | 1. 1年目 | 2. 2年目 | 3. 3年目 4. 4年目以上 |

問(5) あなたは外国人留学生ですか? 「はい」の場合は、2～6のうちであてはまる番号一つに○を付けてください。

1. いいえ
はい → { 2. 私費留学生 3. 文部科学省国費留学生 4. 文部科学省以外の日本の団体等の奨学生
5. 自国の奨学生 6. その他 (_____)

問(6) 社会人の経験はありますか? 「ある」の場合は、2～5のうちであてはまる番号一つに○を付けてください。

1. ない
ある → { 2. 在職中 3. 現在は休職中 4. 退・辞職し、現在、定職はない
5. その他 (_____)

次の問(7)には社会人で有職の方のみ(上の問(6)で2または3に○を付けた方)が回答して下さい。

問(7) 筑波大学大学院に入学するにあたって職場の理解は得られていますか? あてはまる番号すべてに○を付けてください。

1. 学費の負担を含め、全面的に得られている 2. 就学に支障のない程度に得られている
職場の制度を利用した → 3. 休職制度 4. 派遣制度 5. その他の制度 (_____)
6. 職場には秘密にしている 7. その他 (_____)

問(8) 筑波大学大学院を志望した主な理由について、あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 研究領域に魅力がある | 2. 教育内容が優れている |
| 3. 希望する分野がある | 4. 指導教員の資質・能力、指導体制が優れている |
| 5. 研究室の雰囲気に魅力がある | 6. 教育・研究施設が優れている |
| 7. 幅広い専門が学べる | 8. 学費や生活費などの経済的な支援体制が充実している |
| 9. 修了後の進路など就職に有利である | 10. 修了年限の弾力的な運用がある |
| 11. 親や指導教員などから勧められた | 12. 自宅から通える |
| 13. 資格などが取りやすい | 14. その他 (_____) |

問(9) あなたが筑波大学大学院に入学する前に在籍していた大学または大学院としてあてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 筑波大学・大学院 2. 日本国内の他大学・大学院 3. 外国の大学・大学院

問(10) あなたの現在の住まいについて、あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 自宅 2. 賃貸のアパート・マンションなど 3. 親と同居 4. 親戚・知人宅
5. その他 (_____)

問(11) あなたの現在の居住地について、あてはまる番号一つに○を付けてください。

- 1. 東京都 23 区内
- 2. 東京都 23 区以外
- 3. 千葉県
- 4. 埼玉県
- 5. 神奈川県
- 6. 上記以外の地域 (_____)

II. 生活全般について

問(12) あなた、もしくは、あなたの家族の主たる家計支持者はどなたですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

- 1. あなた自身
- 2. 配偶者
- 3. 父親・母親
- 4. 両親以外の親族
- 5. その他 (_____)

問(13) あなたは奨学金などを受給していますか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1. 受けていない
- 2. 日本学生支援機構の奨学金
- 3. 私費外国人留学生学習奨励費
- 4. 地方公共団体の奨学金
- 5. 日本の民間団体・財団などの奨学金
- 6. 日本学術振興会の特別研究員
- 7. 文部科学省国費留学生
- 8. 自国政府の奨学金 (留学生の場合)
- 9. その他 (_____)

問(14) 本学独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」をご存じですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

- 1. 知っている
- 2. 知らない (ホームページに掲載してありますのでご覧ください) → 問(16)へ進んでください。

以下の問(15)には、上の問(14)において1に○をつけた方がのみが回答してください。

問(15) 「つくばスカラシップ」の利用を希望しますか？希望する場合は、2～5のうちであてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1. 希望しない
- 希望する → 2. 留学生支援
- 3. 海外留学支援
- 4. 国際的医学研究人養成コース支援
- 5. 緊急支援

「つくばスカラシップ」についてご要望等がありましたら記入してください。

(_____)

問(16) 大学に希望する経済支援は何ですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1. とくに希望しない
- 2. 給付型(返還義務なし)奨学金
- 3. 貸与型(返還義務あり)奨学金
- 4. 授業料免除
- 5. 一時貸付金 (必要理由に○をつけてください。①授業料のため ②生活費のため ③その他)
- 6. その他 (具体例: _____)

問(17) あなたの1ヶ月の平均的な収入の収入源はどのようなものですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1. 正社員としての給与
- 2. 民間会社の契約社員や派遣社員
- 3. 不定期なアルバイト
- 4. 他大学での非常勤講師
- 5. 奨学金
- 6. 仕送り
- 7. 借入金
- 8. その他 (_____)

問(18) 平均的な1ヶ月の生活費や研究活動費などは充分ですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1. 充分である
- 2. まあまあ足りている
- 3. ぎりぎりである
- 不足している → { 4. 授業料の納入ができない
- 5. 研究時間確保でアルバイトができない
- 6. 研究用資料・書籍が購入できない
- 7. IT環境を整備できない
- 8. 学会・研究会などに行けない
- 9. 研究のための調査に行けない
- 10. 研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない
- 11. その他 (_____)

問(19) 平均的な起床時刻と就寝時刻は何時頃ですか？それぞれについて、およその時刻を24時間制で記入して下さい。

- A 起床時刻：だいたい _____ 時頃
- B 就寝時刻：だいたい _____ 時頃

問(20) 平日夜間の登校時に食事はいつとりますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

- 1. 通学前 2. 在校中 3. 帰宅後 4. とらない

以下の問(21)には、上の問(20)において2に○をつけた方がのみが回答してください。

問(21) 在校中に食事を済ませる場合は、どのようなものが多いですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1. 軽食を持参 2. 学内に設置の軽食用自販機を利用 3. 大学近辺の飲食店を利用
- 4. その他 (_____)

問(22) 現在の日常の生活に、全体として、満足していますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

- 1. かなり満足 2. おおむね満足 3. どちらとも言えない 4. 少し不満 5. かなり不満

Ⅲ. 通学・ハラスメント等について

問(23) あなたの職場からの通学時間は片道どのくらいですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

- 1. 15分未満 2. 15分～30分 3. 30分～45分 4. 45分～1時間
- 5. 1時間～1時間半 6. 1時間半～2時間 7. 2時間以上

問(24) 大学院入学後、教員によるセクシャルハラスメント（セクハラ）、アカデミックハラスメント（アカハラ）、会社においてパワーハラスメント（パワハラ）を感じたことはありますか？それぞれについて、下の○数字のあてはまる番号すべてを記入して下さい。

- A セクハラ：(_____)、(_____)、(_____)、(_____) (その他 _____)
- B アカハラ：(_____)、(_____)、(_____)、(_____) (その他 _____)
- C パワハラ：(_____)、(_____)、(_____)、(_____) (その他 _____)

- ① 感じたことはない ② 感じたことがあるが誰にも話をしていない
- ③ 感じたことがあり親しい友人に話した ④ 感じたことがあり知り合いの教員に話した
- ⑤ 研究科・専攻のハラスメント担当教員に話した ⑥ 全学に設置されているハラスメント相談員に話した

Ⅳ. 健康状態について

問(25) あなたの過去1年間の健康状態はどのようなですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1. 健康である 2. 健康不良で数日寝込んだ（受診・入院を除く） 3. 身体の病気で受診・入院した
- 4. 精神的な問題で受診・入院した 5. 心理的な問題で相談機関を利用した 6. けがで受診・入院した
- 7. その他 (_____)

問(26) あなたは過去1年間にどのようなことで困ったり悩んだりしましたか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1. 学業と仕事の両立 2. 学業や研究の不振 3. 単位修得の問題 4. 休学・退学
- 5. 転研究科・転専攻 6. 友人との関係 7. 教員との関係 8. 研究室内の問題
- 9. 恋愛関係 10. 家族関係 11. 自分の性格 12. 自分の精神的・心理的状态
- 13. 自分の身体的病気・けが等の状態 14. 経済状態 15. ハラスメント
- 16. その他 (_____) 17. 特にない

問(27) 次の事柄について、過去1年間のあなたの感じ方に最も近いのはどれですか？1～7のそれぞれについて、あてはまる番号二つに○を付けてください。

	とても あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1. 自分のやりたいことができている	1	2	3	4
2. 何となく不安になることがある	1	2	3	4
3. 自分のことをよく分かってくれている人がいる	1	2	3	4
4. 何をやってもうまくいかない気がする	1	2	3	4
5. 気分がゆううつである	1	2	3	4
6. 「死にたい」と思ったことがある	1	2	3	4
7. 大学生活が充実している	1	2	3	4

V. 相談相手について

問(28) あなたが重要なことを話したり、悩みを相談する人はどなたですか？あてはまる番号を三つ以内で選び、話したり相談しやすい順に記入してください。

- ① 家族 ② 職場の同僚 ③ 職場の上司 ④ 恋人 ⑤ 友人 (学内) ⑥ 友人 (学外) ⑦ 教員
 ⑧ その他 (_____) ⑨ 特にない
 1 番 (_____) 2 番 (_____) 3 番 (_____)

以下の問(29)は、上の問(28)において話したり相談しやすい人を選んだ方のみが回答してください。

問(29) 問(28)で話したり相談しやすいとして選んだ人たちとあなたが話をする機会は普段どのくらいありますか（電話やメールも含みます）？それぞれの人について、あてはまる番号一つに○を付けてください。

	頻繁にある	少しある	あまりない	ほとんどない
A 1 番の人とは	1	2	3	4
B 2 番の人とは	1	2	3	4
C 3 番の人とは	1	2	3	4

VI. 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について

問(30) 筑波大学の教員に最も期待することはどのようなことですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 優れた研究者であって欲しい 2. 授業内容を充実させて欲しい 3. もっと解りやすく教えて欲しい
 4. 研究指導の時間を確保して欲しい 5. ハラスメントの問題に敏感になって欲しい
 6. 研究成果を教育の現場にもっと反映してほしい 7. その他 (_____)

問(31) 教育面や制度面で充実して欲しいと思うのはどのようなことですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 教育研究スタッフ 2. カリキュラム 3. 留学制度 4. 授業料免除等の経済的支援
 5. 教員との懇談会 6. 支援室や事務室の対応 7. メンタル面に関する支援
 8. その他 (_____)

問(32) キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいのはどれですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 教室・実験室 2. 図書館 3. IT環境 4. セキュリティー 5. 駐車場
 6. 外灯 7. その他 (_____)

VII. その他

問(33) 学修・研究や生活に関わる一般的な情報を得ようとするとき、主に誰にあるいは何にアクセスしますか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 指導教員 2. 研究科・専攻の事務職員 3. 友人等 4. 研究科・専攻の掲示板
 5. TWINS 掲示板 6. 大学のHP 7. 研究科・専攻等のHP 8. 専攻等のメーリングリスト
 9. SNS (social networking service) 10. その他 (_____)

問(34) 学生生活を送る上で様々な問題が生じることがあります。そのためにどのような相談機関が必要だと思いますか？あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 健康に関する相談 2. 精神・保健に関する相談 3. ワーク・ライフ・バランス相談
 4. その他何でも相談

問(35) 筑波大学の学外研修施設（山中、館山、石打）を利用したことはありますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. ある (_____ 回位/年) 2. ない 3. 存在を知らない
 学外研修施設について要望等があればお書きください。
 (_____)

第1章 あなた自身について

1.1 性別・年齢・所属・在籍年次（問1～4）

- ◎大学院学生（東京地区）の在籍数は703名。
- ◎年齢別構成は、30歳代が4割、40歳代が約3割。

まず基本的事項として、性別（問1）・年齢（問2）・所属研究科（問3）・年次（問4）について尋ねた。結果は、表1.1.1および表1.1.2にまとめた通りである。

東京地区大学院学生の在籍数（平成24年9月1日現在）は703名（ビジネス科学研究科514名（うち女性118名）、人間総合科学研究科189名（うち女性101名））である。

回答率については、ビジネス科学研究科18.5%、人間総合科学研究科20.6%である。前回の調査（平成22年度）では、それぞれ19.8%と45.3%であったので、人間総合の方で半分以下となり、全体の回収率も19.1%と低くなってしまった（前回は27.8%）。

年齢別にみると、30歳から50歳が中心で、30歳代が4割、40歳代が約3割の構成となっている。

表 1.1.1 回答者数（研究科別、男女別、年齢別）

研究科名	在籍数	回答者数	回収率	男性	女性	無回答	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答
ビジネス	514	95	18.5	73	21	1	9	42	22	16	5	1
人間総合	189	39	20.6	15	23	1	3	15	14	5	2	0
白紙・無回答				0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	703	134	19.1	88 65.7%	44 32.8%	2 1.5%	12 9.0%	57 42.5%	36 26.9%	21 15.7%	7 5.2%	1 0.7%

表 1.1.2 回答者数（年次別）

	回答数	回答率		回答数	回答率
修士課程 1年目	28	20.9	博士後期課程 3年目	4	5.2
2年目	13	9.7	4年目以上	2	1.5
3年目以上	1	0.7	専門職学位課程 1年目	22	16.4
博士前期課程 1年目	16	11.9	2年目	13	9.7
2年目	12	9.0	3年目	8	6.0
3年目以上	2	1.5	4年目以上	2	1.5
博士後期課程 1年目	7	5.2	無効・無回答	0	0.0
2年目	4	3.0			

1.2 外国人留学生について（問5）

◎外国人留学生はわずか。

「あなたは外国人留学生ですか」の問いに対して、ビジネス科学研究科の4名が「私費留学生」と回答している。ただし、「無効・無回答」が13名いる。

表 1.2 外国人留学生（全体）

		回答数	回答率
1	いいえ	117	87.3
2	私費留学生	4	3.0
3	文部科学省国費留学生	0	0.0
4	文部科学省以外の日本の団体等の奨学生	0	0.0
5	自国の奨学生	0	0.0
6	その他	0	0.0
無効・無回答		13	9.7
合計		134	100.0

1.3 社会人の経験について（問6）

◎「在職中」が85.1%、「現在定職がない」が9.0%。

「社会人の経験がありますか」の問いに対して、社会人の経験が「ない」と答えたのは、わずかに1名である。「現在も在職中」は85.1%、「現在は休職中」は2.2%、「退・辞職し、現在、定職はない」が9.0%である。前回調査時（平成22年度）は、それぞれ90.9%、1.1%、4.3%であったので、少し「在職中」が減り、「定職はない」が増えたことになる。

図 1.3 社会人の経験（研究科別、男女別、全体）

	回答数	ない		在職中		現在は休職中		現在、 定職はない		その他		無効・無回答	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ビジネス	95	0	0.0	82	86.3	2	2.1	8	8.4	1	1.1	2	2.1
人間総合	39	1	2.6	32	82.1	1	2.6	4	10.3	1	2.6	0	0.0
男性	88	1	1.1	77	87.5	0	0.0	8	9.1	0	0.0	2	2.3
女性	44	0	0.0	35	79.5	3	6.8	4	9.1	2	4.5	0	0.0
全体	134	1	0.7	114	85.1	3	2.2	12	9.0	2	1.5	2	1.5

1.4 職場の理解について (問7)

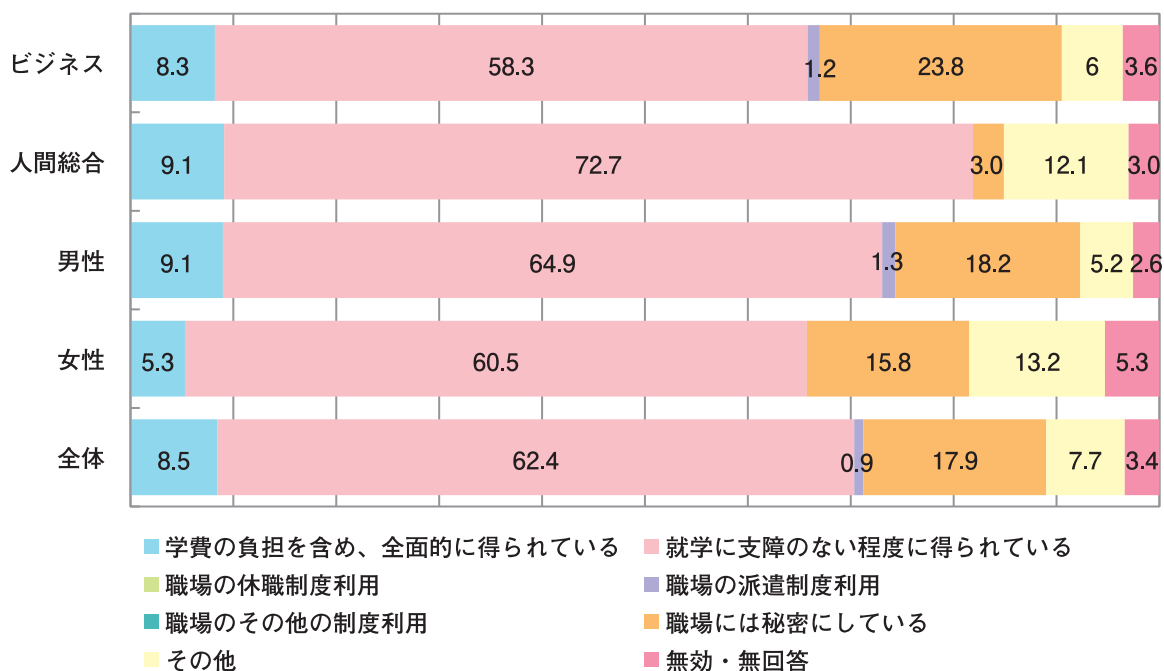
- ◎全体の7割は職場の理解を得られている。
- ◎職場の制度を利用した割合は0.9%と筑波地区に比べ少ない。

問(6)で「在職中」または「現在は休職中」と答えた者(全体の87.3%)に対して、「筑波大学大学院に入学するにあたって職場の理解は得られていますか」と尋ねた。全体で「学費の負担を含め、全面的に得られている」が8.5%「就学に支障がない程度に得られている」が62.4%で、合わせて全体の70.9%であり、2年前の前回調査(80.8%)よりも約10ポイント減少した。

なお、「職場には秘密にしている」者の割合が全体で17.9%と、前回(8.7%)に比べて増加した。特に、ビジネス科学研究科については、前回の13.6%から23.8%と10ポイント以上増加しており、この割合は筑波地区を含めた全研究科の中で最も高い。

職場の制度を利用している大学院生は、派遣制度で0.9%と、筑波地区(休職制度・派遣制度・その他の制度あわせて23.3%)に比べて、極めて少ない。これは、東京キャンパスが社会人大学院としての環境が整っているため、職場の制度に頼ることなく就学しているものと推測される。

図 1.4 職場の理解 (研究科別、男女別、全体、%)



1.5 筑波大学大学院を志望した主な理由（問 8）

- ◎志望動機として多いのは「希望分野」、「自宅から通える」、「指導教員」。
- ◎筑波地区に比べ「自宅から通える」が43.3%と多く、地理的環境が顕著。

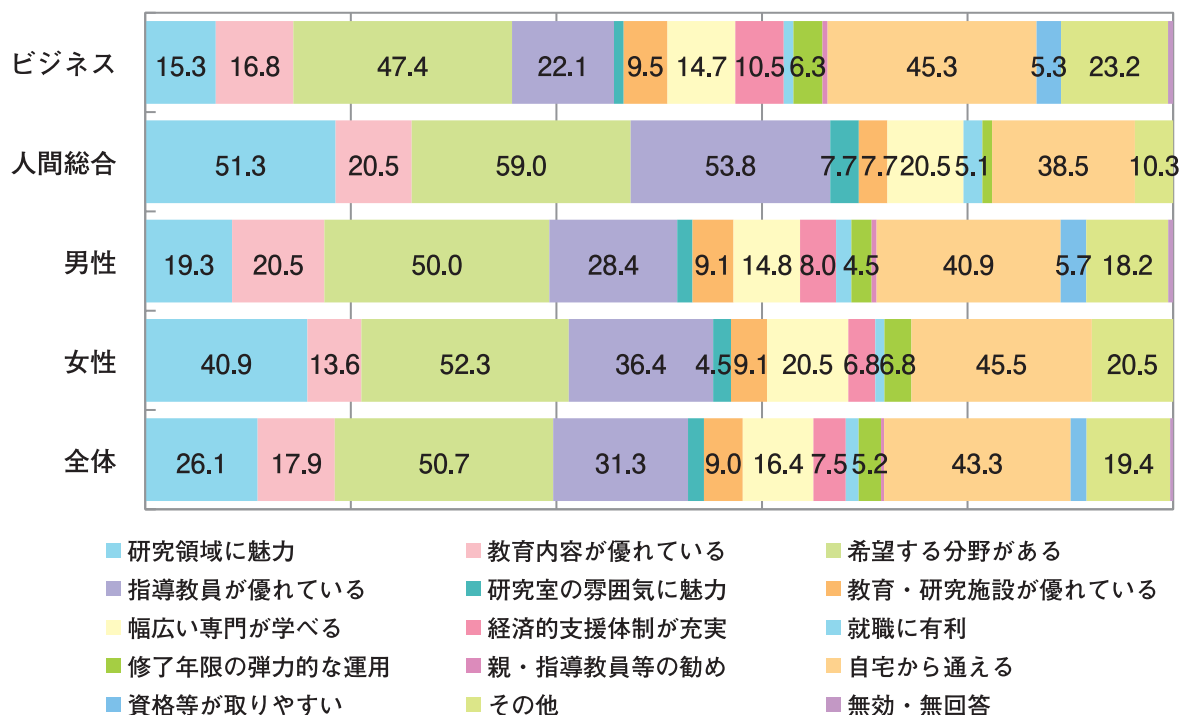
筑波大学大学院を志望した理由について14項目の中から3つ以内の選択で回答してもらった。志望動機の中で最も多かったのは「希望する分野がある」(50.7%)であり、次いで「自宅から通える」(43.3%)、「指導教員の資質・能力、指導体制が優れている」(31.3%)となっている。

筑波地区と比べ「自宅から通える」と回答した割合が43.3%（筑波地区は5.5%）と、東京地区という地理的環境が志望理由として顕著となっている。

上位3項目に次いで、「研究領域」(26.1%)、「教育内容」(17.9%)が志望理由となっており、「その他」の割合も19.4%と高かった。「その他」の理由としては、「夜間開講」、「勤務先から通える」との回答が多く挙げられた。

東京地区においては、教育・研究環境や通学を考慮した立地的条件に重きを置いて進学先を決めていることがうかがえる。

図 1.5 志望理由（研究科別、男女別、全体、%）



1.6 入学前の大学・大学院について (問 9)

◎全体の約9割が他大学出身。

◎ビジネス科学研究科で「外国の大学・大学院」出身者が増加。

筑波大学大学院に入学する前の大学または大学院について尋ねた。全体の89.5%は他大学出身者であり、多くの社会人学生を受け入れている東京地区の特性がうかがえる。

研究科別にみると、ビジネス科学研究科では「外国の大学・大学院」出身者が2年前の前回調査8.2%から13.7%に増加しており、さらに4年前の前々回調査(2.0%)と比較すると、約7倍に増加している。

図 1.6.1 入学前の大学または大学院 (研究科別、男女別、全体)

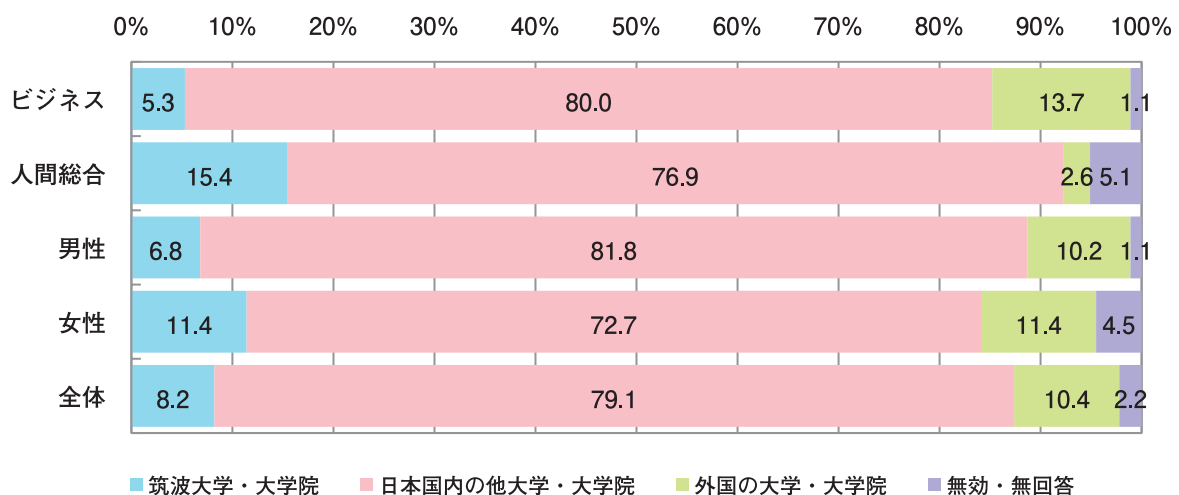
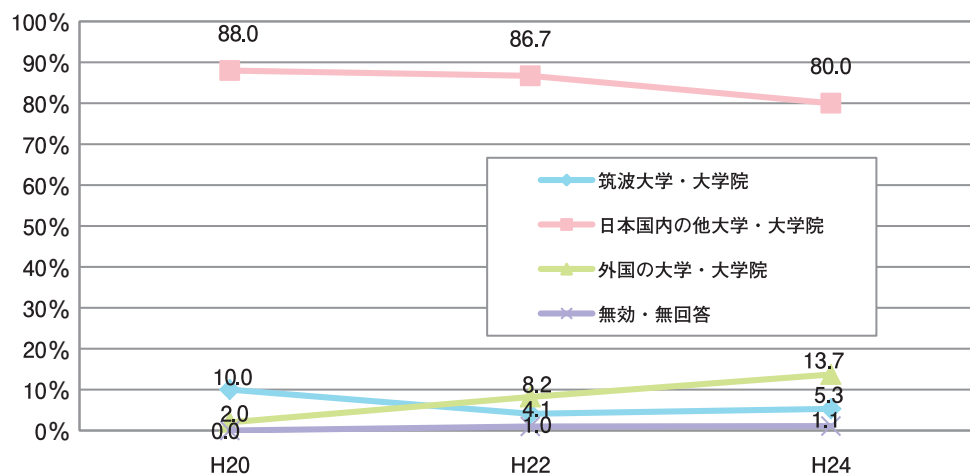


図 1.6.2 入学前の大学または大学院 【ビジネス科学研究科】年度別推移



1.7 現在の住まいについて (問 10)

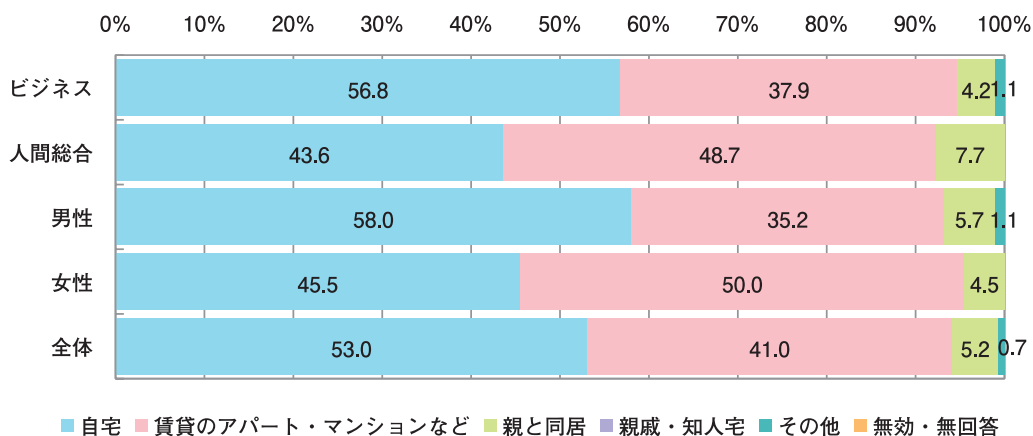
- ◎自宅 (53.0%)、賃貸のアパート・マンション (41.0%)。
- ◎ビジネス科学研究科で、自宅居住者の割合が増加。

現在の住まいについて尋ねた。東京地区では、自宅居住者の割合 (53.0%) が、賃貸のアパート・マンション居住者の割合 (41.0%) よりも高く、民間のアパート・マンションの居住者が多い (65.5%) 筑波地区とは、差異が見られる。

特に、ビジネス科学研究科では、2年前の前回調査時 (39.8%) に比べ、自宅居住者の割合が17ポイント増加している。これは、先の間(8)において、志望理由にも挙げられていたように、自宅から通えることが進学先選択の条件であることがうかがえる。

男女別にみると、男性の方が自宅に住む割合が女性よりも10ポイント以上高い。

図 1.7 現在の住まい (研究科別、男女別、全体)

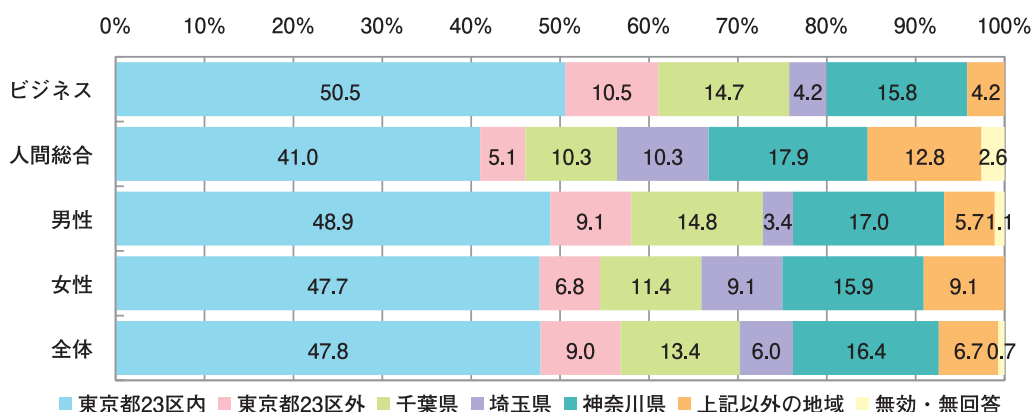


1.8 現在の居住地について (問 11)

- ◎約5割が東京都23区内に居住。
- ◎東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県で9割。

現在の居住地について尋ねた。その結果、約5割 (47.8%) が東京都23区内に居住している。次いで、居住者の多い順に、神奈川県 (16.4%)、千葉県 (13.4%)、東京都23区外 (9.0%) であった。筑波地区に比べると居住地は広く分布している。

図 1.8 現在の居住地 (研究科別、男女別、全体)



第2章 生活全般について

2.1 主たる家計支持者について（問12）

◎大学院生全体（東京地区）の9割以上が独立生計。

主たる家計支持者について尋ねた。「本人」である場合が83.6%、「配偶者」の場合が10.4%、「父親・母親」の場合が3.0%となっており、大学院生（東京地区）の9割以上が独立生計者である。

また、課程別では修士課程（博士前期課程および専門職学位課程を含む）の96.5%、博士課程の88.9%が独立生計者であり、主たる家計支持者が「父親・母親」の割合は、修士課程が3.5%あり、博士課程は0%である。

留学生では、回答した全員が主たる家計支持者が「本人」又は「配偶者」である。

表 2.1.1 家計支持者（全体）

		回答数	回答率
1	あなた自身	112	83.6
2	配偶者	14	10.4
3	父親・母親	4	3.0
4	両親以外の親族	0	0.0
5	その他	1	0.7
	無効・無回答	3	2.2
	合計	134	100.0

表 2.1.2 家計支持者（課程別）

	本人		配偶者		父親・母親		両親以外の親族		その他		合計
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
修士課程相当	98	86.0	12	10.5	4	3.5	0	0.0	0	0.0	114
博士課程相当	14	77.8	2	11.1	0	0.0	1	5.6	1	5.6	18
計	112	84.8	14	10.6	4	3.0	1	0.8	1	0.8	132

2.2 奨学金の受給（問 13）

◎奨学金受給者は大学院生（東京地区）の1割に満たない。

全体（東京地区）で91.8%の大学院生は何れの奨学金も受給していない。留学生では、回答した全員が奨学金を受けていなかった。

表 2.2 奨学金の受給（全体）

	回答数	回答率
1 受けていない	123	91.8
2 日本学生支援機構の奨学金	7	5.2
3 私費外国人留学生学習奨励費	0	0.0
4 地方公共団体の奨学金	0	0.0
5 日本の民間団体・財団等の奨学金	1	0.7
6 日本学術振興会の特別研究員	0	0.0
7 文部科学省国費留学生	0	0.0
8 自国政府の奨学金（留学生の場合）	0	0.0
9 その他	0	0.0
無効・無回答	3	2.2
合計	134	

2.3 「つくばスカラシップ」制度について（問 14）

◎「つくばスカラシップ」の認知度は大学院生（東京地区）の2割弱

大学院生（東京地区）で「つくばスカラシップ」について「知っている」が18.7%、「知らない」が79.9%となっている。問(16)への回答で「奨学金給付・貸与」の希望はある程度あるが、「スカラシップ」を知っている者は少ない。

表 2.3 「つくばスカラシップ」制度（全体）

	回答数	回答率
1 知っている	25	18.7
2 知らない	107	79.9
無効・無回答	2	1.5
合計	134	100.0

2.4 「つくばスカラシップ」の利用希望について（問 15）

◎大学院生（東京地区）全体の3割の者がスカラシップの利用を希望している。

問(14)で「知っている」と答えた者に「つくばスカラシップ」の利用希望について尋ねた。支援ごとの利用希望は「留学生支援」が4.0%、「緊急支援」が4.0%、海外留学支援については0%であった。大学院生（東京地区）の場合、「つくばスカラシップ」の利用を希望している者は全体的に少ない。

表 2.4 「つくばスカラシップ」制度の利用希望および支援内容（全体）

	回答数	回答率
1 希望しない	16	64.0
2 留学生支援	1	4.0
3 海外留学支援	0	0.0
4 国際的医学研究人養成コース支援	0	0.0
5 緊急支援	1	4.0
無効・無回答	7	28.0
合計	25	

2.5 希望する経済支援（問 16）

◎大学院生（東京地区）の6割ほどが何らかの経済支援を希望している。

希望する経済支援については2回目の調査である。大学院生（東京地区）の6割ほどが何らかの経済支援を希望しているが、問(13)の調査で解るように、実際に奨学金を受給している者は5.9%と少数であり、希望と実態の間にはかなりのギャップがある。

希望する経済支援としては、「給付型の奨学金」が39.6%、「授業料免除」が35.8%であった。「その他」で希望する経済支援として、研究費補助などがあつた。

表 2.5 希望する経済支援（全体）

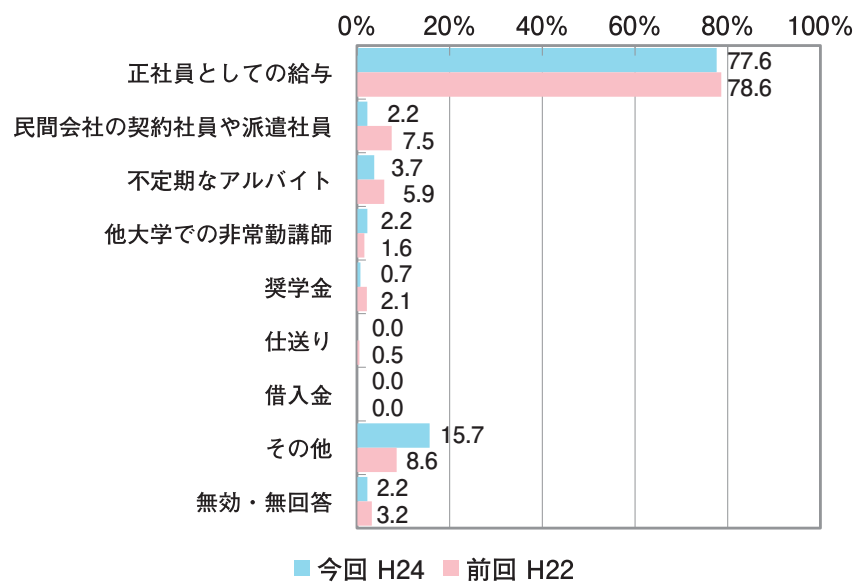
	回答数	回答率
1 特に希望しない	47	35.1
2 給付型（返還義務なし）奨学金	53	39.6
3 貸与型（返還義務あり）奨学金	18	13.4
4 授業料免除	48	35.8
5 一時貸付金	8	6.0
6 その他	6	4.5
無効・無回答	7	5.2
合計	187	

2.6 収入源について (問 17)

- ◎「正社員としての給与」を得ている者が77.6%。
- ◎派遣社員、アルバイトは減少し、「その他」が増加した。

平均的な収入源について、「正社員としての給与」、「派遣社員」、「アルバイト」、「奨学金」、「仕送り」などの中からあてはまるもの全てに○を付けてもらった。その結果、「正社員としての給与」が77.6%と最も多かった。この数字は、前は78.6%であり、わずかに減少した。また、「派遣社員」、「アルバイト」は減少し、「仕送り」は0%となった。「その他」には、役員報酬、自営業報酬の他に、貯蓄の取り崩しとの回答が数名からあった。図 2.6 に前回と比較した図を示す。

図 2.6 収入源の前回との比較 (全体)

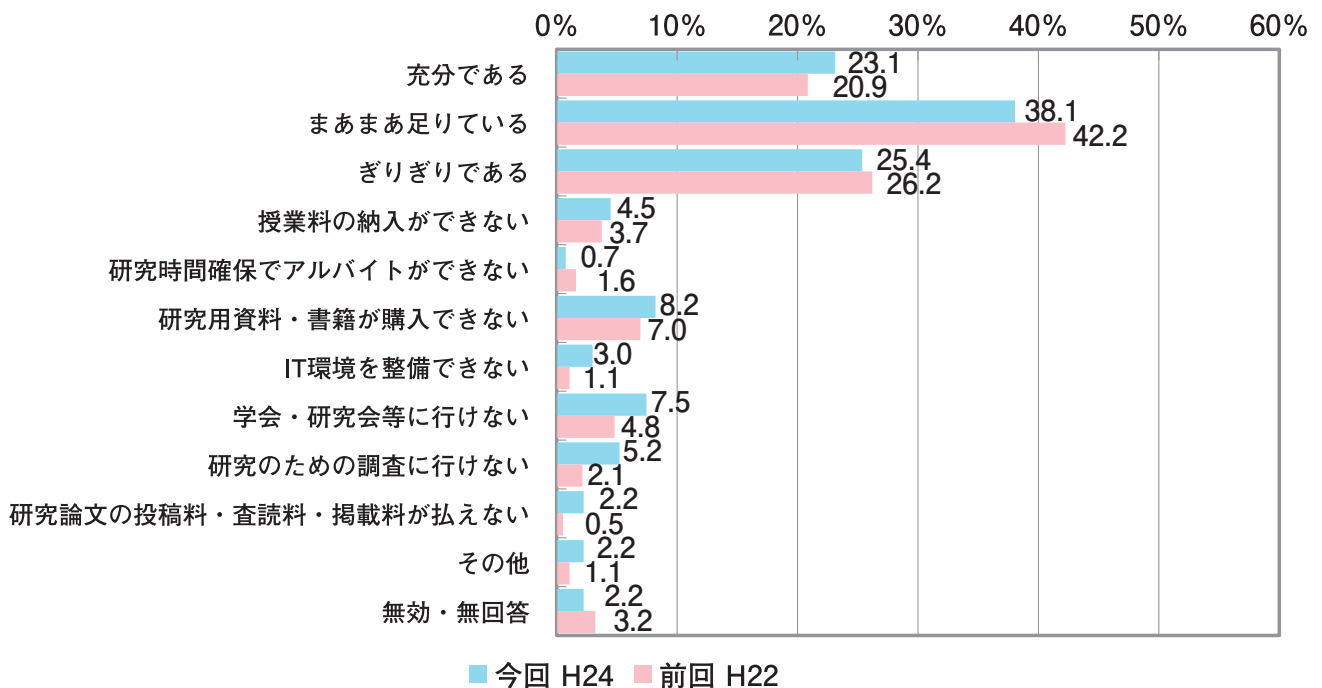


2.7 生活費や研究活動費について（問 18）

- ◎ 38.8%の人が生活費、研究活動費について不足を感じている。
- ◎ 授業料の納入や書籍購入費、学会などへの旅費が不足気味である。
- ◎ IT 環境整備に不足を感じている人も増加した。

この設問では、研究生活を送る為の経済的基盤が充実しているかを調べた。生活費や研究費が「充分である」と「まあまあ足りている」との回答の合計は61.2%であった。前回調査では、この合計は63.1%であり、ほぼ同じである。しかし、項目別の設問では、「授業料の納入ができない」、「研究資料・書籍が購入できない」、「IT 環境を整備できない」「学会・研究会等に行けない」などの項目に回答した割合が増加しており、研究遂行上、必要経費の不足傾向が進みつつあることが窺える。図 2.7 に前回との比較を含めた回答結果を示す。なお、「研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない」との回答も3名からあった。

図 2.7 生活費や研究費の充足度の前回との比較（全体）



2.8 起床時刻と就寝時間について（問 19）

◎睡眠時間は平均 5.8 時間である。

◎起床時刻は 6 時頃、就寝時刻は 0 時頃が最多。

起床時刻と就寝時刻について質問した。起床時刻は 6 時が最も多く、また、就寝時刻は 0 時～1 時が多い。睡眠時間は平均 5.8 時間である。これは、前回の 5.7 時間とそれほど変わらないが、筑波地区の大学院生の睡眠時間（6.7 時間）と比較すると、前回同様、「社会人としての多忙な生活」が窺える。

図 2.8.1 起床時刻（全体）

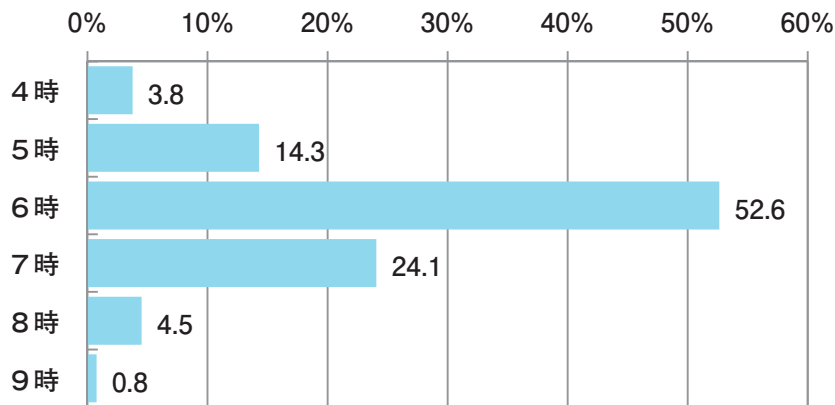


図 2.8.2 就寝時刻（全体）

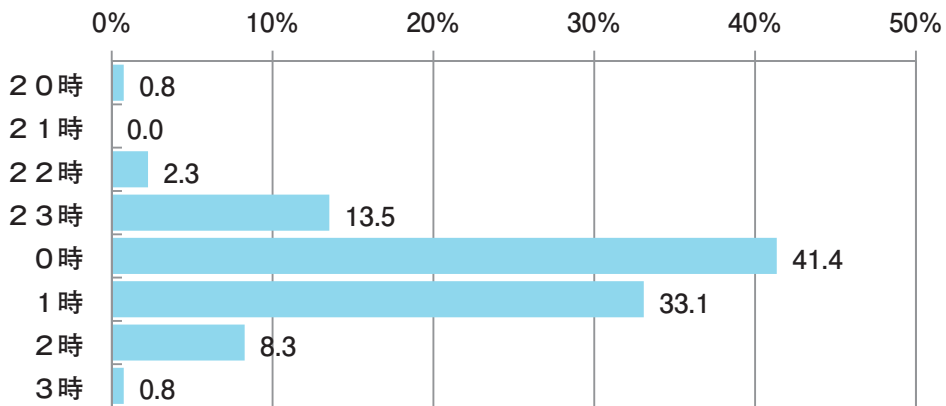
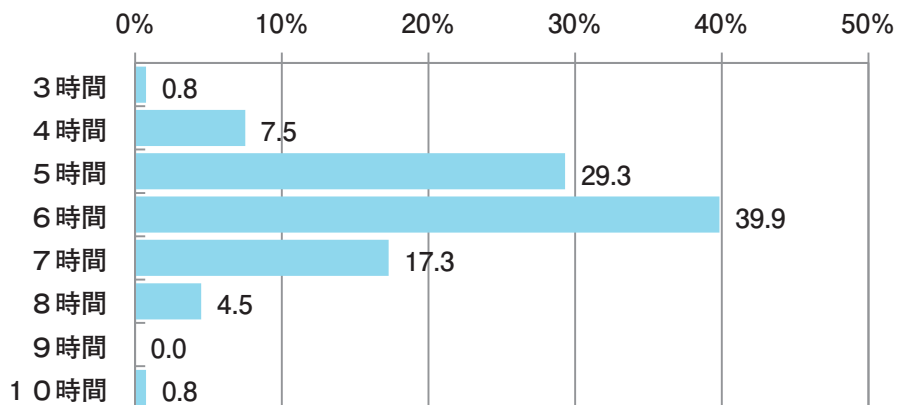


図 2.8.3 睡眠時間（全体）

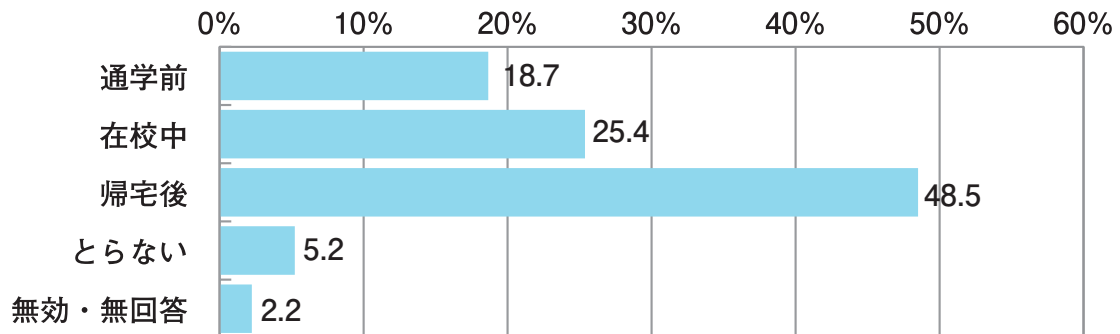


2.9 登校時の夕食について（問 20）

- ◎半数以上の人々が、空腹状態で授業を受講している。
- ◎夕食を食べない人も 5.2% いて、栄養面で問題である。

この設問は、今回初めての調査項目である。平日夜間の登校時に食事をいつとるかを尋ねた。登校する日の夕食は、「通学前」と「在校中」を合計しても、44.1%であり、半数以上の人々が夕食をとらずに授業を受講している実情が浮かび上がった。夕食を「とらない」人も 5.2%いる。

図 2.9 夕食摂取のタイミングについて（全体）

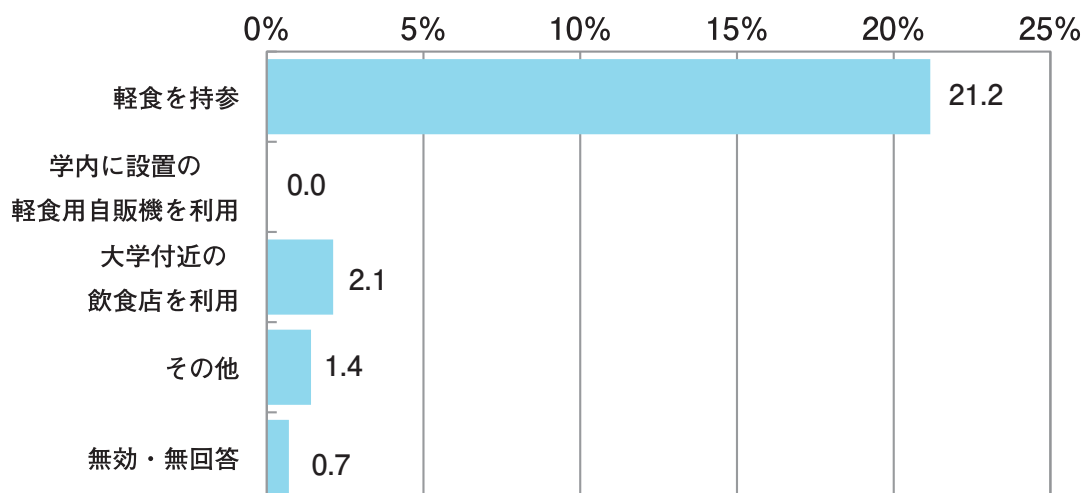


2.10 在校中の食事について（問 21）

- ◎全学生の 21.2% の人が夕食を持参している。
- ◎軽食用自動販売機は全く利用されていない。

問(20)で「在校中」に食事をとると回答した学生に、どのような形で食事をとっているかを尋ねた。今回初めての調査項目である。回答中、「軽食を持参」が 88%に上り、お弁当やパンなどを持参して学内で夕食をとっている実態が明らかになった。前問で「在校中」と答えた学生は 25.4%なので、全体としては 21.2% の学生が、軽食を持参していることになる。また、学内に設置されている軽食用自動販売機は全く利用されていないようである。

図 2.10 学内での食事方法について（全体）



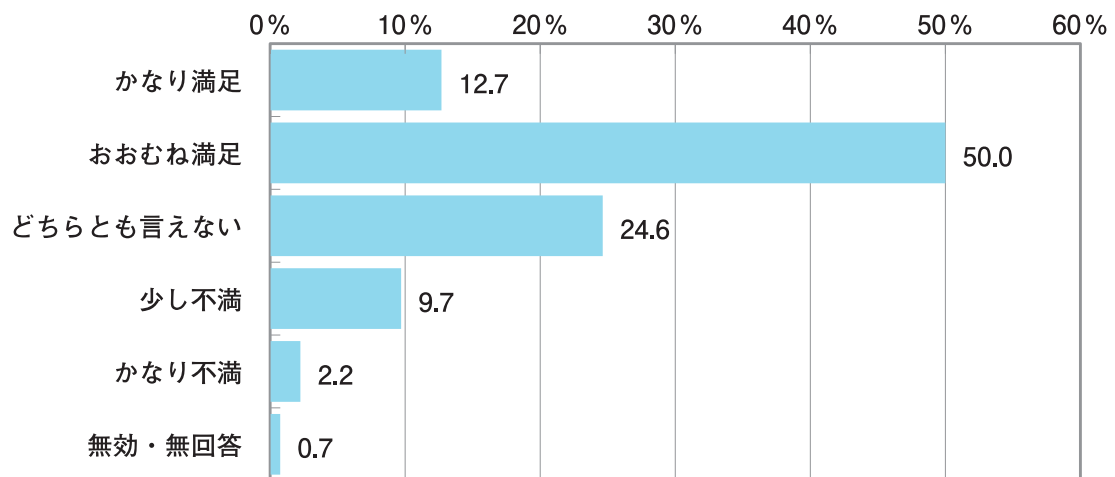
2.11 日常生活の満足度について（問 22）

◎東京地区大学院生の6割が日常生活に満足している。

日常生活の満足度を調査した。「かなり満足」から「かなり不満」までの5段階のうちからひとつの回答を求めた。東京地区の大学院全体としてみると「満足」とした回答の割合は62.7%であり、前回調査（平成22年度）の65.2%と大きな差は認められなかった。「不満」とする回答割合は11.9%と、前回17.8%に比べて、やや減少していた。この傾向は、筑波地区と同じである。ただし、東京地区の大学院生は社会人が占めているため、単純に筑波地区との比較はできないと思われる。

本大学院を志望した理由ごとに日常生活の満足度を見たところ、回答数が少ないため一般論にはならないが、希望する研究分野があるとした大学院生の中に不満とする回答が少し目立った。大学院進学の原因と日常すなわち大学院での研究生活にギャップが生じている面があるかもしれない。

図 2.11 日常生活の満足度（全体）



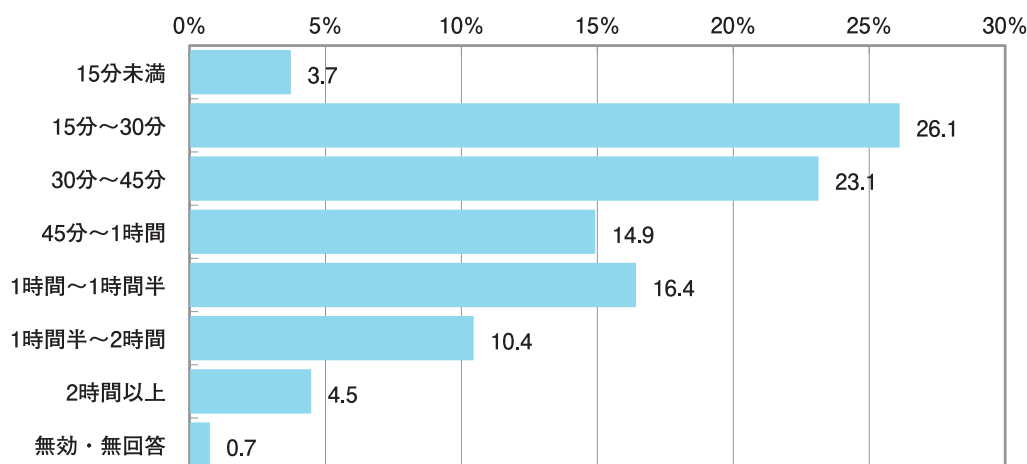
第3章 通学・ハラスメント等について

3.1 職場からの通学時間について（問23）

◎ 68%の大学院生が職場から1時間以内で通学している。

職場から東京キャンパスへの通学時間を調査した。約半数の学生が45分以内で通学できており、約70%の学生が1時間以内である。職場からの通学時間は大学院選択の重要な要素である。大学院の志望理由をみると、希望する分野があることはもちろんであるが、「自宅から通える」が43%と高い値であり、そのうちの70%が1時間以内の通学時間であった。職場からの通学時間と自宅への帰宅時間は重要な選択要因のようである。この傾向は前回調査とほぼ同様であり、社会人大学院の招集力は45分程度が基準となるのかもしれない。

図 3.1 職場からの通学時間（全体）



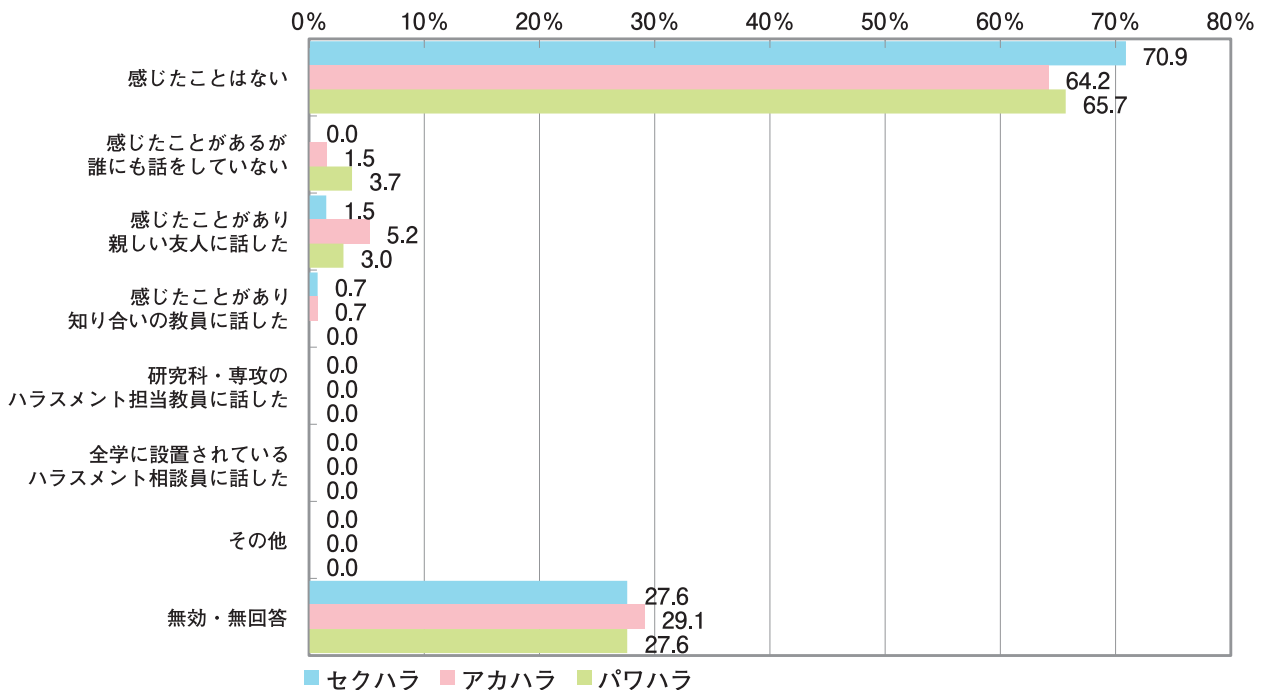
3.2 教員によるセクハラ、アカハラ、パワハラについて (問 24)

◎セクハラ・アカハラ・パワハラを感じたことのある大学院生は、それぞれ、3.3%、9.7%、9.5%である。

大学院におけるセクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、会社におけるパワーハラスメントについて調査した。それぞれ「感じたことがある」、「感じたことがある場合、どのような人に相談したか」を尋ねた。セクハラを感じたことある学生は全体の3.3%、アカハラについては9.7%、会社でのパワハラについては9.5%であり、前回調査と大きな違いは認められなかった。アカハラ・パワハラ両方とも「感じたことがある」としたのは女性のほうが多く、そのほとんどの場合、親しい友人に相談し、相談員あるいは教員に相談した例はなかった。進行形の場合もあり、回答は難しいが、どのような形で解決したのか(できるのか)が重要となろう。

東京地区大学院生は社会人が多いものの、「無効・無回答」が多いことをみると、ハラスメントとなりうる事例か否かの判断がうまくできていない恐れもある。とくに大学院生は、自分が置かれている環境を受け入れてしまうことが多いため、ハラスメントとしての自覚がないままに事態が進んでしまうこともあるかもしれない。定義を示したうえでアンケート調査も必要であろう。

図 3.2 セクハラ・アカハラ・パワハラについて (全体)



第4章 健康状態について

4.1 健康状態について（問25）

- ◎全体の69.2%が過去一年間で「健康である」と回答。しかし、男性の79.3%に対し、女性は47.7%ととても低い。全般的な傾向として女性の方が良くない回答が多い。
- ◎「身体の病気で受診・入院した」は女性の回答が約3割であった。

過去1年間の健康状態について、「健康である」と回答した割合は、全体で69.2%であった。前回（平成22年度）は66.8%で若干増えてはいるがほぼ同程度である。

男女別による違いについては、女性（47.7%）の方が男性（79.3%）よりも「健康である」割合が低く、前回と同様な結果である。また、「身体の病気で受診・入院した」も、男性が6.9%であるのに対し、女性は29.5%ととても高い。全般的な傾向として、女性の大学院生の方が男性よりも健康状態は良くないという特徴は、前回と同様である。

所属する研究科で比較すると、総じて人間総合科学研究科の方がビジネス科学研究科よりも健康状態が良くない傾向があるが、これは、性差が反映された結果なのかもしれない。つまり、ビジネス科学研究科の回答者の男女比は、8割弱対2割強と男性の比率が高いのに対し、人間総合科学研究科の男女比は、およそ4対6と女性の比率が高いため、研究科の特徴として、性差が表れた結果かもしれない。サンプル数が少ないので解釈は難しいところもあるが、全体的に女性の大学院生の方が健康度が低いという特徴は前回から一貫して見られる特徴である。

表 4.1 過去1年間の健康状態について（全体、男女別、研究科別、%）

		全体	男性	女性	ビジネス	人間総合
1	健康である	69.2	79.3	47.7	72.6	60.5
2	健康不良で数日寝込んだ（受診・入院を除く）	12.0	9.2	18.2	9.5	18.4
3	身体の病気で受診・入院した	14.3	6.9	29.5	11.6	21.1
4	精神的な問題で受診・入院した	2.3	1.1	4.5	2.1	2.6
5	心理的な問題で相談機関を利用した	2.3	0.0	6.8	1.1	5.3
6	けがで受診・入院した	3.0	1.1	6.8	3.2	2.6
7	その他	4.5	3.4	6.8	3.2	7.9
	対象者の母数	133	87	44	95	38

4.2 悩みごとについて (問 26)

- ◎ 「学業と仕事の両立」が最も多く、全体で 65.4% の回答。
- ◎ 2 番目は「学業や研究の不振」であるが、全体で 23.3% と筑波地区よりも低い。
- ◎ 「その他」の項目には、会社や職場のことを挙げている回答もみられた。

過去 1 年間に悩んだことの中で、最も多かったのは、前回同様「学業と仕事の両立」で、社会人大学院生特有の問題である。東京地区の大学院生の悩みごとの選択率は、筑波地区の大学院生の結果よりも一般的に低い。東京地区の 2 番目に選択された「学業や研究の不振」は全体で 23.3% であり、全体で 55.1% の大学院生が選択した筑波地区よりもとても低い結果であった。

「学業や研究の不振」や「自分の精神的・心理的状态」、「経済状態」などは、女性の方が男性よりも比較的高い選択率であるが、同時に、人間総合科学研究科もビジネス科学研究科と比べて同様に比較的高い選択率であった。ただし、「単位修得の問題」と「その他」は、男性とビジネス科学研究科の方が比較的高い選択率であった。これらの傾向は、性差なのか研究科の差なのかは判断が難しいところもある。いずれにしろ、それを選択している大学院生がいることを認識しておくことが必要と思われる。

「学業と仕事の両立」以外の項目でみられた筑波地区との傾向の差は、発達的な特徴が反映された年代差とも考えられる、また、「その他」の自由記述部分には、会社や職場の事柄を挙げている回答がみられた。選択肢の工夫も今後必要かもしれない。

表 4.2 過去 1 年間に困ったり悩んだりしたこと (全体、男女別、研究科別、%)

	全体	男性	女性	ビジネス	人間総合
1 学業と仕事の両立	65.4	64.4	68.2	67.4	60.5
2 学業や研究の不振	23.3	19.5	31.8	20.0	31.6
3 単位修得の問題	12.8	13.8	9.1	15.8	5.3
4 休学・退学	3.0	1.1	4.5	3.2	2.6
5 転研究科・転専攻	1.5	1.1	2.3	1.1	2.6
6 友人との関係	3.8	1.1	9.1	2.1	7.9
7 教員との関係	3.8	1.1	9.1	2.1	7.9
8 研究室内の問題	3.8	1.1	9.1	2.1	7.9
9 恋愛関係	7.5	5.7	11.4	5.3	13.2
10 家族関係	9.8	5.7	18.2	8.4	13.2
11 自分の性格	8.3	4.6	13.6	6.3	13.2
12 自分の精神的・心理的状态	14.3	5.7	29.5	8.4	28.9
13 自分の身体的病気・けが等の状態	10.5	3.4	25.0	7.4	18.4
14 経済状態	18.8	12.6	29.5	12.6	34.2
15 ハラスメント	1.5	0.0	4.5	1.1	2.6
16 その他	8.3	9.2	6.8	8.4	7.9
17 特になし	15.0	17.2	9.1	14.7	15.8
対象者の母数	133	87	44	95	38

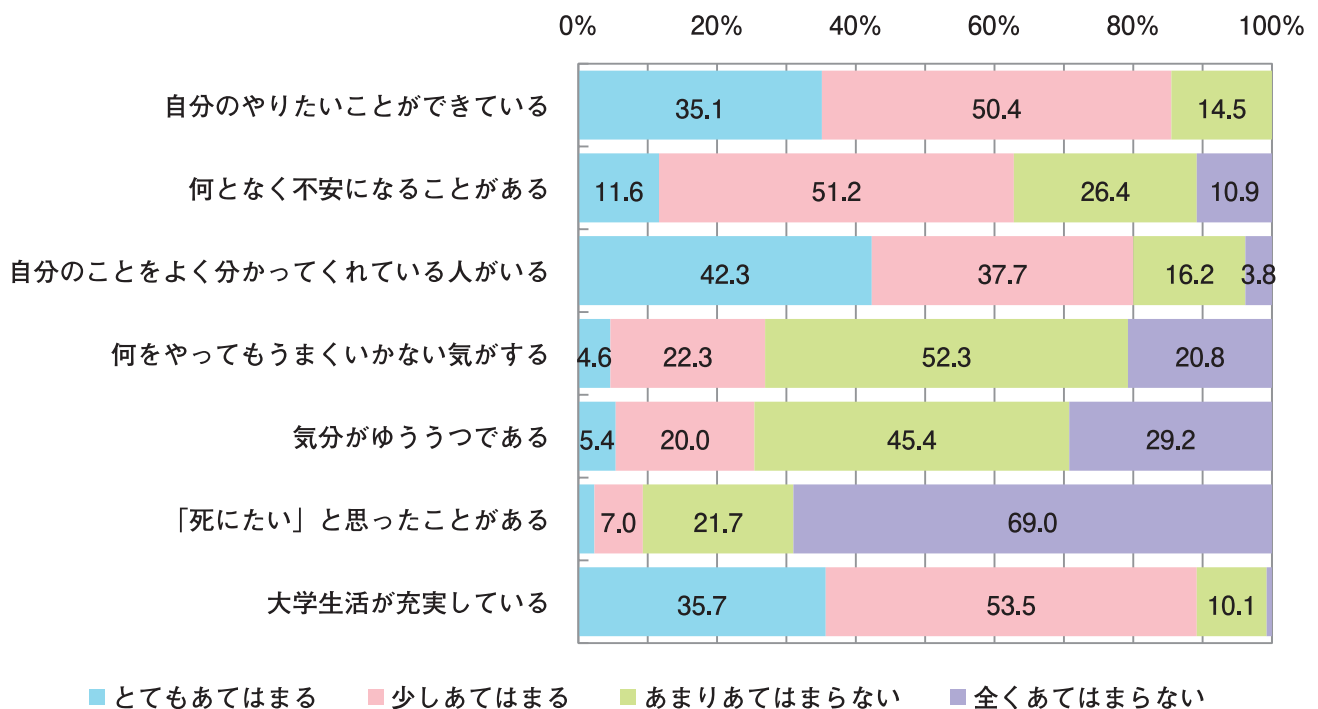
4.3 精神的な健康状態について（問 27）

- ◎「やりたいことができている」院生は 85.5%、「充実している」院生は 89.1%。
- ◎その一方で「なんとなく不安」は 62.8%、自信のなさや気分の落ち込みは約 2 割 5 分。
- ◎「死にたい」と思ったことがある大学院生は 9.3%。

精神的な健康状態を把握する 7 項目に対する回答を図 4.3 にまとめた。「自分のやりたいことができている」「自分のことをよくわかってきている人がある」など肯定的な項目に「とても当てはまる、少し当てはまる」と回答したのは全体で 8 割を超えている。これは、筑波地区の大学院生と同様な傾向であるが、筑波地区の大学院生よりも選択率は高く、より充実していることがうかがえる。一方、「なんとなく不安になることがある」や「何をやってもうまくいかない気がする」、「気分がゆううつである」、「『死にたい』と思ったことがある」などのネガティブな項目については、筑波地区の大学院生と同様な傾向であるが、いずれの項目も筑波地区の大学院生より選択率が低く、筑波地区よりは良いと思われる。それでも、2005 年度の『学生の健康白書』の大学院生の全国平均よりも高い。

筑波地区の大学院生よりも東京地区の大学院生の方が、全般的に良い状況であるのは、2 年前の前の結果と同様であり、社会人という特徴や年齢差などの発達のな特徴を表しているとも思われる。筑波地区と比べて全般的に良い状況であっても、「なんとなく不安になることがある」は約 6 割、「死にたい」と思ったことがあるのも約 1 割はあるので、必要な支援を行っていくことが大切であろう。

図 4.3 過去 1 年間の精神的な健康状態について（全体）



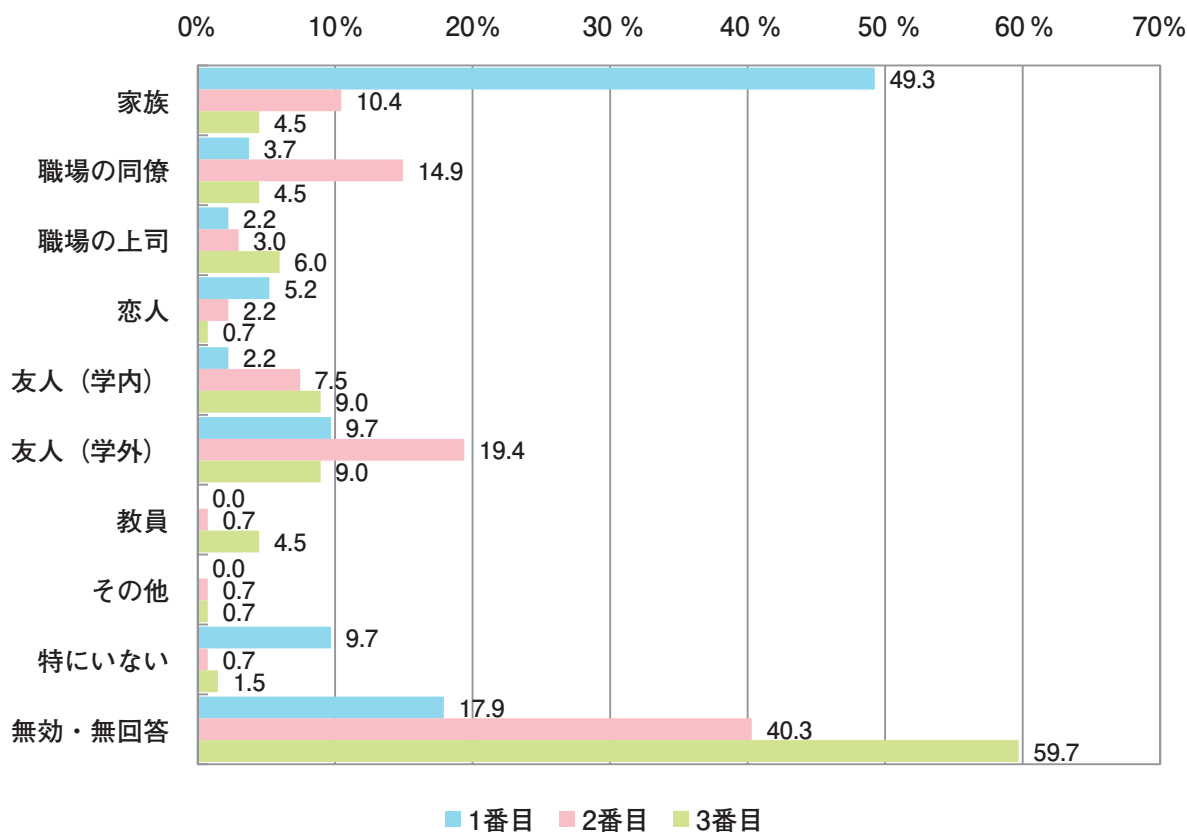
第5章 相談相手について

5.1 相談相手について (問28)

- ◎1番目の相談相手は約5割が、「家族」を選択している。
- ◎2番目は、学外の友人(19.4%)や職場の同僚(14.9%)が多い。
- ◎相談相手が「特にない」や無効・無回答が多い。

重要なことを話したり、悩みを相談する相手として、話したり、相談しやすい順に上位3つの回答を求めた。最も多く1番目に選ばれたのは「家族」で約5割であった。その次は、「学外の友人」と「特にない」が9.7%で同じであった。2番目の相談相手は「学外の友人」や「職場の同僚」で、約2割と約1割5分であった。教員は1番目として誰も選択しておらず、2番目で0.7%、3番目で4.5%ととても低い選択率であった。これらの結果は、社会人や年齢層の特徴がある東京地区の大学院生の傾向を表していると思われる。全般的には、相談相手として「家族」が主で、職場の同僚や学外の友人も相談相手ではあるが、選択率はそれほど多くはなく、家族以外の相談相手は多くはない。また、「無効・無回答」が1番目で17.9%、2番目で40.3%、3番目で59.7%と極めて多いところから、相談相手が少ない状況であることがうかがえる。そして、教員はほとんど相談相手として選択されていない。社会人であることや年齢層を考えると了解できる結果ともいえるが、問(26)の悩みごとの調査結果では、「学業と仕事の両立」や「学業や研究の不振」が多いことを考えると、大学環境の中でも必要なときに相談できる人や機会があるとよいと思われる。

図 5.1 悩みの相談相手について (全体)

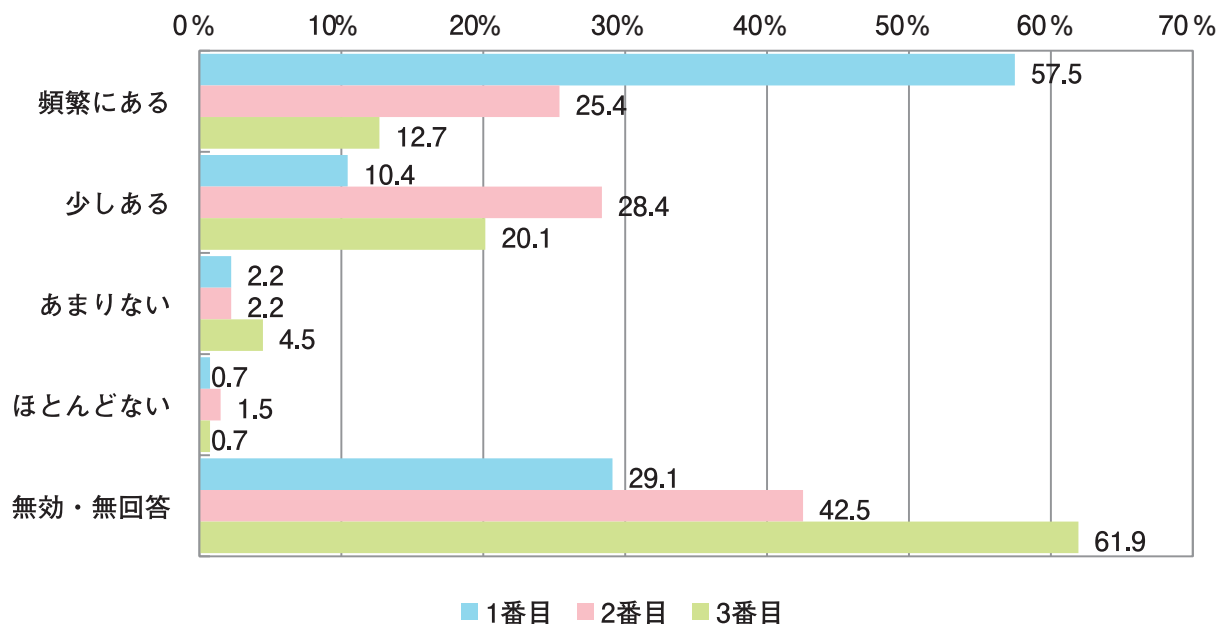


5.2 相談しやすい人との接触頻度について（問 29）

- ◎ 1 番目の相談相手は 57.5%が「頻繁にある」を選択している。
- ◎ 2 番目は、「頻繁にある」が 25.4%、「少しある」が 28.4%と筑波地区より少なめ。
- ◎ 「無効・無回答」が 1 番目で 29.1%、2 番目で 42.5%、3 番目で 61.9%と極めて多い。

問(28)で重要なことを相談しやすい相手として選んだ人と、どのくらい話す機会があるかを尋ねた項目である。1 番目の相談相手は 57.5%が「頻繁にある」を選択している。問(28)では 1 番目の相談相手は約 5 割が「家族」であり、家庭を持っている大学院生や自宅通学の大学院生も多いと推察されることから、一緒に生活している家族が相談相手になっていると考えられる。しかし、問(28)で家族以外の相談相手が少なかったように、それ以外の機会は多くはなく、「無効・無回答」がとても多いのが特徴的である。筑波地区の大学院生に比べて、家族以外では、相談相手や相談相手と話をする機会は総じて少ないというのが東京地区の大学院生の特徴と思われるが、社会人でもあるので、問題が起こらなければ、日常的に相談相手と話をする機会は多くは必要ないのかもしれない。それゆえ、何か問題が起こった時に、本人が必要としたときに、相談したり支援を受けられるようなシステムや機会があるとよいのかもしれない。

図 5.2 相談相手と話をする機会（全体）



第6章 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について

6.1 教員に期待することについて（問30）

◎東京地区全体では「授業内容の充実」「優れた研究者」「解りやすい教育」が望まれている。
 ◎人間総合では「研究面の期待」、ビジネスでは「教育面の期待」を求める声が多い。

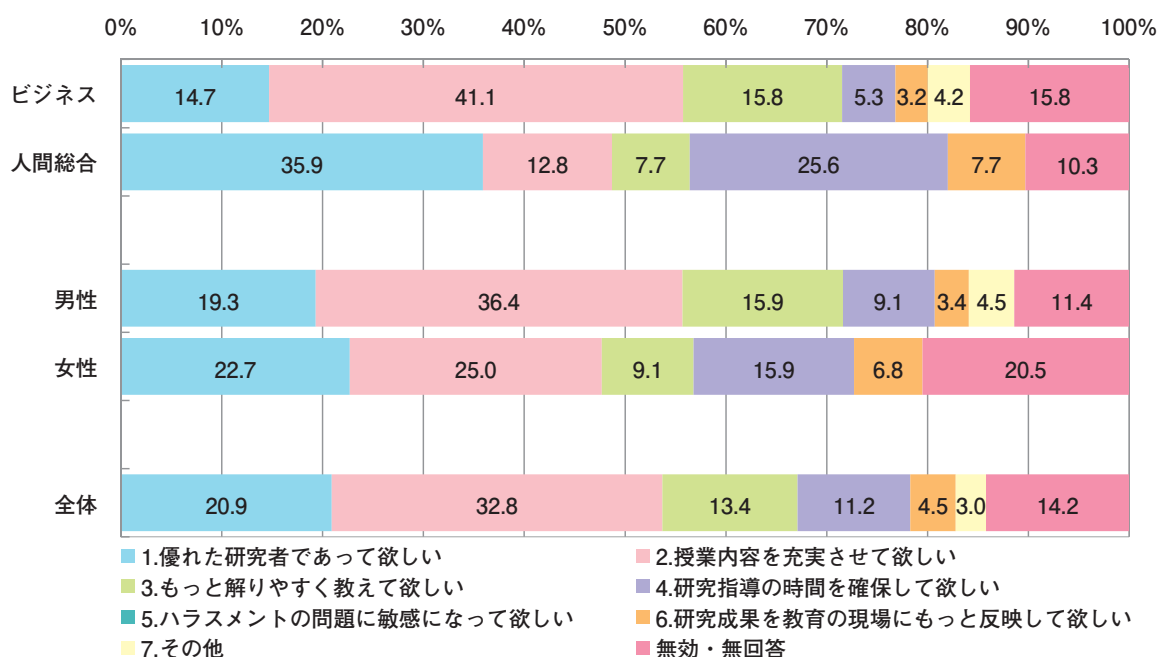
前回調査（平成22年度）に引き続き、教員に期待することを調査した。3つまでの複数回答方式であった前回までと異なり、今回調査では最も期待すること1つを選択する方式で調査した。選択肢は筑波地区と同様である。結果を図6.1に示す。

全体では「授業内容を充実して欲しい」と期待する回答者が目立つ（32.8%）。筑波地区では第1位であった「優れた研究者であること」を望む者も多い（20.9%）が、「授業内容の充実」への期待がこれを上回っていた。以下、「もっと解りやすく教えてほしい」（13.4%）、「研究指導の時間を確保して欲しい」（11.2%）が続いていた。

教育面への期待の高さはビジネスで特に顕著で、「授業内容の充実」の回答率はビジネス41.1%、人間総合12.8%、「解りやすい教育」の回答率はビジネス15.8%、人間総合7.7%である。一方、「優れた研究者」の回答率はビジネス14.7%、人間総合35.9%、「研究指導の時間確保」の回答率はビジネス5.3%、人間総合25.6%と、人間総合では研究面への期待が高いことが明らかになった。以上の結果は、数値自体は異なるものの、前回調査と全く同じ傾向である。

東京地区では研究科ごとの性別の偏りが大きく、回答者データでは、ビジネスで男性の比率が76.8%であるのに対し、人間総合では38.5%である。そのため研究科ごとの回答分布と性別による回答分布が並行する傾向があり、「授業内容の充実（男性36.4%、女性25.0%）」や「解りやすい教育（男性15.9%、女性9.1%）」の回答率は男性が高く、「優れた研究者（女性22.7%、男性19.3%）」と「研究指導の時間確保（女性15.9%、男性9.1%）」の回答率は女性が高かった。

図6.1 教員に期待すること（研究科別、男女別、全体）



6.2 教育面や制度面で充実して欲しい点について（問 31）

- ◎「カリキュラム」を充実して欲しいと感じるのは全体の65%。
- ◎次いで、「経済的支援」・「教育研究スタッフ」に対する要望が多い。

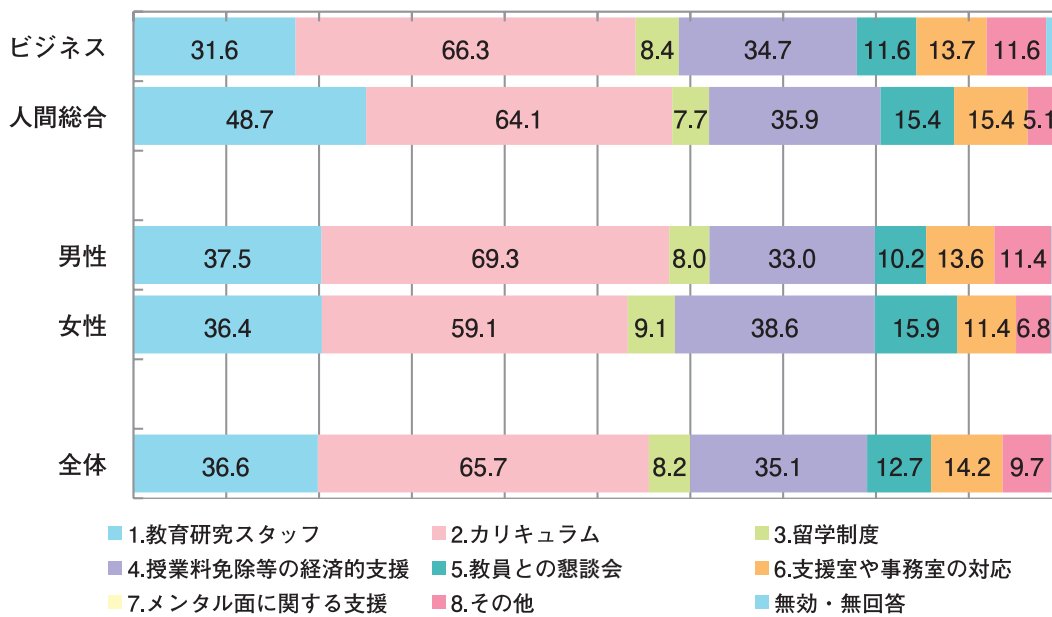
本学の教育面・制度面で充実して欲しいと感じている項目を3つ以内の複数回答で調査した（図6.2）。ただし、筑波地区より選択肢は2つ少なく、「課外教育プログラム」と「就職活動支援」が含まれていない。

東京地区全体で最も大きいのは、「カリキュラム」に対する要望で（65.7%）、次いで「教育研究スタッフ」（36.6%）、「経済的支援」（35.1%）の2つが続いていた。

研究科別に見た場合、「カリキュラム」の回答率はビジネス（66.3%）と人間総合（64.1%）ともに高く、次いでビジネスでは「経済的支援」（34.7%）、人間総合では「教育研究スタッフ」（48.7%）が第2位となり、人間総合で「教育研究スタッフ」への要望がやや目立つ結果であった。

男女別回答分布は研究科別の回答率分布と概ね並行するが、「教員との懇談会」については、女性の回答率（15.9%）が男性（10.2%）より高くなっている。

図 6.2 教育面や制度面で充実して欲しい点（複数回答：研究科別、男女別、全体、%）



6.3 整備・充実して欲しい施設について（問 32）

◎ビジネスでは「図書館」、人間総合では「IT 環境」の整備・充実が望まれている。

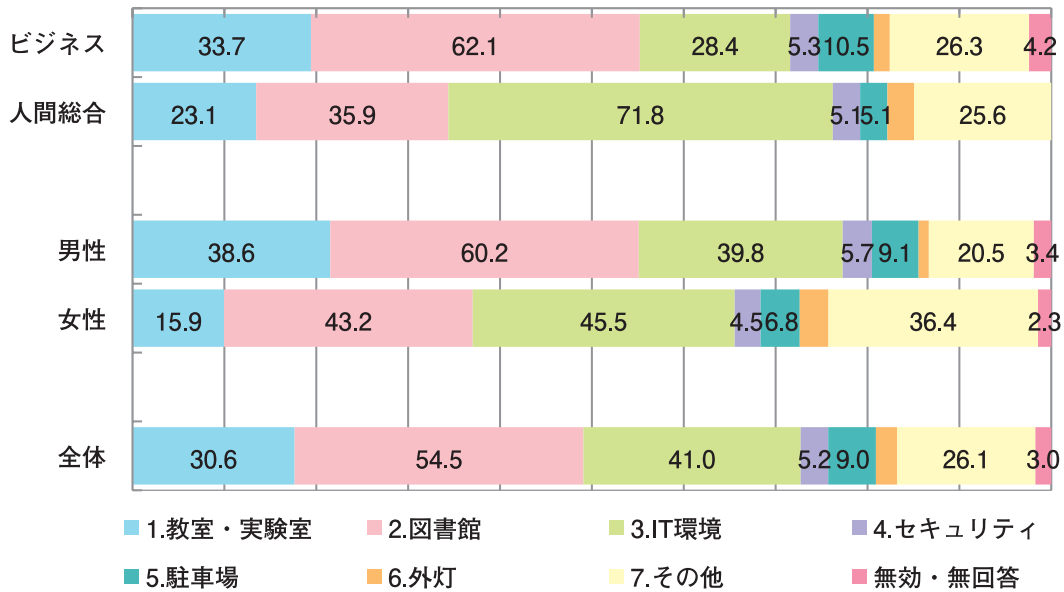
整備・充実を要望する施設を3つ以内の回答で調査した。この設問においても東京地区の選択肢の数は筑波地区より少なく、「体育施設」や「学内循環バス」などが含まれていない。

図 6.3 に示すように、東京地区全体では特に「図書館」の充実を求める回答者が多い(54.5%)ことが分かった。次いで「IT 環境」(41.0%)、「教室・実験室」(30.6%) についても整備充実が望まれていた。「その他」としては、喫茶・食堂、託児室、休憩室、自習室、売店、ロッカー、空調などが挙げられていた。

「図書館」の充実を求める声はビジネス (62.1%) において顕著であったのに対して、人間総合では「IT 環境」(71.8%) の充実が大きな差をつけて第1位に望まれており、「図書館」(35.9%) は第2位であった。同じキャンパスであっても、研究形態の違いにより整備・充実の優先順位が異なると思われる、改善策の立案の際には十分な注意が必要であろう。

6.1 および 6.2 と同様に、男女差は研究科ごとの差と概ね並行しており、ここでも研究科ごとの男女比の違いが反映されていると考えられる。

図 6.3 整備・充実してほしい施設（複数回答：研究科別、男女別、全体、%）



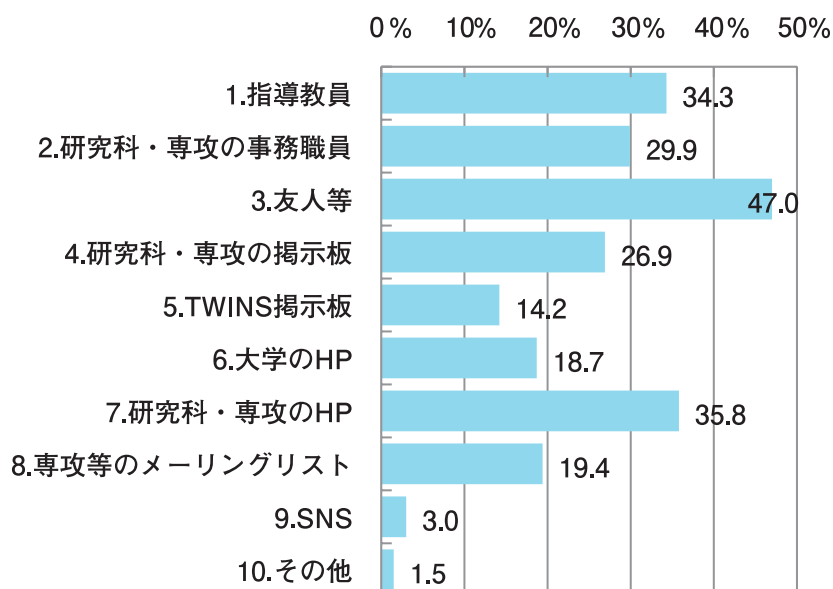
第7章 その他

7.1 学修や研究・生活に関わる情報源について（問 33）

◎情報源は、指導教員と友人が最も多い。

学修・研究や生活に関わる一般的な情報を得ようとするとき、主に誰にあるいは何にアクセスするかを3つ以内で尋ねた。回答が多かったのは、「指導教員」(34.3%)と「友人等」(47.0%)、「研究科・専攻等のHP」(35.8%)であり、これは筑波地区の研究科と同様の傾向であった。ただし、筑波地区と比べてみると大学のホームページの利用率が低い傾向にある一方で、研究科・専攻等のHPの利用率が高いことがわかる。

図 7.1 学修・研究や生活に関わる一般的な情報源（全体）



7.2 相談機関について (問 34)

◎ 「ワーク・ライフ・バランス相談」の希望率が最も高い。

東京地区では利用率ではなく、4種類の相談機関に関する必要性を質問した。その結果、ワーク・ライフ・バランスに関する希望が38.1%と最も高かった。ワーク・ライフ・バランスの希望率が高いのは、在職者が多いためであろう。

研究科別にみると、ビジネスでは「その他何でも相談」、「ワーク・ライフ・バランス相談」の順に多く、人間総合では、「ワーク・ライフ・バランス相談」「精神・保健に関する相談」、の順であった。特にビジネス科学研究科で「その他なんでも相談」の必要性を指摘した学生の比率が前回調査の17.3%から38.9%に上がった。(表7.2)。

図 7.2 相談機関の必要性 (全体)

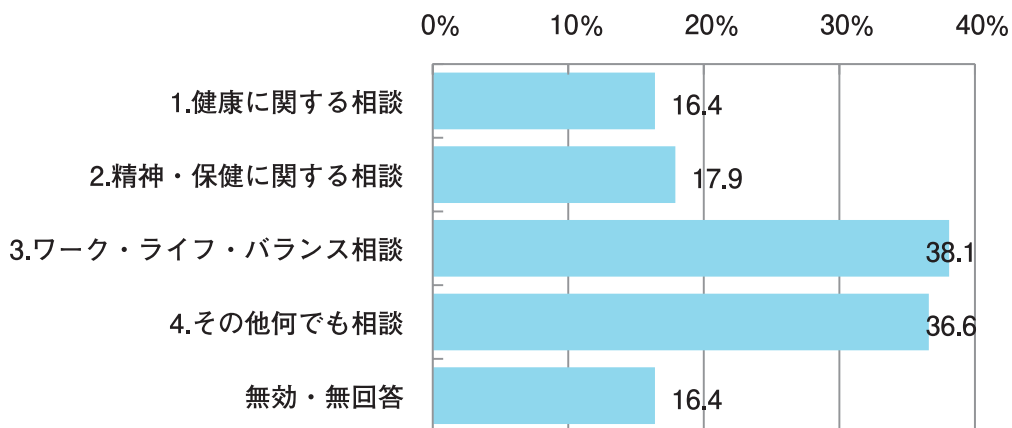


表 7.2 相談機関の必要性 (全体、研究科別、%)

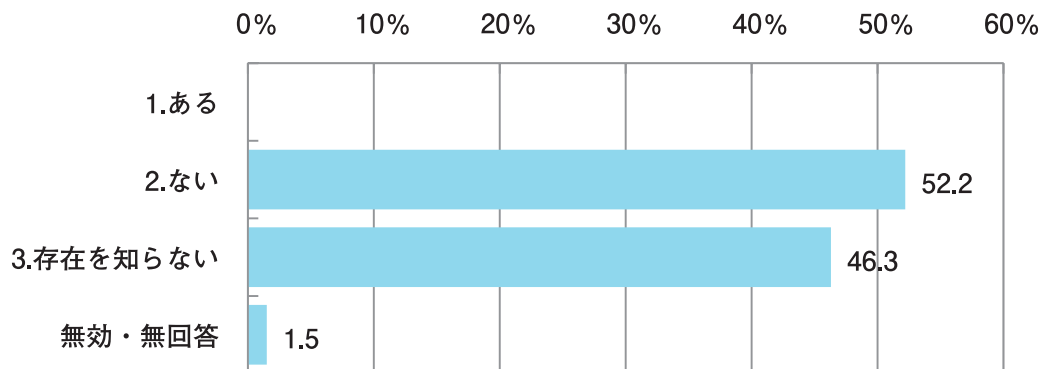
	全体 (N = 134)	ビジネス (N = 95)	人間総合 (N = 39)
1. 健康に関する相談	16.4	11.6	28.2
2. 精神・保健に関する相談	17.9	11.6	33.3
3. ワーク・ライフ・バランス相談	38.1	36.8	41.0
4. その他何でも相談	36.6	38.9	30.8

7.3 学外研修施設の利用について（問 35）

◎学外研修施設はまったく利用されていない。

筑波大学の学外研修施設（山中、館山、石打）の利用率は、0%であった。存在自体を「知らない」とした回答は46.3%であり、東京地区の学生には学外研修施設は全く利用されていない。

図 7.3 学外研修施設の利用率（全体）



第8章 自由記述

1. はじめに

東京地区のばあい、67人が自由回答に記入した。これは、有効回答134人の50.0%にあたる。のべ回答数は122件であり、平均すれば一人当たり1.8件の記入になる。なお、記入のさいには、下記のような分類表を提示して、該当する項目を選びその具体的な内容を箇条書きにしている。

- A. 制度に関する要望・不満： (A1) カリキュラム (A2) 学生生活支援 (A3) 経済支援 (A4) キャリア支援・就職 (A5) その他
- B. 教職員に対する要望・不満： (B1) 教員に対して (B2) 職員に対して (B3) その他
- C. 施設に対する要望・不満： (C1) 研究施設 (C2) IT (C3) 図書館 (C4) 売店 (C5) その他
- D. その他

記述は、2つの項目にまたがっているばあいもあるが、原則的には回答者の分類に従っている。また、参考のために回答件数を()内に示した。

2. 個々の記述内容の外観

東京地区は、キャンパスの校舎や設備など物理的な条件がつくば地区とは異なるだけではなく、社会人のための夜間大学院であることが大きな特徴である。現状の認識や改善要望にはこれらが反映している。

A. 制度などに関する要望 (35)

(A1) カリキュラム

制度に関する要望・不満の中では、カリキュラムについてのそれが、主要部分をしめた。なかでも勤務時間や出張などで遅刻・欠席せざるをえない問題に対して柔軟な対応を求める声が多かった。具体的には、比較的ゆとりのある土曜日の授業を充実させる、日曜日の授業を実施する、試験のさいには欠席要件を機械的に適用せず補講やレポート提出で救済措置をとる、などがあげられた。また、突然の授業スケジュール変更は、授業に出席できず不利益が生じやすいことを訴える声もある。

カリキュラムの内容については、開設科目を増やすなど質的、量的な充実の指摘が多かった。学位や資格に必要な専門科目の充実をあげる一方で、リベラル・アーツ科目の開設を希望するものもある。教員の転出と科目数の減少でカリキュラムの水準が低下した、カリキュラムの一貫性に欠けるなど、厳しい指摘もあった。

(A2) 経済支援

授業料免除・奨学金制度は、世帯の収入で判定をおこなっているが、院生個人の収入を基準にする経済支援制度を要望する意見があった。

B. 教職員に対する要望・不満 (24)

(B1) 教員に対して

教員の授業にたいする不満の一つは、教員の多忙に由来し、授業回数が少ない教員、突然の授業日の変更、あるいは指導機会の乏しさなどがあがっている。いま一つは、研究支援体制の不十分さである。研究のやり方、論文の書き方の指導の充実や、論文の書式に関する情報の公表が望まれている。論文の構想について議論する機会がないという一方で、無駄な交流が多すぎるとの声もあった。教員とコミュニケーションが少なく、教員とのあいだに距離を感じているものもある。

(B2) 事務職員に対して

親切、丁寧な対応に感謝がよせられた一方で、多忙な学生と事務員に時間感覚の違いを感じるものもあった。要望としては、メールによる情報提供の充実や、備品の使用や補充についての連絡が取りやすい体制などがあげられた。

C. 施設に対する要望・不満 (55)

東京キャンパス校舎のリニューアルによって、学習・研究環境は少なからず改善されたと思われる。しかし、IT 環境、図書館、売店などは大きな改善がないという判断にもとづく不満・要望は、前回調査に引きつづいて施設に関する要望の主要部分をしめている。

(C2) IT (12)

IT 関連の要望・不満では、件数自体は少ないが、学内の各システムの ID、パスワードの統一を求める声が多かった。システムについては、「特殊過ぎて使い勝手が悪い」「学生のニーズを無視した一方的なシステム」という批判もある。

また、図書館・PC ルームのパソコンの管理・維持が不十分なため、トラブルの際の相談窓口がない、機種、OS、ソフトウェアのバージョンが古い点をあげられ、メンテナンスの充実が求められた。

(C3) 図書館 (6)

蔵書量が少なく古い書籍が多いという指摘とともに、専門書の充実がよく要望されている。社会人ならではの希望として、24 時間の開館のほかに、休日の開館・月曜日の休館を望む声がある。

(C4) 売店 (10)

仕事を終えて登校してくる社会人院生たちは、時間的な余裕があまりなく、キャンパス内で一定のニーズを満たせることが、研究に欠かせないと考えている。パンや飲料を提供する自動販売機が設置されているだけの現状には、少なからぬ不満がよせられた。「昼食もとれず我慢して授業をきいている」などの理由で、カフェや軽食がとれるラウンジが切望されている。また、教科書・参考書・文具などの購入できる売店施設の設置や、書籍のネット購入サービスの提供は必要だという。

(C5) その他 (8)

出産直後の保育サービス・学外の保育サービス施設の斡旋などの育児支援や、リラックスして体を休められる施設の設置、個人の荷物置き場を充実などがあげられた。

3. まとめ

東京キャンパスに在籍する大学院生は 703 人であり、今回調査の有効回答数 134 人のうち自由記述に記入したものは在籍者の 9.5% である。したがって本章でしめた記述は、東京キャンパスの大学院生の声を代表するものではない。自由記述の意義は、むしろ典型的な要望から問題の背景をあきらかにする、あるいは潜在的な課題をさぐるところにある。

社会人大大学院生は、職業活動と学習・研究の双方に携わるゆえに固有のニーズがあることが、あらためてあきらかになった。厳しい時間的な制約のなかで効率的に研究ができるような環境整備の要望はその典型であった。他方で、社会人である彼・彼女は、自身を教育サービスのユーザーとして明確に位置づけ、職業人として筑波大学と東京キャンパスに眼差しをむける。それによれば、非効率的なシステムの存在に驚き、改善の余地が少なからずあると映るようである。

自由記述を概観してみえてくる課題は、筑波大学の一般的な学生支援、研究支援と社会人大大学院生固有の対応をどのように融合させていくか、その方針の確立にある。それは筑波大学全体を構成する教職員

と学生の多様性が増大しつつある現在、多様性に応える契機としても意義がある。個別的には、繰り返し指摘される要望・不満、たとえば施設・設備や教員についてなんらかの取組をしめすことが望まれる。

【資料】

平成 24 年度筑波大学大学院学生
実態調査（東京地区）
データ集計表＜全体＞

I. あなた自身について

1. 性別

		全体	
		回答数	回答率
1	男性	88	65.7%
2	女性	44	32.8%
無効・無回答		2	1.5%
合計		134	100.0%

2. 年齢

		全体	
		回答数	回答率
1	29 歳以下	12	9.0%
2	30 ～ 39 歳	57	42.5%
3	40 ～ 49 歳	36	26.9%
4	50 ～ 59 歳	21	15.7%
5	60 歳以上	7	5.2%
無効・無回答		1	0.7%
合計		134	100.0%

3. 所属研究科

		全体	
		回答数	回答率
1	ビジネス科学研究科	95	70.9%
2	人間総合科学研究科	39	29.1%
無効・無回答		0	0.0%
合計		134	100.0%

4. 在籍年数

		全体	
		回答数	回答率
1	修士課程の 1 年目	28	20.9%
2	修士課程の 2 年目	13	9.7%
3	修士課程の 3 年目以上	1	0.7%
4	博士前期課程の 1 年目	16	11.9%
5	博士前期課程の 2 年目	12	9.0%
6	博士前期課程の 3 年目以上	2	1.5%
7	博士後期課程の 1 年目	7	5.2%
8	博士後期課程の 2 年目	4	3.0%
9	博士後期課程の 3 年目	4	3.0%
10	博士後期課程の 4 年目以上	2	1.5%
11	専門職学位課程の 1 年目	22	16.4%
12	専門職学位課程の 2 年目	13	9.7%
13	専門職学位課程の 3 年目	8	6.0%
14	専門職学位課程の 4 年目以上	2	1.5%
無効・無回答		0	0.0%
合計		134	100.0%

5. 外国人留学生

		全体	
		回答数	回答率
1	いいえ	117	87.3%
2	私費留学生	4	3.0%
3	文部科学省国費留学生	0	0.0%
4	文部科学省以外の日本の団体等の奨学生	0	0.0%
5	自国の奨学生	0	0.0%
6	その他	0	0.0%
無効・無回答		13	9.7%
合計		134	100.0%

6. 社会人の経験

		全体	
		回答数	回答率
1	ない	1	0.7%
2	在職中	114	85.1%
3	現在は休職中	3	2.2%
4	退・辞職し、現在、定職はない	12	9.0%
5	その他	2	1.5%
無効・無回答		2	1.5%
合計		134	100.0%

7. 職場の理解

		全体	
		回答数	回答率
1	学費の負担を含め、全面的に得られている	10	8.5%
2	就学に支障のない程度に得られている	73	62.4%
3	職場の休職制度利用	0	0.0%
4	職場の派遣制度利用	1	0.9%
5	職場のその他の制度利用	0	0.0%
6	職場には秘密にしている	21	17.9%
7	その他	9	7.7%
無効・無回答		4	3.4%
合計		118	

8. 志望理由

		全体	
		回答数	回答率
1	研究領域に魅力がある	35	26.1%
2	教育内容が優れている	24	17.9%
3	希望する分野がある	68	50.7%
4	指導教員の資質・能力、指導体制が優れている	42	31.3%
5	研究室の雰囲気の魅力がある	5	3.7%
6	教育・研究施設が優れている	12	9.0%
7	幅広い専門が学べる	22	16.4%
8	学費や生活費等の経済的な支援体制が充実している	10	7.5%
9	修了後の進路等就職に有利である	4	3.0%
10	修了年限の弾力的な運用がある	7	5.2%
11	親や指導教員等から勧められた	1	0.7%
12	自宅から通える	58	43.3%
13	資格等が取りやすい	5	3.7%
14	その他	26	19.4%
無効・無回答		1	0.7%
合計		320	

9. 入学前

		全体	
		回答数	回答率
1	筑波大学・大学院	11	8.2%
2	日本国内の他大学・大学院	106	79.1%
3	外国の大学・大学院	14	10.4%
無効・無回答		3	2.2%
合計		134	100.0%

10. 現在の住まい

		全体	
		回答数	回答率
1	自宅	71	53.0%
2	賃貸のアパート・マンション等	55	41.0%
3	親と同居	7	5.2%
4	親戚・知人宅	0	0.0%
5	その他	1	0.7%
無効・無回答		0	0.0%
合計		134	100.0%

11. 現在の居住地

		全体	
		回答数	回答率
1	東京都 23 区内	64	47.8%
2	東京都 23 区外	12	9.0%
3	千葉県	18	13.4%
4	埼玉県	8	6.0%
5	神奈川県	22	16.4%
6	上記以外の地域	9	6.7%
無効・無回答		1	0.7%
合計		134	100.0%

Ⅱ. 生活全般について

12. 家計支持者

		全体	
		回答数	回答率
1	あなた自身	112	83.6%
2	配偶者	14	10.4%
3	父親・母親	4	3.0%
4	両親以外の親族	0	0.0%
5	その他	1	0.7%
無効・無回答		3	2.2%
合計		134	100.0%

13. 奨学金の受給

		全体	
		回答数	回答率
1	受けていない	123	91.8%
2	日本学生支援機構の奨学金	7	5.2%
3	私費外国人留学生学習奨励費	0	0.0%
4	地方公共団体の奨学金	0	0.0%
5	日本の民間団体・財団等の奨学金	1	0.7%
6	日本学術振興会の特別研究員	0	0.0%
7	文部科学省国費留学生	0	0.0%
8	自国政府の奨学金（留学生の場合）	0	0.0%
9	その他	0	0.0%
無効・無回答		3	2.2%
合計		134	100.0%

14. 「つくばスカラシップ」制度

		全体	
		回答数	回答率
1	知っている	25	18.7%
2	知らない	107	79.9%
無効・無回答		2	1.5%
合計		134	100.0%

15. 「つくばスカラシップ」制度の利用希望・希望する支援内容

		全体	
		回答数	回答率
1	希望しない	16	64.0%
2	留学生支援	1	4.0%
3	海外留学支援	0	0.0%
4	国際的医学研究人養成コース支援	0	0.0%
5	緊急支援	1	4.0%
無効・無回答		7	28.0%
合計		25	

16. 希望する経済支援

		全体	
		回答数	回答率
1	特に希望しない	47	35.1%
2	給付型（返還義務なし）奨学金	53	39.6%
3	貸与型（返還義務あり）奨学金	18	13.4%
4	授業料免除	48	35.8%
5	一時貸付金	8	6.0%
6	その他	6	4.5%
無効・無回答		7	5.2%
合計		187	

16-5. 一時貸付金の必要理由

		全体	
		回答数	回答率
1	授業料のため	6	75.0%
2	生活費のため	2	25.0%
3	その他	0	0.0%
無効・無回答		1	12.5%
合計		9	

17. 収入源

		全体	
		回答数	回答率
1	正社員としての給与	104	77.6%
2	民間会社の契約社員や派遣社員	3	2.2%
3	不定期的アルバイト	5	3.7%
4	他大学での非常勤講師	3	2.2%
5	奨学金	1	0.7%
6	仕送り	0	0.0%
7	借入金	0	0.0%
8	その他	21	15.7%
無効・無回答		3	2.2%
合計		140	

18.1 ヶ月の生活費・研究活動費

		全体	
		回答数	回答率
1	充分である	31	23.1%
2	まあまあ足りている	51	38.1%
3	ぎりぎりである	34	25.4%
4	授業料の納入ができない	6	4.5%
5	研究時間確保でアルバイトができない	1	0.7%
6	研究用資料・書籍が購入できない	11	8.2%
7	IT環境を整備できない	4	3.0%
8	学会・研究会等に行けない	10	7.5%
9	研究のための調査に行けない	7	5.2%
10	研究論文の投稿料・査読料・掲載料が払えない	3	2.2%
11	その他	3	2.2%
無効・無回答		3	2.2%
合計		164	

19. 平均的な時間

		平均時刻	
1	起床時刻	6	時頃
2	就寝時刻	24	時頃

20. 食事

		全体	
		回答数	回答率
1	通学前	25	18.7%
2	在校中	34	25.4%
3	帰宅後	65	48.5%
4	とらない	7	5.2%
無効・無回答		3	2.2%
合計		134	100.0%

21. 食事方法

		全体	
		回答数	回答率
1	軽食を持参	30	88.2%
2	学内に設置の軽食用自販機を利用	0	0.0%
3	大学付近の飲食店を利用	3	8.8%
4	その他	2	5.9%
無効・無回答		1	2.9%
合計		36	

22. 日常生活満足度

		全体	
		回答数	回答率
1	かなり満足	17	12.7%
2	おおむね満足	67	50.0%
3	どちらとも言えない	33	24.6%
4	少し不満	13	9.7%
5	かなり不満	3	2.2%
無効・無回答		1	0.7%
合計		134	100.0%

24. ハラスメント

		セクハラ		アカハラ		パワハラ	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	感じたことはない	95	70.9%	86	64.2%	88	65.7%
2	感じたことがあるが誰にも話をしていない	0	0.0%	2	1.5%	5	3.7%
3	感じたことがあり親しい友人に話した	2	1.5%	7	5.2%	4	3.0%
4	感じたことがあり知り合いの教員に話した	1	0.7%	1	0.7%	0	0.0%
5	研究科・専攻のハラスメント担当教員に話した	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6	全学に設置されているハラスメント相談員に話した	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無効・無回答		37	27.6%	39	29.1%	37	27.6%
合計		135		135		134	

Ⅲ. 通学・ハラスメント等について

23. 職場からの通学時間（片道）

		全体	
		回答数	回答率
1	15分未満	5	3.7%
2	15分～30分	35	26.1%
3	30分～45分	31	23.1%
4	45分～1時間	20	14.9%
5	1時間～1時間半	22	16.4%
6	1時間半～2時間	14	10.4%
7	2時間以上	6	4.5%
無効・無回答		1	0.7%
合計		134	100.0%

IV. 健康状態について

25. 健康状態（過去1年間）

		全体	
		回答数	回答率
1	健康である	92	68.7%
2	健康不良で数日寝込んだ (受診・入院を除く)	16	11.9%
3	身体の病気で受診・入院した	19	14.2%
4	精神的な問題で受診・入院した	3	2.2%
5	心理的な問題で相談機関を利用した	3	2.2%
6	けがで受診・入院した	4	3.0%
7	その他	6	4.5%
無効・無回答		1	0.7%
合計		144	

26. 悩みの原因（過去1年間）

		全体	
		回答数	回答率
1	学業と仕事の両立	87	64.9%
2	学業や研究の不振	31	23.1%
3	単位修得の問題	17	12.7%
4	休学・退学	4	3.0%
5	転研究科・転専攻	2	1.5%
6	友人との関係	5	3.7%
7	教員との関係	5	3.7%
8	研究室内の問題	5	3.7%
9	恋愛関係	10	7.5%
10	家族関係	13	9.7%
11	自分の性格	11	8.2%
12	自分の精神的・心理的状态	19	14.2%
13	自分の身体的病気・けが等の状態	14	10.4%
14	経済状態	25	18.7%
15	ハラスメント	2	1.5%
16	その他	11	8.2%
17	特にない	20	14.9%
無効・無回答		1	0.7%
合計		282	

27. 感じ方（過去1年間）

		とてもあてはまる		少しあてはまる		あまりあてはまらない		まったくあてはまらない		無効・無回答		合計	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	自分のやりたいことができています	46	34.3%	66	49.3%	19	14.2%	0	0.0%	3	2.2%	134	100.0%
2	何となく不安になることがある	15	11.2%	66	49.3%	34	25.4%	14	10.4%	5	3.7%	134	100.0%
3	自分のことをよく分かってくれている人がある	55	41.0%	49	36.6%	21	15.7%	5	3.7%	4	3.0%	134	100.0%
4	何をやってもうまくいかない気がする	6	4.5%	29	21.6%	68	50.7%	27	20.1%	4	3.0%	134	100.0%
5	気分がゆううつである	7	5.2%	26	19.4%	59	44.0%	38	28.4%	4	3.0%	134	100.0%
6	「死にたい」と思ったことがある	3	2.2%	9	6.7%	28	20.9%	89	66.4%	5	3.7%	134	100.0%
7	大学生活が充実している	46	34.3%	69	51.5%	13	9.7%	1	0.7%	5	3.7%	134	100.0%

V. 相談相手について

28. 相談相手

	1 番目		2 番目		3 番目	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 家族	66	49.3%	14	10.4%	6	4.5%
2 職場の同僚	5	3.7%	20	14.9%	6	4.5%
3 職場の上司	3	2.2%	4	3.0%	8	6.0%
4 恋人	7	5.2%	3	2.2%	1	0.7%
5 友人（学内）	3	2.2%	10	7.5%	12	9.0%
6 友人（学外）	13	9.7%	26	19.4%	12	9.0%
7 教員	0	0.0%	1	0.7%	6	4.5%
8 その他	0	0.0%	1	0.7%	1	0.7%
9 特にいない	13	9.7%	1	0.7%	2	1.5%
無効・無回答	24	17.9%	54	40.3%	80	59.7%
合計	134	100.0%	134	100.0%	134	100.0%

29. 相談相手と話す機会

	頻繁にある		少しある		あまりない		ほとんどない		無効・無回答		合計	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
A 1 番目の人とは	77	79.4%	14	14.4%	3	3.1%	1	1.0%	2	2.1%	97	100.0%
B 2 番目の人とは	34	43.0%	38	48.1%	3	3.8%	2	2.5%	2	2.5%	79	100.0%
C 3 番目の人とは	17	32.7%	27	51.9%	6	11.5%	1	1.9%	1	1.9%	52	100.0%

VI. 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について

30. 教員に期待すること

	全体	
	回答数	回答率
1 優れた研究者であって欲しい	28	20.9%
2 授業内容を充実させて欲しい	44	32.8%
3 もっと解りやすく教えて欲しい	18	13.4%
4 研究指導の時間を確保して欲しい	15	11.2%
5 ハラスメントの問題に敏感になって欲しい	0	0.0%
6 研究成果を教育の現場にもっと反映して欲しい	6	4.5%
7 その他	4	3.0%
無効・無回答	19	14.2%
合計	134	100.0%

31. 教育面や制度面で不十分な点

	全体	
	回答数	回答率
1 教育研究スタッフ	49	36.6%
2 カリキュラム	88	65.7%
3 留学制度	11	8.2%
4 授業料免除等の経済的支援	47	35.1%
5 教員との懇談会	17	12.7%
6 支援室や事務室の対応	19	14.2%
7 メンタル面に関する支援	0	0.0%
8 その他	13	9.7%
無効・無回答	3	2.2%
合計	247	

32. 整備・充実してほしい施設等

		全体	
		回答数	回答率
1	教室・実験室	41	30.6%
2	図書館	73	54.5%
3	IT 環境	55	41.0%
4	セキュリティ	7	5.2%
5	駐車場	12	9.0%
6	外灯	5	3.7%
7	その他	35	26.1%
無効・無回答		4	3.0%
合計		232	

Ⅶ. その他について

33. 情報取得源

		全体	
		回答数	回答率
1	指導教員	46	34.3%
2	研究科・専攻の事務職員	40	29.9%
3	友人等	63	47.0%
4	研究科・専攻の掲示版	36	26.9%
5	TWINS 掲示版	19	14.2%
6	大学の HP	25	18.7%
7	研究科・専攻等の HP	48	35.8%
8	専攻等のメーリングリスト	26	19.4%
9	SNS (social networking service)	4	3.0%
10	その他	2	1.5%
無効・無回答		0	0.0%
合計		309	

34. 必要な相談機関

		全体	
		回答数	回答率
1	健康に関する相談	22	16.4%
2	精神・保健に関する相談	24	17.9%
3	ワーク・ライフ・バランス相談	51	38.1%
4	その他何でも相談	49	36.6%
無効・無回答		22	16.4%
合計		168	

35. 学外研修施設利用の有無

		全体	
		回答数	回答率
1	ある	0	0.0%
2	ない	70	52.2%
3	存在を知らない	62	46.3%
無効・無回答		2	1.5%
合計		134	100.0%

平成 24 年度学生実態調査 [大学院]

平成 25 年 3 月発行

編集 学生生活支援室
表紙デザイン：田中佐代子（芸術系 准教授）
発行 筑波大学
つくば市天王台 1-1-1
☎ 029 (853) 2959

University of Tsukuba

